

大阪市感染症発生動向調査事業報告書
(結核を除く)
2023年(令和5年)版

大阪市

目次

2023年における事業概要	1
1 定点把握感染症（新型コロナウイルス感染症を除く）	2
1) 小児科定点把握疾患（週報）	
ア RSウイルス感染症	4
イ 咽頭結膜熱	5
ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6
エ 感染性胃腸炎	7
オ 水痘	8
カ 手足口病	9
キ 伝染性紅斑	10
ク 突発性発しん	11
ケ ヘルパンギーナ	12
コ 流行性耳下腺炎	13
2) インフルエンザ／COVID-19 定点把握疾患（週報）	
ア インフルエンザ	14
イ COVID-19	50参照
3) 眼科定点把握疾患（週報）	
ア 急性出血性結膜炎	16
イ 流行性角結膜炎	17
4) 基幹定点把握疾患（週報）	
ア 細菌性髄膜炎	18
イ 無菌性髄膜炎	19
ウ マイコプラズマ肺炎	20
エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）	21
オ 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）	22
5) 基幹定点把握疾患（月報）	23
6) 性感染症定点把握疾患（月報）	24
ア 性器クラミジア感染症	25
イ 性器ヘルペスウイルス感染症	25
ウ 尖圭コンジローマ	26
エ 淋菌感染症	26
2 一～五類全数把握感染症（新型コロナウイルス感染症を除く）	27
3 新型コロナウイルス感染症	
ア 新型インフルエンザ等感染症	46
イ インフルエンザ／COVID-19 定点把握疾患	
COVID-19	50

4 その他

大阪市感染症発生動向調査事業実施要綱	5 3
大阪市感染症発生動向調査委員会規則	6 2
大阪市感染症発生動向調査委員会運営要領	6 4
大阪市感染症発生動向調査委員会委員名簿	6 6
大阪市感染症発生動向調査指定届出機関一覧	6 7

2023年における事業概要

大阪市における感染症発生動向調査事業は、昭和57年に調査事業を開始して以来、現在では、大阪府及び府下保健所設置市との密接な連携と、大阪府医師会、定点医療機関などの協力のもと行っている。

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、感染症法という。）では、一類から五類感染症（全数把握と定点把握）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を対象感染症とし、情報の収集・分析・提供・公開を行っている。

本事業で定点把握対象の五類感染症の発生状況を届け出る「指定届出機関（定点）」は、小児科定点、インフルエンザ/COVID-19 定点、眼科定点、基幹定点及び性感染症定点から成っている。また、2008年4月1日より感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省で定める疑似症について、疑似症定点からの報告を受けている。

2023年12月末の指定数は、小児科定点57、インフルエンザ/COVID-19 定点84、眼科定点17、基幹定点4、性感染症定点18、疑似症定点10である。

1 患者情報の収集

医療機関からの患者情報を、全数把握対象感染症は直ちにまたは7日以内に、定点把握対象感染症は週単位（一部月単位）で収集している。さらに、収集した情報はオンラインシステムにより国立感染症研究所（中央感染症情報センター）に報告している。

2 情報の解析・評価

学識経験者、医療関係団体・医療施設等の代表者、関係行政機関の職員等により構成される大阪市感染症発生動向調査委員会において、収集した情報の解析・評価を行っている。

3 情報の提供・公開

収集した感染症情報を大阪市感染症週報などにより定点医療機関、大阪府医師会など関連機関に広く情報提供している。また、市ホームページにも感染症情報を掲載し、市民への情報提供も行っている。

4 病原体情報の収集

患者定点の中から病原体定点を選定し、これらの病原体定点から提供される検体について、微生物検査を地方衛生研究所である地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所において行っている。

1 定点把握感染症（新型コロナウイルス感染症を除く）

大阪市ブロック別区対照表

北部	北区、都島区、東淀川区、旭区、淀川区
西部	福島区、港区、此花区、大正区、西区、西淀川区
東部	中央区、生野区、天王寺区、城東区、浪速区、鶴見区、東成区
南部	阿倍野区、平野区、住之江区、西成区、住吉区、東住吉区



警報・注意報の基準値

対象疾患	警報		注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A 群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

2023年感染症発生動向調査 カレンダー

週	調査対象期間					週	調査対象期間				
1	1/2	(月)	～	1/8	(日)	27	7/3	(月)	～	7/9	(日)
2	1/9	(月)	～	1/15	(日)	28	7/10	(月)	～	7/16	(日)
3	1/16	(月)	～	1/22	(日)	29	7/17	(月)	～	7/23	(日)
4	1/23	(月)	～	1/29	(日)	30	7/24	(月)	～	7/30	(日)
5	1/30	(月)	～	2/5	(日)	31	7/31	(月)	～	8/6	(日)
6	2/6	(月)	～	2/12	(日)	32	8/7	(月)	～	8/13	(日)
7	2/13	(月)	～	2/19	(日)	33	8/14	(月)	～	8/20	(日)
8	2/20	(月)	～	2/26	(日)	34	8/21	(月)	～	8/27	(日)
9	2/27	(月)	～	3/5	(日)	35	8/28	(月)	～	9/3	(日)
10	3/6	(月)	～	3/12	(日)	36	9/4	(月)	～	9/10	(日)
11	3/13	(月)	～	3/19	(日)	37	9/11	(月)	～	9/17	(日)
12	3/20	(月)	～	3/26	(日)	38	9/18	(月)	～	9/24	(日)
13	3/27	(月)	～	4/2	(日)	39	9/25	(月)	～	10/1	(日)
14	4/3	(月)	～	4/9	(日)	40	10/2	(月)	～	10/8	(日)
15	4/10	(月)	～	4/16	(日)	41	10/9	(月)	～	10/15	(日)
16	4/17	(月)	～	4/23	(日)	42	10/16	(月)	～	10/22	(日)
17	4/24	(月)	～	4/30	(日)	43	10/23	(月)	～	10/29	(日)
18	5/1	(月)	～	5/7	(日)	44	10/30	(月)	～	11/5	(日)
19	5/8	(月)	～	5/14	(日)	45	11/6	(月)	～	11/12	(日)
20	5/15	(月)	～	5/21	(日)	46	11/13	(月)	～	11/19	(日)
21	5/22	(月)	～	5/28	(日)	47	11/20	(月)	～	11/26	(日)
22	5/29	(月)	～	6/4	(日)	48	11/27	(月)	～	12/3	(日)
23	6/5	(月)	～	6/11	(日)	49	12/4	(月)	～	12/10	(日)
24	6/12	(月)	～	6/18	(日)	50	12/11	(月)	～	12/17	(日)
25	6/19	(月)	～	6/25	(日)	51	12/18	(月)	～	12/24	(日)
26	6/26	(月)	～	7/2	(日)	52	12/25	(月)	～	12/31	(日)

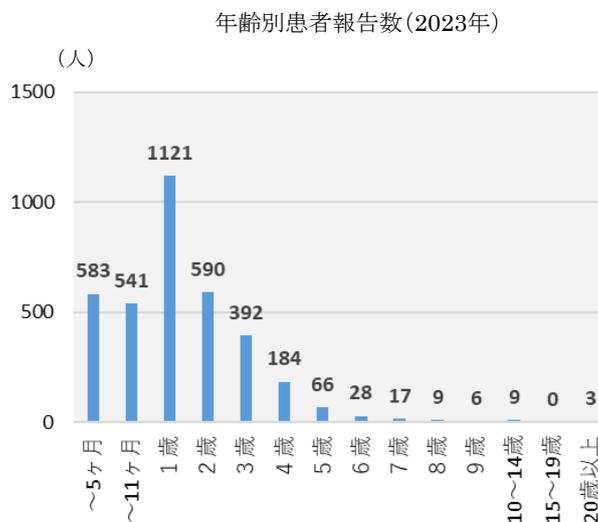
1) 小児科定点把握疾患(週報)

ア RSウイルス感染症

2023年のRSウイルス感染症の報告数は3,549人、定点当たり報告数の年平均は1.21であった。

例年、秋から冬にかけて流行がみられるが、2023年においては春先から流行がみられ、ピークは第17週の4.11であった。

年齢別患者報告数は、1歳の1,121人が最も多く、次いで2歳の590人、0~5ヶ月の583人と続き、3歳以下で全体の91.0%を占めている。



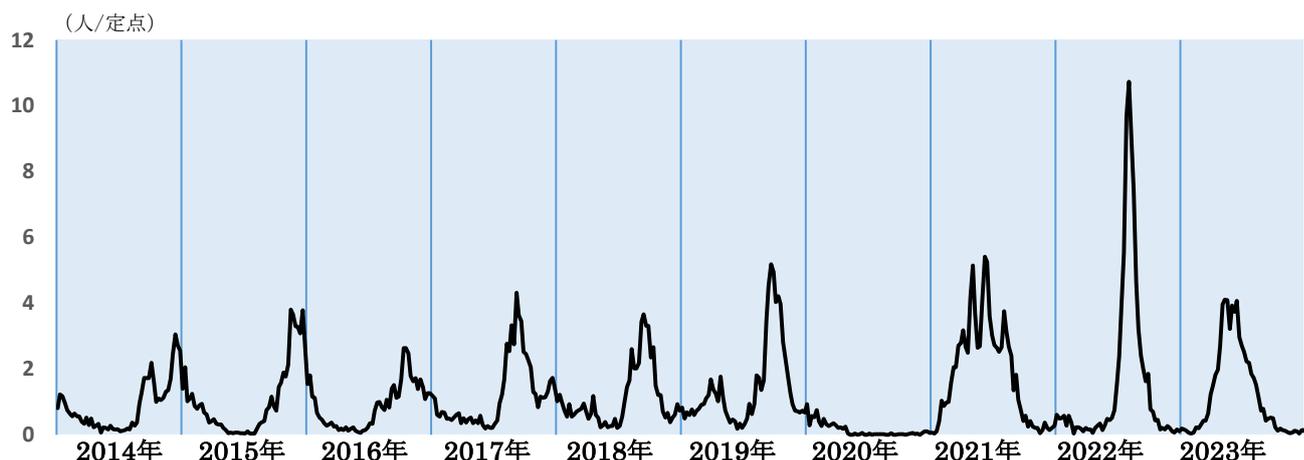
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.13	0.05	0.04	0.07	0.23	0.20	0.30	0.43	0.43	0.64	1.23	1.48	1.82	1.98	2.70	3.96	4.11	4.09
北部	0.14	0.07	0.14	0.14	0.36	0.50	0.50	0.64	0.64	0.57	1.86	2.57	3.21	3.29	4.43	5.57	5.43	8.21
西部	0.30	0.10	0.00	0.00	0.40	0.30	0.40	0.30	0.70	1.00	1.90	2.00	1.20	1.50	2.40	3.50	3.90	3.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.14	0.07	0.00	0.14	0.57	0.36	0.21	0.64	0.86	1.36	1.79	2.36	3.71	3.71	2.71
南部	0.11	0.06	0.00	0.00	0.17	0.06	0.22	0.22	0.17	0.83	0.83	0.83	1.44	1.39	1.78	3.17	3.50	2.56

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	3.21	3.93	3.74	4.07	2.96	2.70	2.53	2.23	2.19	1.86	1.72	1.53	1.14	0.73	0.79	0.43	0.48	0.53
北部	4.14	5.14	5.64	7.93	4.43	4.29	5.00	3.50	3.57	3.14	2.93	2.50	2.07	1.14	1.57	0.93	0.79	0.79
西部	3.00	3.70	2.40	2.40	1.80	3.70	2.80	1.80	3.10	2.00	1.50	2.30	0.70	1.10	0.80	0.40	0.70	0.60
東部	2.50	2.71	3.33	3.93	3.20	1.47	1.40	1.93	1.60	1.53	1.53	0.80	1.00	0.71	0.21	0.29	0.14	0.60
南部	3.17	4.06	3.33	2.11	2.28	1.94	1.39	1.72	1.11	1.06	1.06	0.94	0.78	0.22	0.61	0.17	0.39	0.22

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.51	0.23	0.12	0.19	0.14	0.12	0.09	0.05	0.07	0.12	0.11	0.04	0.14	0.14	0.04	0.09	1.21
北部	0.71	0.29	0.21	0.50	0.50	0.21	0.21	0.07	0.07	0.36	0.29	0.14	0.29	0.29	0.14	0.07	1.96
西部	0.90	0.30	0.20	0.40	0.00	0.10	0.10	0.20	0.10	0.10	0.00	0.00	0.30	0.20	0.00	0.20	1.17
東部	0.53	0.33	0.13	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.94
南部	0.11	0.06	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.00	0.06	0.06	0.11	0.00	0.00	0.06	0.00	0.11	0.86

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)



イ 咽頭結膜熱

2023年の咽頭結膜熱の報告数は4,258人、定点当たり報告数の年平均は1.44であった。2023年は過去10年において最も多い報告数であった。

例年、夏期と冬の二峰性の流行をみせるが、2023年においては第31週に定点当たり報告数3.30となり警報開始基準値3を上回り、第52週に0.75となり終息基準値1を下回った。ピークは第37週の4.04であった。

年齢別患者報告数は、1歳の733人が最も多く、次いで3歳の705人、4歳の680人と続き、5歳以下で全体の82.2%を占めている。



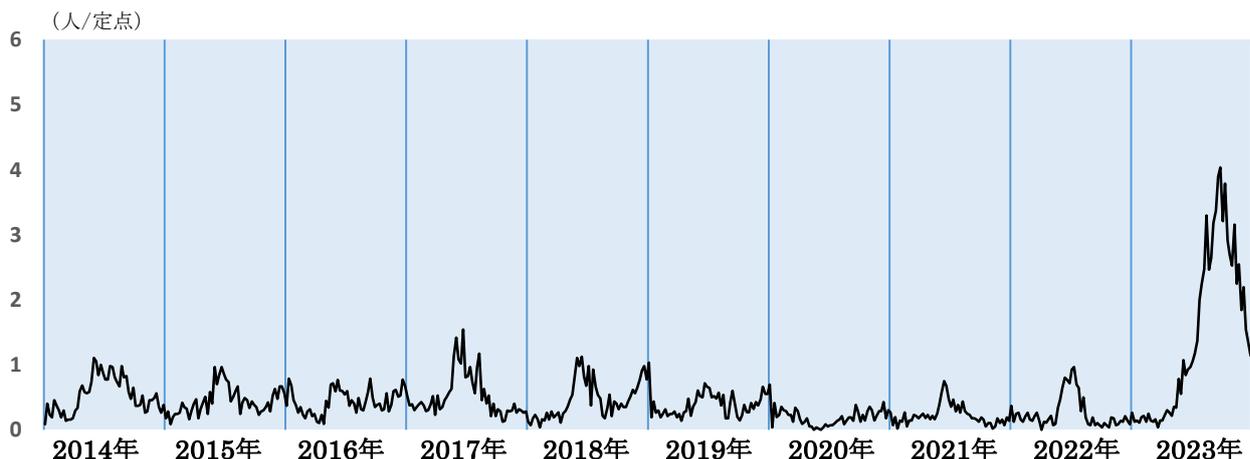
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.14	0.11	0.20	0.21	0.13	0.25	0.14	0.13	0.16	0.04	0.14	0.14	0.23	0.30	0.27	0.21	0.36	0.34
北部	0.07	0.21	0.00	0.07	0.07	0.36	0.14	0.14	0.14	0.00	0.14	0.14	0.14	0.30	0.43	0.29	0.21	0.29
西部	0.10	0.00	0.00	0.10	0.30	0.40	0.10	0.10	0.00	0.00	0.20	0.20	0.40	0.20	0.30	0.30	0.60	0.20
東部	0.14	0.07	0.36	0.29	0.14	0.14	0.07	0.21	0.36	0.07	0.07	0.07	0.29	0.36	0.07	0.21	0.21	0.00
南部	0.22	0.11	0.33	0.33	0.06	0.17	0.22	0.06	0.11	0.06	0.17	0.17	0.17	0.17	0.28	0.11	0.44	0.72

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.79	0.55	1.07	0.84	0.93	0.96	1.05	1.18	1.37	2.00	2.25	2.47	3.30	2.46	2.64	3.18	3.38	3.89
北部	0.93	0.36	0.79	0.57	0.86	0.43	0.57	0.93	1.00	1.86	0.86	0.57	1.43	1.50	1.64	1.71	2.21	3.86
西部	0.70	0.30	1.40	0.90	1.20	1.10	0.90	0.60	0.60	1.60	1.70	2.70	3.30	3.00	1.70	3.30	2.70	2.50
東部	0.57	0.86	1.27	1.33	1.07	1.27	1.00	1.20	1.40	1.87	2.33	2.40	3.40	2.50	1.86	3.21	3.71	3.60
南部	0.89	0.61	0.94	0.61	0.72	1.06	1.56	1.67	2.06	2.44	3.56	3.89	4.67	2.89	4.56	4.22	4.39	4.94

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	4.04	3.21	3.79	2.91	2.68	2.53	3.16	2.25	2.54	1.84	2.19	1.54	1.33	1.14	1.26	0.75	1.44
北部	4.36	3.14	3.79	3.43	2.86	2.79	3.86	2.36	4.57	1.64	2.57	2.14	1.07	1.79	1.93	1.43	1.33
西部	3.20	3.50	3.40	2.70	2.40	2.60	2.60	2.10	1.10	1.40	1.50	0.60	0.40	0.60	0.50	0.20	1.20
東部	3.87	3.13	4.73	2.80	3.20	2.60	3.67	2.53	3.13	2.07	1.73	1.33	1.80	0.87	1.33	0.73	1.49
南部	4.39	3.17	3.22	2.72	2.28	2.22	2.50	2.00	1.28	2.06	2.67	1.78	1.67	1.17	1.11	0.56	1.62

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2023年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は6,403人、定点当たり報告数の年平均は2.17であった。2023年は過去10年において最も多い報告数であった。

例年、春から初夏と冬期の二峰性の流行をみせる。2020年の後半以降流行がみられていなかったが、2023年においては例年通り二峰性の流行がみられ、ピークは第49週の5.61であった。

年齢別患者報告数は、5歳の927人が最も多く、次いで4歳の886人、6歳の832人と続いた。



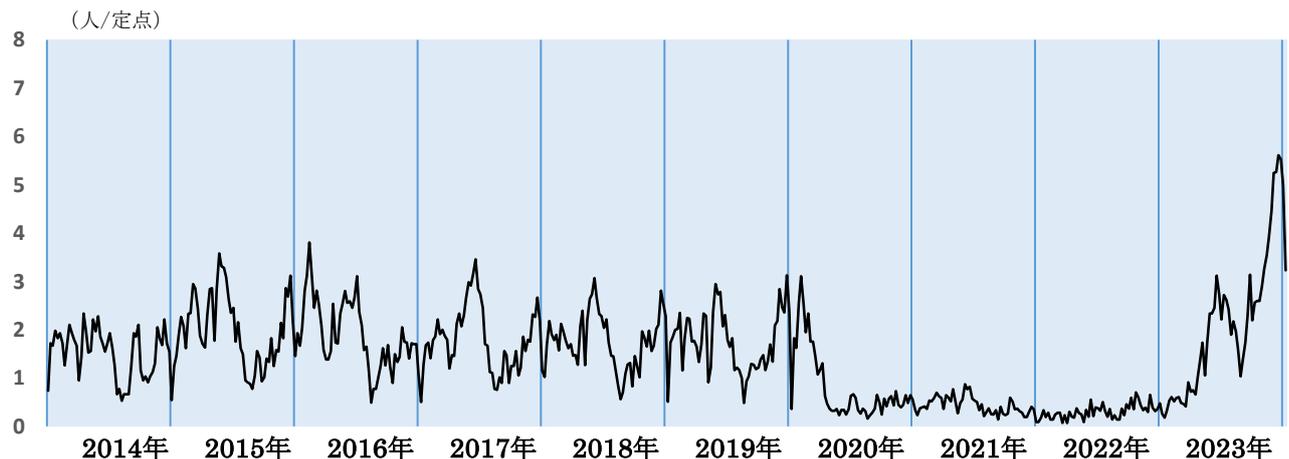
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.18	0.32	0.54	0.61	0.52	0.59	0.61	0.48	0.46	0.41	0.91	0.71	0.75	0.66	1.02	1.39	1.73	1.05
北部	0.14	0.14	0.57	0.21	0.43	0.43	0.36	0.43	0.36	0.14	0.50	1.07	1.07	0.79	1.14	2.07	2.21	1.14
西部	0.10	0.00	0.30	0.10	0.00	0.10	0.10	0.50	0.00	0.20	1.20	0.30	0.10	0.10	0.20	0.20	0.20	0.10
東部	0.07	0.29	0.14	0.07	0.21	0.14	0.29	0.21	0.36	0.29	0.29	0.21	0.79	0.57	0.36	0.79	1.50	0.43
南部	0.33	0.67	0.94	1.61	1.11	1.33	1.33	0.72	0.89	0.83	1.56	1.06	0.83	0.94	1.89	2.00	2.39	2.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	1.73	2.34	2.33	2.46	3.12	2.74	2.21	2.72	2.61	2.42	1.89	2.18	1.96	1.59	1.04	1.38	1.73	2.28
北部	1.86	2.43	2.57	2.07	2.57	1.86	2.29	2.07	1.57	1.86	1.21	0.64	0.79	1.07	1.00	0.86	0.86	1.21
西部	0.40	0.80	1.30	0.70	2.10	1.60	1.40	1.90	2.80	2.70	1.70	1.70	1.30	1.80	0.60	1.50	1.80	2.30
東部	1.21	2.21	2.07	2.53	2.73	3.00	2.27	2.80	2.73	2.40	1.67	2.40	1.67	1.36	0.43	1.21	1.50	2.07
南部	2.78	3.22	2.94	3.67	4.44	3.83	2.56	3.61	3.22	2.72	2.72	3.44	3.50	2.06	1.78	1.83	2.56	3.28

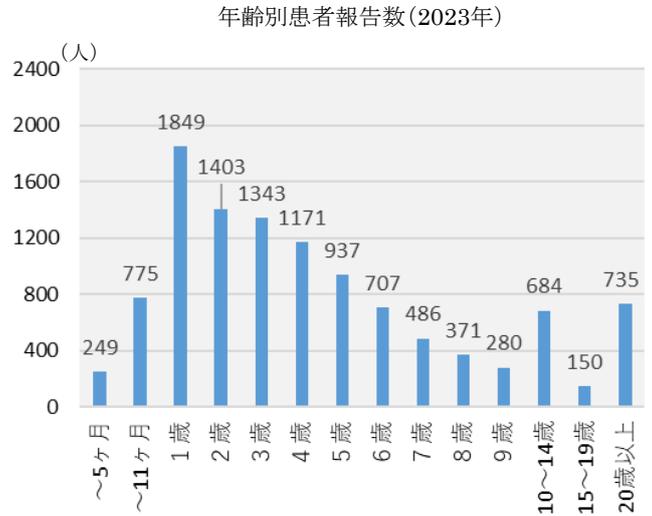
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	3.14	2.19	2.56	2.60	2.60	2.91	3.26	3.54	3.93	4.46	5.25	5.26	5.61	5.53	4.98	3.23	2.17
北部	2.00	1.14	1.29	1.43	1.07	1.71	2.14	1.29	1.86	1.71	2.14	3.50	3.36	3.71	3.86	1.86	1.46
西部	3.90	1.90	2.70	3.90	2.90	3.50	4.50	6.20	5.20	7.50	8.70	8.00	7.90	7.40	6.10	4.10	2.24
東部	2.33	2.20	3.27	2.53	2.80	2.73	2.13	3.40	4.20	3.13	5.07	4.07	4.67	5.53	3.67	2.13	1.87
南部	4.28	3.17	2.89	2.83	3.44	3.67	4.39	3.94	4.61	6.00	5.89	6.11	6.89	5.89	6.33	4.72	2.92

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)



エ 感染性胃腸炎

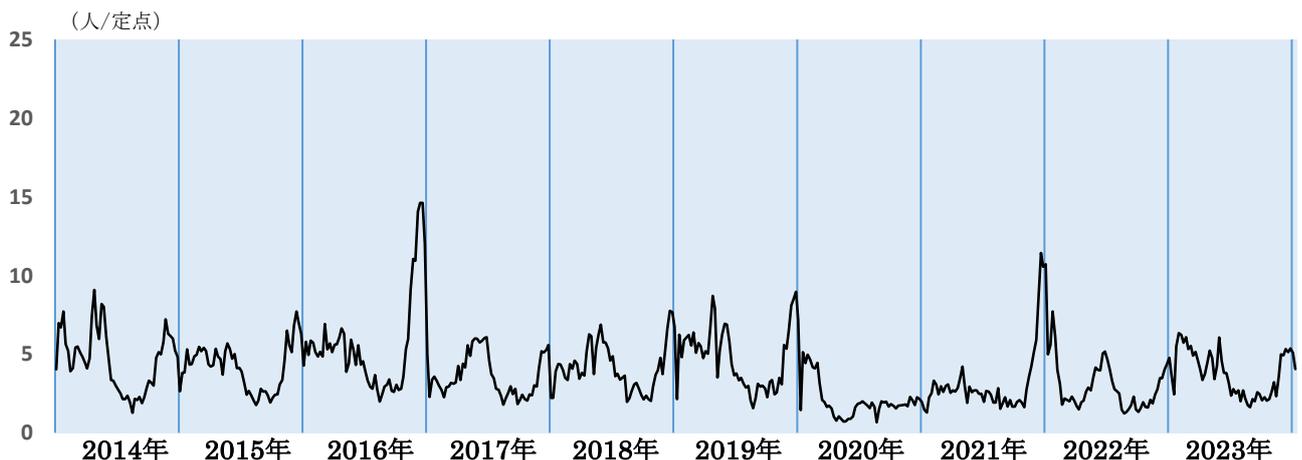
2023年の感染性胃腸炎の報告数は11,140人、定点当たり報告数の年平均は3.79であった。
 例年、春から初夏と冬期の二峰性の流行があり、ピークは第3週の6.34であった。
 年齢別患者報告数は、1歳の1,849人が最も多く、次いで2歳の1,403人、3歳の1,343人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	2.45	5.50	6.34	6.21	5.71	6.09	5.32	5.52	4.91	5.14	4.63	4.02	3.36	3.75	4.50	5.21	4.75	3.41
北部	3.86	6.29	8.36	9.64	8.00	8.00	9.00	6.79	6.07	6.71	6.00	4.00	2.50	4.21	4.57	7.43	7.07	5.29
西部	3.20	8.80	7.00	5.40	8.10	5.60	4.70	6.90	5.90	5.60	4.30	5.70	4.90	4.80	5.20	4.60	3.40	2.90
東部	0.71	3.00	4.36	3.64	3.50	4.50	2.36	1.93	3.07	3.00	3.14	2.50	2.29	2.57	2.93	3.57	3.21	1.43
南部	2.28	5.00	5.94	6.00	4.33	6.11	5.11	6.56	4.89	5.33	4.89	4.28	4.00	3.72	5.28	5.11	4.89	3.78
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	4.25	6.05	4.56	3.81	3.79	3.21	2.35	2.77	2.51	2.70	2.00	2.70	2.16	1.75	1.63	2.14	2.00	2.58
北部	6.14	7.14	5.36	4.50	4.71	3.71	2.93	3.50	2.71	3.21	1.64	3.43	3.14	2.43	2.86	2.50	2.14	3.07
西部	3.40	8.50	2.40	4.90	2.60	2.70	2.10	2.70	1.30	3.00	1.70	1.70	1.60	0.80	1.00	1.90	1.30	1.40
東部	1.36	2.50	3.00	1.87	2.13	2.07	1.20	1.33	2.27	1.67	1.27	1.07	0.67	1.21	0.29	0.86	1.29	1.60
南部	5.50	6.61	6.44	4.28	5.11	4.06	3.00	3.44	3.22	3.00	3.06	4.06	2.94	2.17	2.06	3.00	2.83	3.67
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	2.46	2.05	2.26	2.04	2.14	2.58	3.21	2.32	3.56	4.98	4.93	5.33	5.12	5.37	5.09	4.05	3.79	
北部	2.43	2.64	2.50	1.86	2.29	2.29	3.07	2.79	3.36	5.64	5.43	6.07	5.93	7.43	5.64	4.64	4.67	
西部	1.70	0.80	1.10	1.90	1.60	2.40	3.90	1.90	1.50	4.30	4.20	5.20	4.00	5.70	5.00	3.71	3.71	
東部	1.80	0.87	1.27	1.00	0.87	1.13	1.53	1.67	1.87	3.80	3.33	3.40	3.87	4.00	3.80	1.40	2.21	
南部	3.44	3.28	3.56	3.11	3.39	4.11	4.33	2.72	6.28	5.83	6.28	6.44	6.17	4.72	5.28	5.28	4.43	

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)

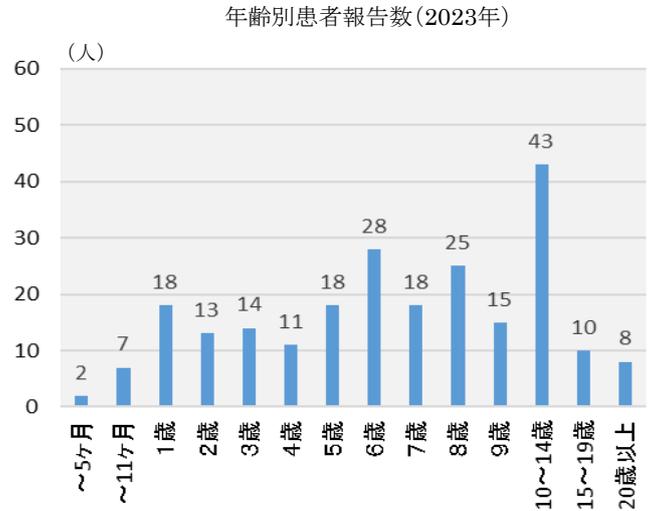
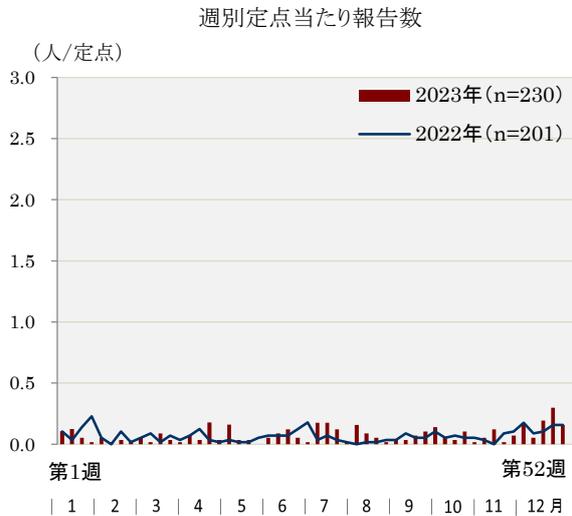


オ 水痘

2023年の水痘の報告数は230人、定点当たり報告数の年平均は0.08であった。2023年は過去10年において2番目に少ない報告数であった。

2014年10月の水痘ワクチンの定期接種導入以降は報告数が減少している。

年齢別患者報告数は、10～14歳の43人が最も多く、次いで6歳の28人、8歳の25人と続いた。



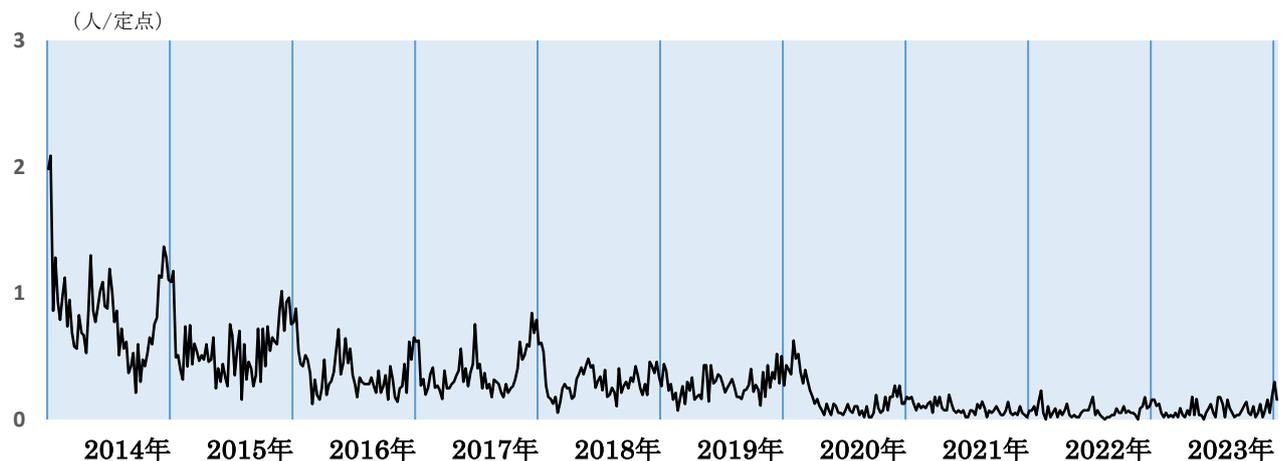
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.11	0.13	0.05	0.02	0.05	0.02	0.04	0.02	0.05	0.02	0.09	0.04	0.02	0.07	0.04	0.18	0.04	0.16
北部	0.21	0.21	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.07	0.00	0.07	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00
西部	0.20	0.20	0.20	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.10	0.20	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.00	0.10
東部	0.00	0.14	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.14	0.00	0.00	0.14	0.00	0.07	0.00	0.00
南部	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.11	0.06	0.44	0.06	0.44

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.04	0.04	0.00	0.05	0.09	0.12	0.05	0.02	0.18	0.18	0.12	0.02	0.16	0.09	0.05	0.02	0.04	0.04
北部	0.00	0.00	0.00	0.14	0.21	0.00	0.07	0.00	0.43	0.07	0.07	0.00	0.21	0.07	0.07	0.07	0.00	0.07
西部	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.30	0.30	0.00	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.07	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.11	0.00	0.06	0.11	0.39	0.11	0.06	0.11	0.28	0.17	0.06	0.22	0.00	0.11	0.00	0.11	0.06

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.07	0.11	0.14	0.05	0.04	0.11	0.02	0.05	0.12	0.02	0.07	0.16	0.05	0.19	0.30	0.16	0.08
北部	0.14	0.07	0.14	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.07	0.00	0.00	0.29	0.71	0.21	0.09
西部	0.10	0.30	0.30	0.20	0.00	0.30	0.10	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.20	0.10	0.09
東部	0.00	0.13	0.13	0.00	0.00	0.07	0.00	0.13	0.20	0.07	0.13	0.33	0.07	0.20	0.13	0.13	0.05
南部	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06	0.11	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.22	0.11	0.17	0.17	0.17	0.09

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)

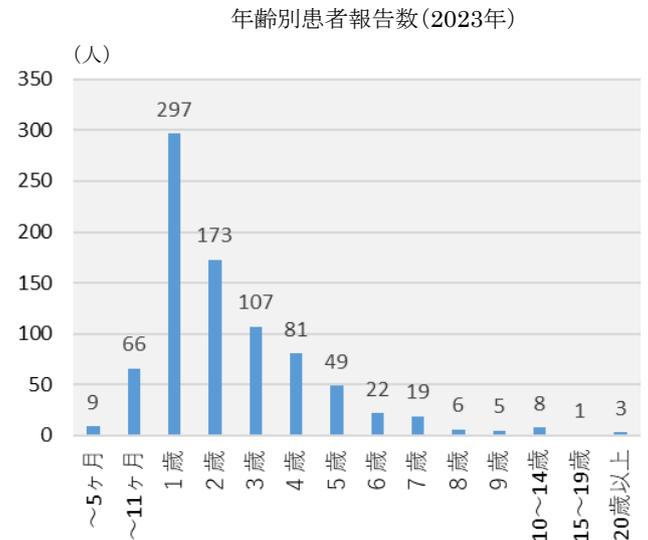


カ 手足口病

2023年の手足口病の報告数は846人、定点当たり報告数の年平均は0.29であった。

夏型感染症である手足口病は、2011年に変異したCV-A6による大流行が起こってから、1年おきに大きな流行がみられた。2023年は流行年に当たるが流行はみられなかった。

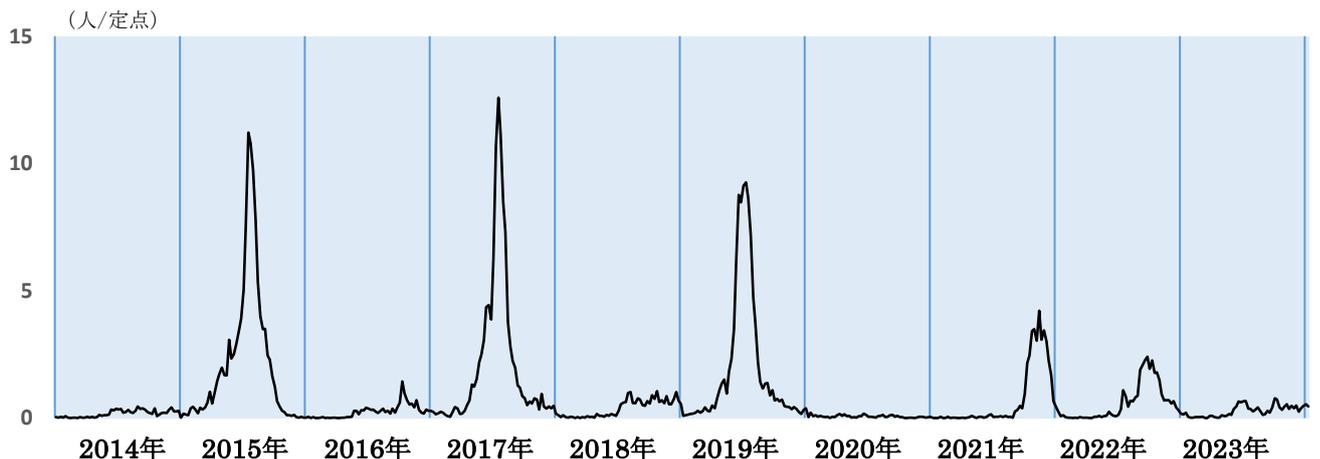
年齢別患者報告数は、1歳の297人が最も多く、次いで2歳の173人、3歳の107人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.21	0.05	0.02	0.02	0.04	0.04	0.04	0.05	0.00	0.00	0.09	0.09	0.04	0.02	0.02	0.11	0.07	0.09
北部	0.64	0.07	0.00	0.00	0.14	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07
西部	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10
東部	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.07	0.00	0.00	0.29	0.21	0.07
南部	0.11	0.06	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.17	0.00	0.00	0.28	0.11	0.00	0.06	0.00	0.11	0.06	0.11
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.16	0.13	0.35	0.46	0.65	0.61	0.67	0.67	0.37	0.35	0.26	0.33	0.42	0.27	0.13	0.14	0.29	0.21
北部	0.36	0.21	0.21	0.36	0.64	0.36	1.07	0.79	0.71	0.71	0.64	0.79	0.79	0.21	0.00	0.21	0.36	0.36
西部	0.20	0.00	0.10	0.10	0.10	0.40	0.10	0.20	0.20	0.20	0.10	0.10	0.40	0.10	0.30	0.20	0.40	0.20
東部	0.14	0.07	0.53	1.00	1.00	1.13	1.00	1.13	0.33	0.27	0.20	0.27	0.33	0.43	0.14	0.14	0.21	0.13
南部	0.00	0.17	0.44	0.28	0.67	0.50	0.39	0.44	0.22	0.22	0.11	0.17	0.22	0.28	0.11	0.06	0.22	0.17
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.42	0.77	0.72	0.42	0.32	0.44	0.54	0.35	0.47	0.39	0.49	0.25	0.39	0.47	0.54	0.46	0.29	
北部	0.57	1.36	0.57	0.14	0.21	0.86	0.79	0.50	0.07	0.21	0.29	0.21	0.36	0.57	0.29	0.36	0.33	
西部	0.70	1.90	0.70	0.90	0.50	0.00	0.10	0.20	0.20	0.50	0.90	0.10	0.10	0.20	0.90	0.60	0.23	
東部	0.27	0.27	1.27	0.60	0.33	0.47	0.73	0.40	0.80	0.60	0.53	0.40	0.33	0.20	0.40	0.27	0.33	
南部	0.28	0.11	0.39	0.22	0.28	0.33	0.44	0.28	0.67	0.28	0.39	0.22	0.61	0.78	0.67	0.61	0.24	

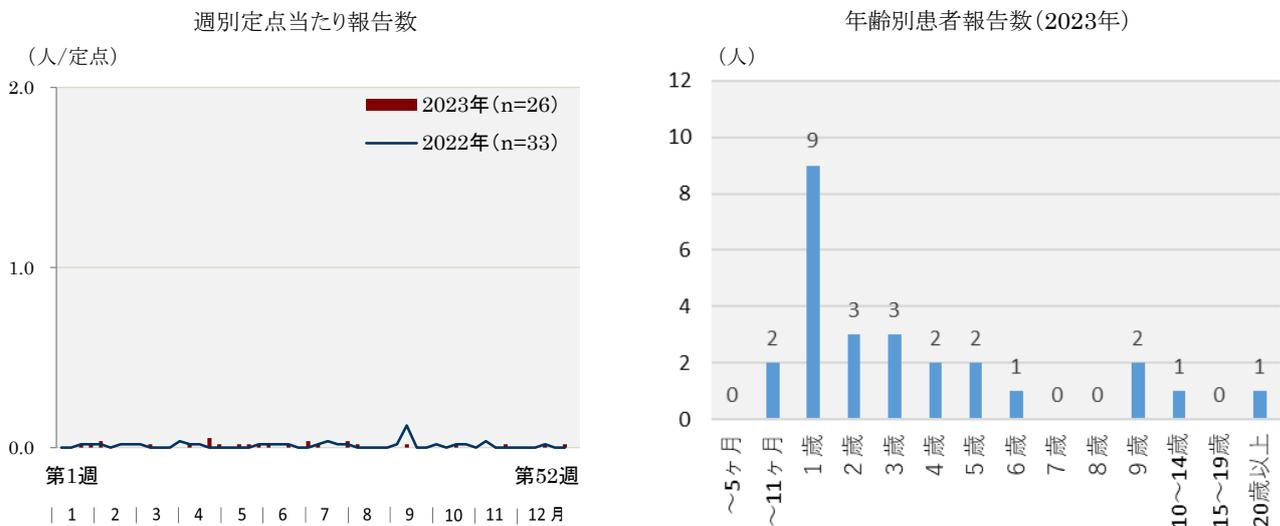
定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



キ 伝染性紅斑

2023年の伝染性紅斑熱の報告数は26人、定点当たり報告数の年平均は0.01であった。過去10年において2021年と並び最も少ない報告数であった。

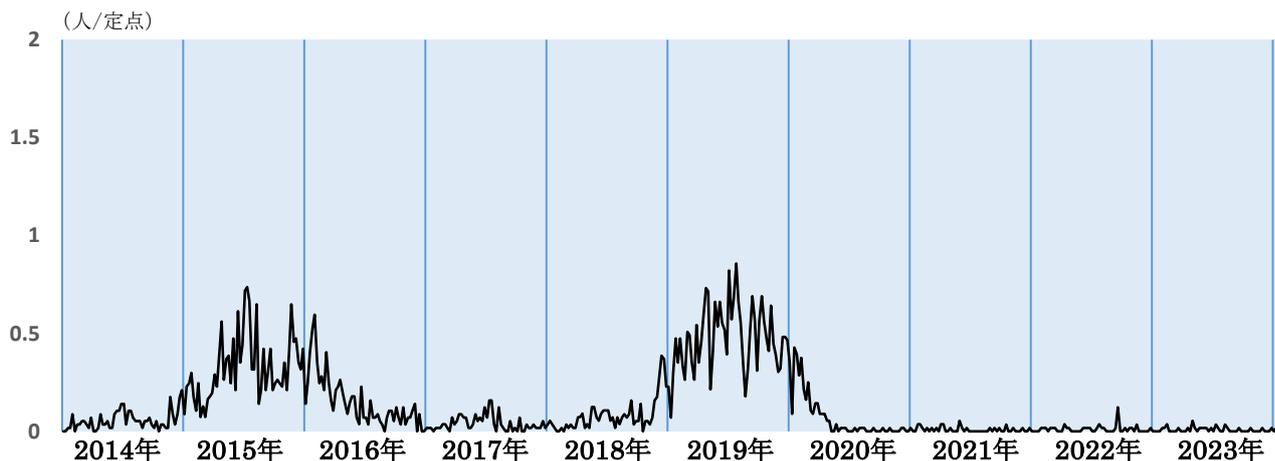
伝染性紅斑熱は約4年毎に流行する傾向があり、2023年は流行年に当たるが流行はみられなかった。年齢別患者報告数は、1歳の9人が最も多く、次いで2歳と3歳の3人であった。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.02	0.02	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.05	0.02	0.00
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00
東部	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.21	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.02	0.02	0.02	0.02	0.00	0.02	0.00	0.04	0.02	0.00	0.00	0.04	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
西部	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
南部	0.06	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.02	0.01	
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.01	
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.01	

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)

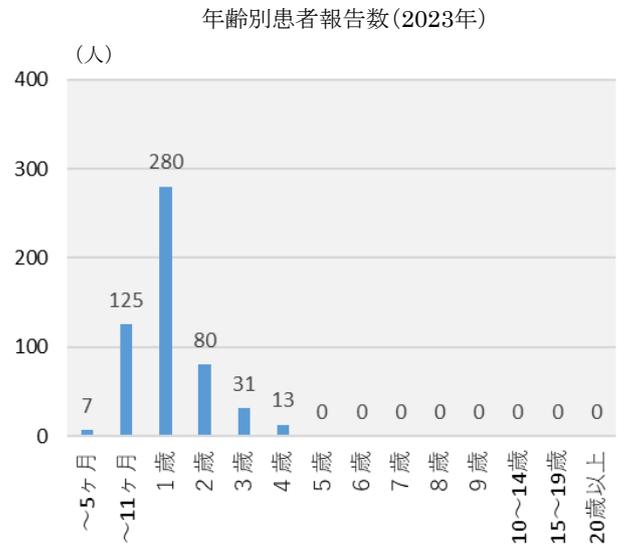
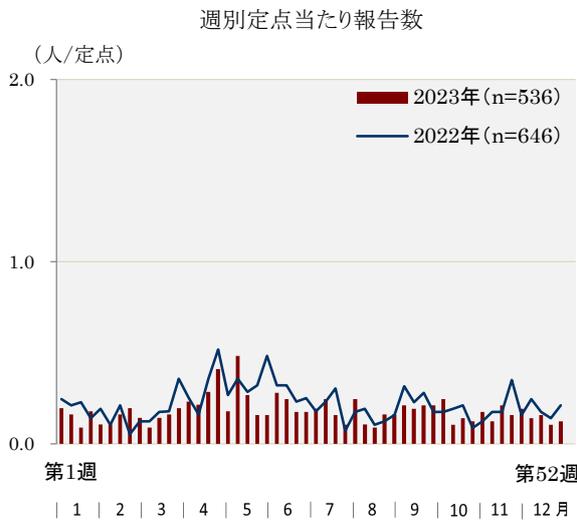


ク 突発性発しん

2023年の突発性発しんの報告数は536人、定点当たり報告数の年平均は0.18であった。2023年は過去10年において最も少ない報告数であった。

突発性発しんは、季節変動や年次による差異がほとんどなく、2023年においても特段の変動はみられなかった。

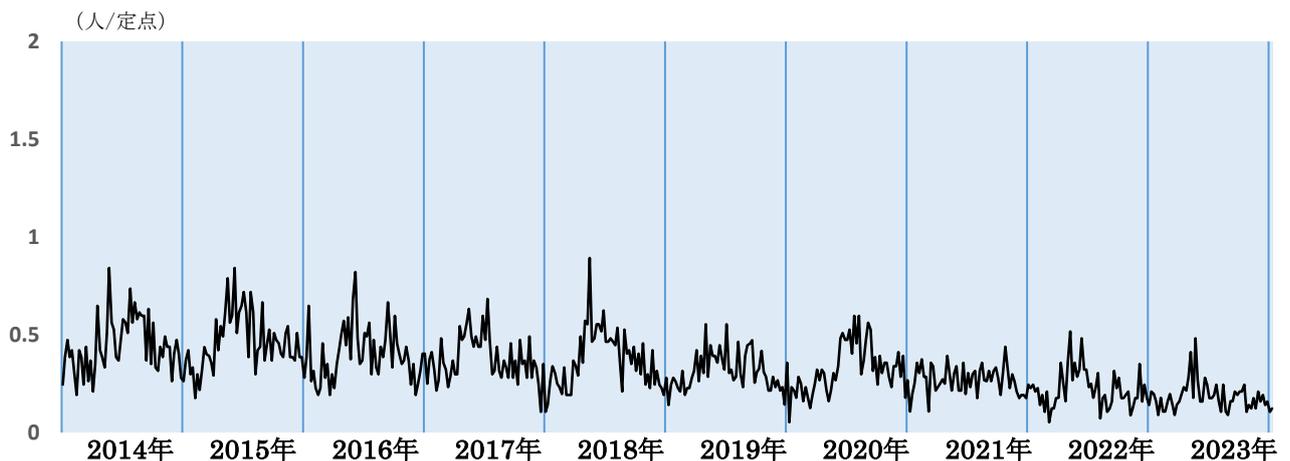
年齢別患者報告数は、1歳の280人が最も多く、次いで6~11ヶ月の125人、2歳の80人と続き、3歳以下で全体の97.6%を占めている。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.20	0.16	0.09	0.18	0.11	0.11	0.16	0.20	0.14	0.09	0.14	0.16	0.20	0.23	0.21	0.29	0.41	0.18
北部	0.57	0.43	0.07	0.29	0.14	0.14	0.14	0.43	0.21	0.07	0.29	0.14	0.21	0.21	0.14	0.50	0.71	0.50
西部	0.30	0.00	0.00	0.20	0.10	0.00	0.30	0.00	0.20	0.00	0.00	0.40	0.20	0.50	0.20	0.30	0.30	0.10
東部	0.00	0.21	0.21	0.07	0.00	0.07	0.14	0.21	0.14	0.14	0.21	0.07	0.07	0.07	0.36	0.00	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.06	0.17	0.17	0.17	0.11	0.11	0.06	0.11	0.06	0.11	0.28	0.22	0.17	0.33	0.56	0.11
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.48	0.27	0.16	0.16	0.28	0.25	0.18	0.18	0.19	0.25	0.16	0.11	0.25	0.11	0.09	0.16	0.16	0.21
北部	0.64	0.36	0.29	0.21	0.14	0.14	0.21	0.14	0.43	0.29	0.21	0.21	0.43	0.00	0.07	0.14	0.21	0.14
西部	0.60	0.40	0.20	0.20	0.50	0.40	0.50	0.20	0.50	0.30	0.30	0.10	0.20	0.00	0.20	0.10	0.10	0.20
東部	0.50	0.21	0.13	0.07	0.40	0.27	0.07	0.33	0.00	0.07	0.13	0.07	0.07	0.14	0.07	0.21	0.14	0.07
南部	0.28	0.17	0.06	0.17	0.17	0.22	0.06	0.06	0.00	0.33	0.06	0.06	0.28	0.22	0.06	0.17	0.17	0.39
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.19	0.21	0.21	0.25	0.11	0.14	0.12	0.18	0.12	0.21	0.16	0.19	0.14	0.16	0.11	0.12	0.18	
北部	0.14	0.36	0.43	0.57	0.21	0.21	0.29	0.29	0.14	0.14	0.36	0.29	0.21	0.43	0.21	0.07	0.27	
西部	0.10	0.20	0.00	0.20	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.20	0.20	0.10	0.10	0.20	0.19	
東部	0.07	0.27	0.20	0.13	0.07	0.07	0.13	0.20	0.27	0.20	0.13	0.13	0.07	0.07	0.00	0.07	0.13	
南部	0.39	0.06	0.17	0.11	0.11	0.17	0.06	0.11	0.06	0.33	0.11	0.17	0.11	0.06	0.11	0.17	0.15	

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)

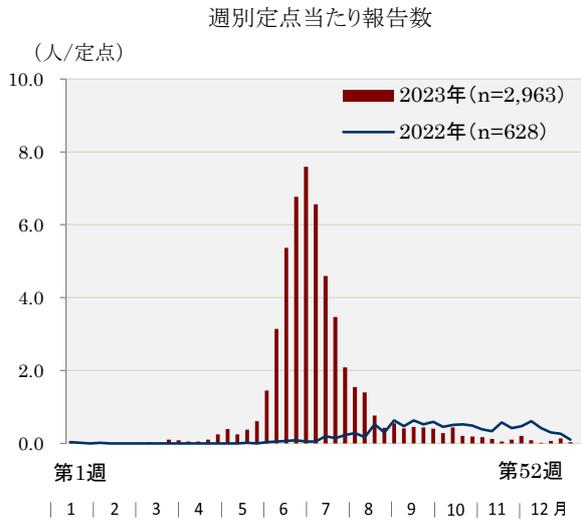


ケ ヘルパンギーナ

2023年のヘルパンギーナの報告数は2,963人、定点当たり報告数の年平均は1.00であった。過去10年において最も多い報告数であった。

ヘルパンギーナは夏型感染症であり、例年夏期に流行がみられる。ピークは第25週の7.60であった。

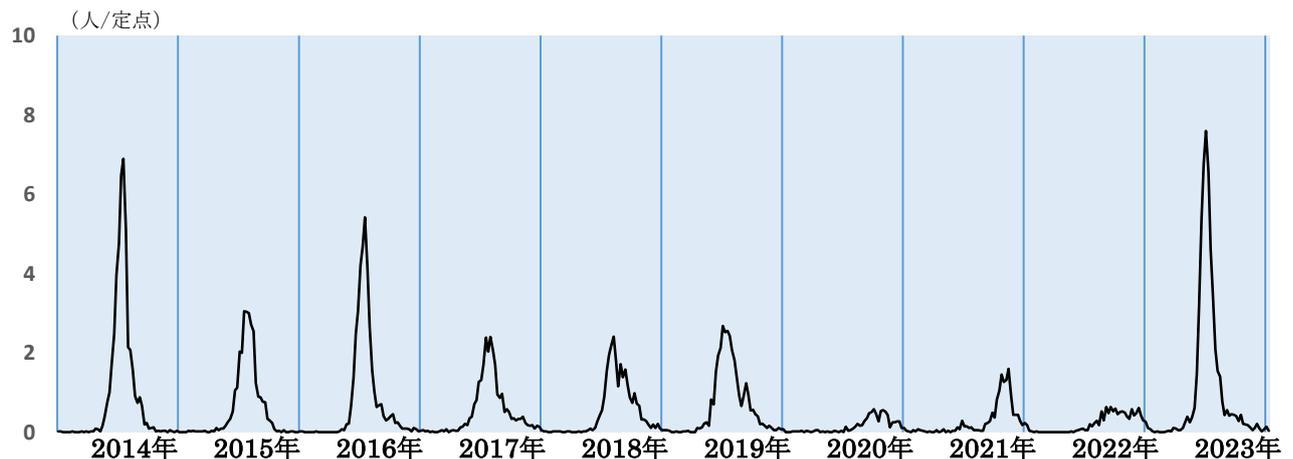
年齢別患者報告数は、1歳の675人が最も多く、次いで2歳の527人、3歳の446人と続き、5歳以下で全体の88.1%を占めている。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.07	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.04	0.02	0.11	0.09	0.05	0.05	0.11	0.25	0.39	0.25
北部	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.14	0.00	0.21
西部	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00
東部	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.36	0.43	0.93	0.14
南部	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.06	0.33	0.22	0.11	0.11	0.06	0.33	0.44	0.50
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.38	0.61	1.46	3.14	5.37	6.77	7.60	6.56	4.60	3.47	2.09	1.54	1.40	0.77	0.43	0.55	0.41	0.46
北部	0.21	0.43	1.71	3.79	7.21	8.50	13.43	11.43	7.00	5.14	3.36	2.07	2.36	1.64	0.36	1.21	0.86	0.43
西部	0.10	0.10	1.10	2.30	4.70	6.30	4.40	4.10	2.90	3.70	3.00	2.50	1.60	1.10	0.90	0.70	0.20	0.10
東部	0.36	0.71	1.00	1.80	3.47	4.33	4.33	3.13	4.00	2.07	0.80	0.67	0.67	0.07	0.07	0.14	0.14	0.60
南部	0.67	0.94	1.83	4.22	5.89	7.72	7.56	7.00	4.17	3.22	1.67	1.33	1.17	0.44	0.50	0.28	0.39	0.56
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.44	0.40	0.28	0.44	0.21	0.19	0.18	0.12	0.05	0.11	0.21	0.09	0.02	0.07	0.14	0.04	1.00	
北部	0.50	0.43	0.29	0.29	0.21	0.43	0.21	0.29	0.14	0.14	0.07	0.14	0.00	0.21	0.21	0.00	1.45	
西部	0.40	0.20	0.20	0.80	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.81	
東部	0.40	0.13	0.07	0.13	0.20	0.00	0.13	0.13	0.00	0.13	0.20	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.62	
南部	0.44	0.72	0.50	0.61	0.22	0.28	0.28	0.06	0.06	0.00	0.44	0.11	0.00	0.00	0.28	0.11	1.08	

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)

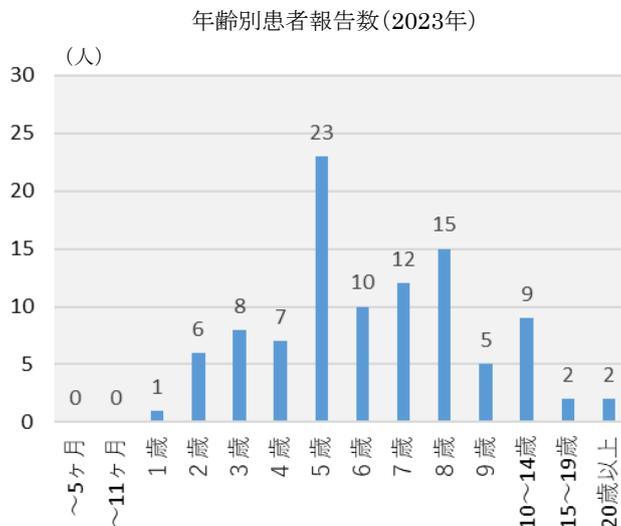
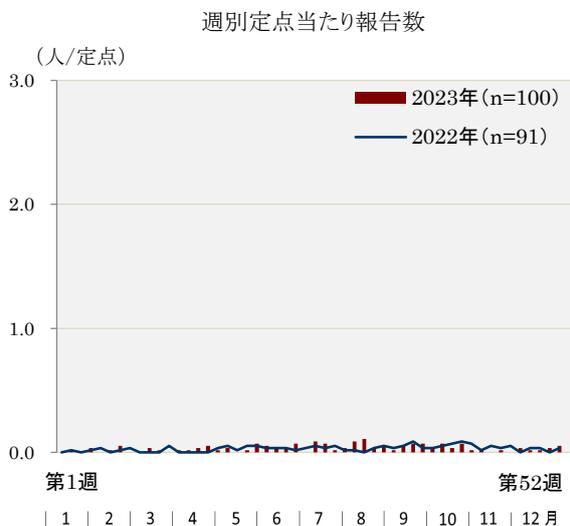


コ 流行性耳下腺炎

2023年の流行性耳下腺炎の報告数は100人、定点当たり報告数の年平均は0.03であった。2023年は過去10年において2番目に少ない報告数であった。

流行性耳下腺炎は、約4～5年毎に周期的流行をみせるが、2016年の流行以降大きな流行はみられていない。

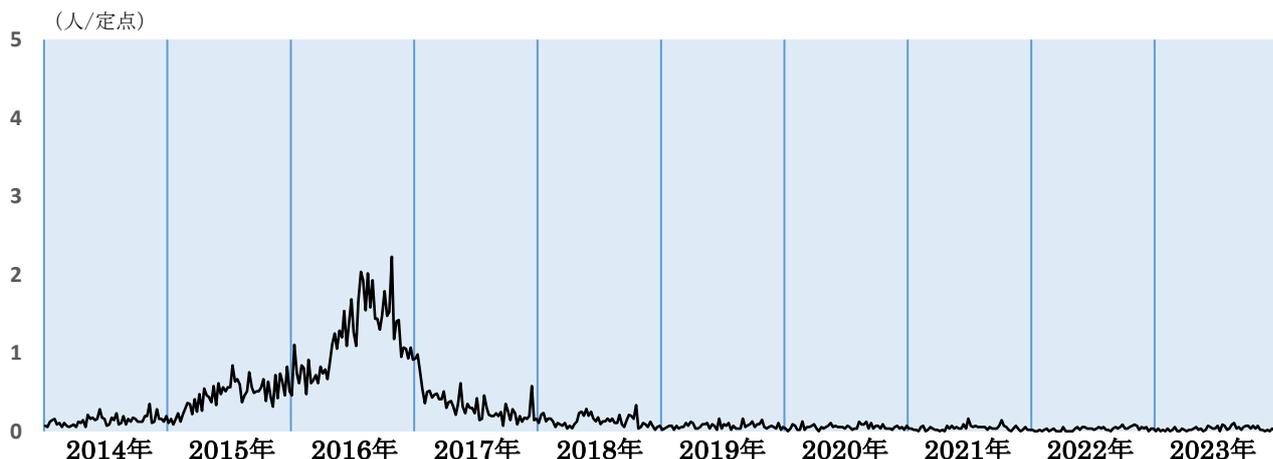
年齢別患者報告数は、5歳の23人が最も多く、次いで8歳の15人、7歳の12人と続いた。



《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.02	0.00	0.04	0.00	0.02	0.05	0.00	0.00	0.04	0.02	0.00	0.02	0.02	0.04	0.05	0.02	0.04
北部	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.07	0.07
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.10
東部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00
南部	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00
週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.02	0.07	0.05	0.04	0.04	0.07	0.00	0.09	0.07	0.02	0.04	0.09	0.11	0.04	0.05	0.02	0.05
北部	0.00	0.00	0.14	0.00	0.07	0.07	0.07	0.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.36	0.07	0.07	0.00	0.07
西部	0.00	0.10	0.10	0.20	0.10	0.10	0.00	0.00	0.30	0.30	0.00	0.00	0.30	0.10	0.10	0.20	0.00	0.00
東部	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07
南部	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均	
市	0.07	0.07	0.04	0.07	0.04	0.07	0.02	0.02	0.00	0.02	0.00	0.04	0.02	0.02	0.04	0.05	0.03	
北部	0.21	0.14	0.07	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.07	0.07	0.05	
西部	0.10	0.20	0.10	0.00	0.20	0.00	0.10	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.07	
東部	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.02	
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



2) インフルエンザ／COVID-19定点把握疾患(週報)

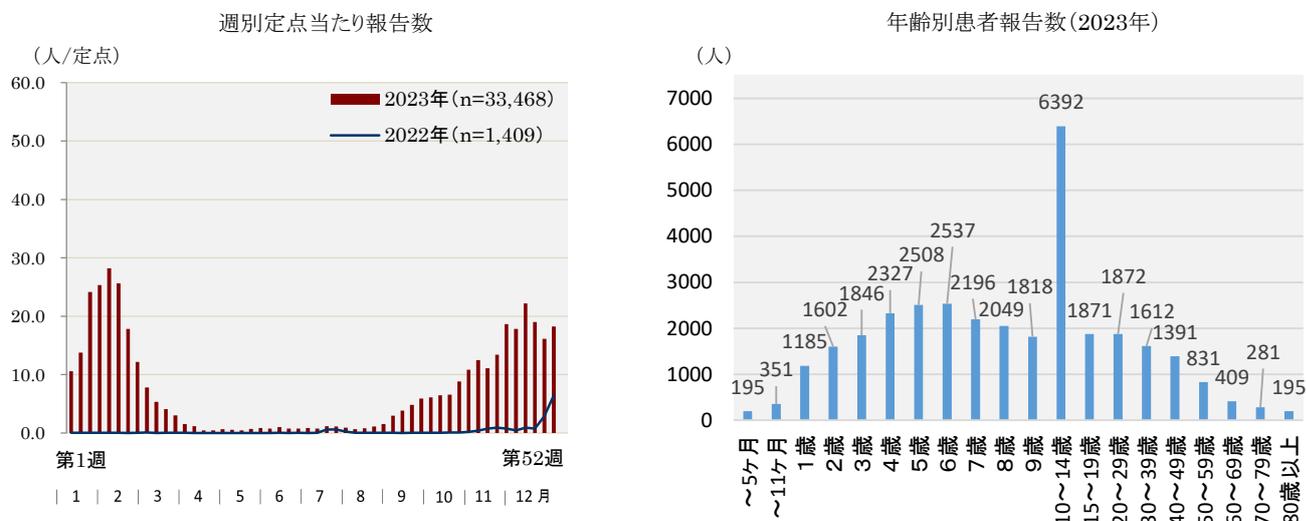
ア インフルエンザ

2023年のインフルエンザの報告数は33,468人、定点当たり報告数の年平均は7.74であった。

2023-2024年シーズンは秋口に報告数が増え始め、第33週に定点当たり報告数1.11となり流行入りの目安である1.0を超えた。第43週に10.86となり注意レベル10を超え、ピークは第49週の22.19であった。

年齢別患者報告数は、10～14歳の6,392人が最も多く、次いで6歳の2,537人、5歳の2,508人と続いた。

インフルエンザ病原体定点から提出された検体のうち、A型はAH1pdm09が25例、AH3が36例検出され、B型は検出されなかった。



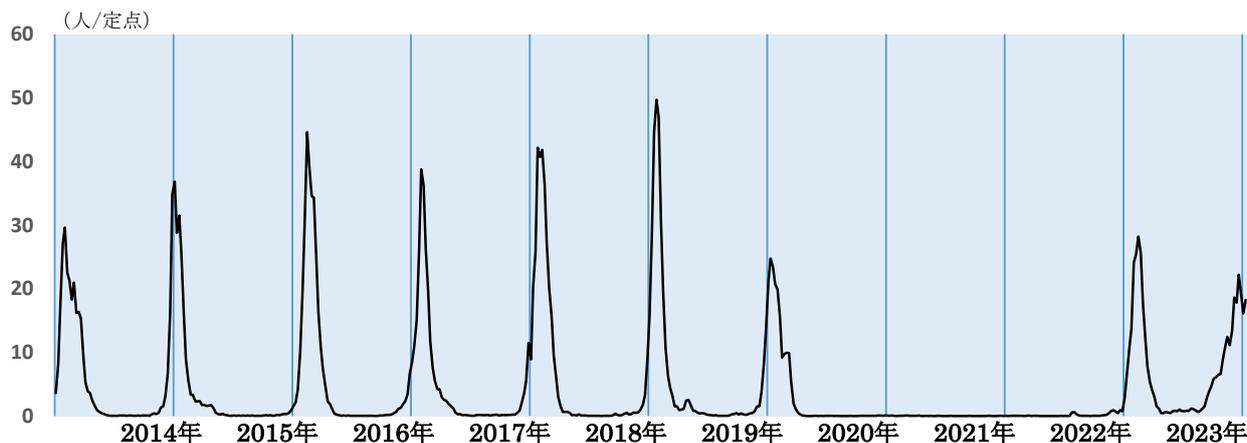
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	10.58	13.73	24.12	25.31	28.19	25.64	17.83	12.18	7.78	5.35	4.12	3.00	1.55	1.17	0.46	0.45	0.67	0.55
北部	16.75	20.35	29.35	35.35	39.50	36.20	23.90	18.75	10.50	7.25	4.65	3.45	1.40	1.65	0.55	0.85	1.15	0.55
西部	21.07	17.53	39.20	37.33	36.27	35.40	20.20	10.73	7.07	4.80	4.67	3.47	2.33	0.67	0.67	0.13	0.87	1.00
東部	3.43	9.05	15.90	17.33	13.81	12.76	11.10	8.05	6.33	4.62	3.10	2.86	1.52	1.14	0.48	0.43	0.19	0.38
南部	5.74	10.37	18.26	17.41	26.52	22.41	17.26	11.31	7.27	4.81	4.23	2.50	1.23	1.12	0.27	0.35	0.58	0.42

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.46	0.72	0.85	0.76	1.01	0.77	0.75	0.84	0.77	1.18	1.11	0.90	0.66	0.81	1.11	1.53	2.98	3.84
北部	0.50	0.50	0.20	0.65	0.50	0.70	0.35	0.30	0.45	0.80	0.65	0.85	0.70	0.70	1.20	1.75	2.35	4.05
西部	0.53	0.60	0.80	1.07	1.07	1.20	0.87	1.00	0.87	1.47	1.07	1.53	0.93	1.53	1.53	2.20	5.13	6.07
東部	0.43	0.81	0.81	0.76	1.86	1.14	1.19	1.29	1.19	1.10	0.90	0.33	0.67	0.48	0.95	1.29	2.86	3.00
南部	0.42	0.88	1.42	0.65	0.69	0.27	0.63	0.81	0.63	1.37	1.63	1.04	0.48	0.74	0.93	1.19	2.33	3.11

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	4.82	5.89	6.08	6.48	6.57	8.83	10.86	12.46	11.11	13.40	18.64	17.80	22.19	19.02	16.14	18.25	7.74
北部	4.05	8.00	7.00	8.35	9.60	12.21	15.68	17.00	13.11	16.68	19.80	20.80	28.35	22.65	16.45	21.55	9.82
西部	9.73	10.67	9.60	11.33	7.60	9.07	14.93	19.47	12.33	17.33	27.87	20.13	23.33	21.20	19.93	30.60	10.35
東部	3.19	3.33	3.76	3.90	3.86	6.45	6.50	9.14	8.73	11.14	14.59	12.41	15.59	14.77	14.82	11.73	5.34
南部	3.93	3.67	5.26	4.41	5.96	8.26	8.74	8.07	10.96	10.74	15.96	18.67	22.37	18.59	14.89	14.26	6.65

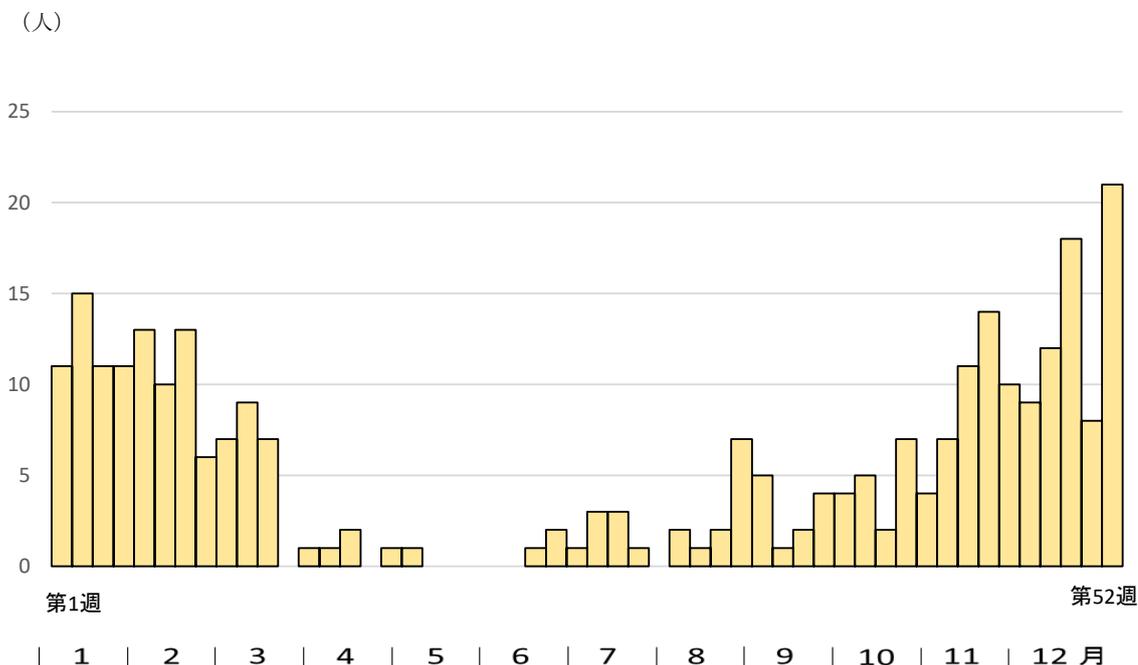
定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



インフルエンザ入院サーベイランス

2023年のインフルエンザ入院サーベイランスの報告数は272人であった。ピークは第52週の21人であった。年齢別患者報告数は、1～4歳の55人が最も多く、次いで5～9歳の51人、80歳以上の49人と続いた。

週別入院患者報告数(2023年)



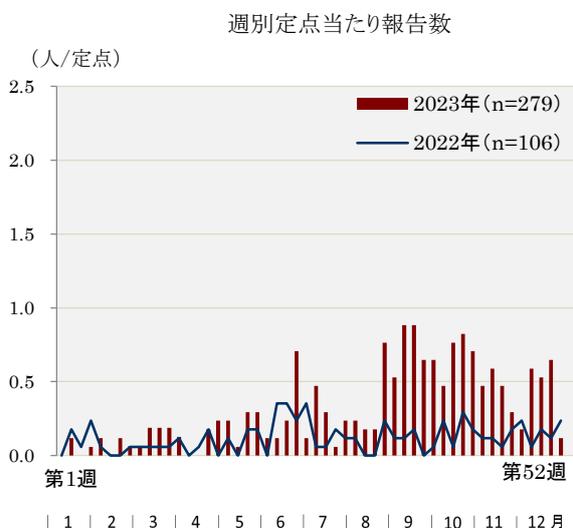
2023年 インフルエンザ入院基幹定点サーベイランス患者累積数(年齢階級別・性別・入院時の対応別)

		1歳未満	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	合計	総計
入院患者数	男	3	30	31	12	4	4	0	4	11	10	15	23	147	272
	女	4	25	20	6	2	4	8	4	6	11	9	26	125	
ICU入室	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	5	10
	女	0	1	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	5	
人工呼吸器の利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	4	10
	女	0	0	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	6	
頭部CT検査	男	1	2	2	0	1	0	0	0	0	1	1	3	11	16
	女	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	
頭部MR検査	男	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	4	7
	女	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
脳波検査	男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	女	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
いずれにも該当せず	男	2	28	29	12	3	4	0	4	11	7	11	20	131	243
	女	4	23	17	3	2	4	8	3	5	10	8	25	112	

※「ICU入室」及び「人工呼吸器の利用」、「頭部CT検査」、「頭部MR検査」、「脳波検査」については、同一人物でそれぞれに計上されていることがあるため、「入院患者数」の総計と「ICU入室」、「人工呼吸器の利用」、「頭部CT検査」、「頭部MR検査」、「脳波検査」、「いずれにも該当せず」の合計は一致しない。

イ 流行性角結膜炎

2023年の流行性角結膜炎の報告数は279人、定点当たり報告数の年平均は0.32であった。
年齢別患者報告数は、30~39歳の74人が最も多く、次いで20~29歳の42人、40~49歳の38人と続いた。



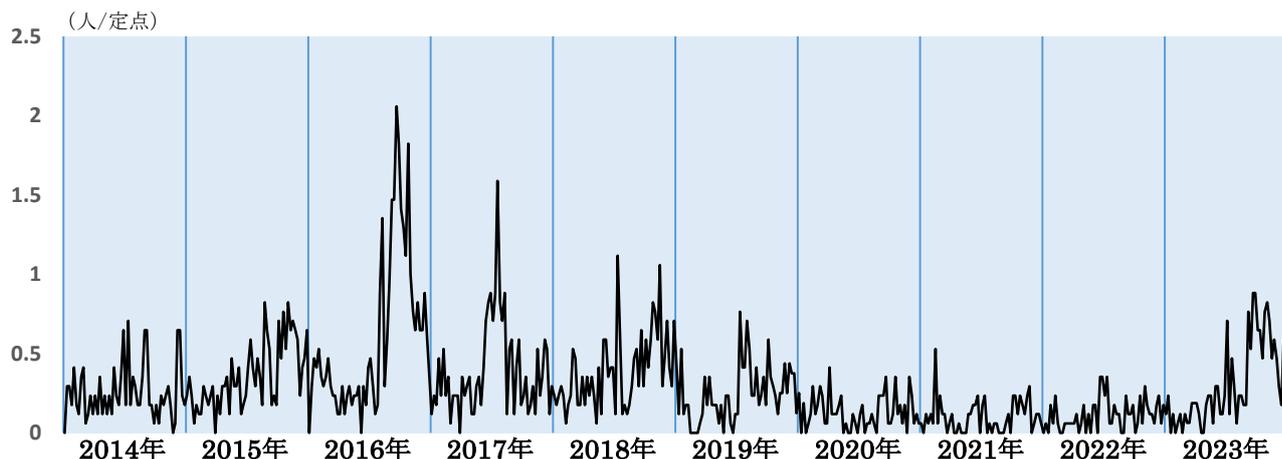
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.12	0.00	0.06	0.12	0.00	0.12	0.06	0.06	0.19	0.19	0.19	0.13	0.00	0.00	0.18	0.24	0.24
北部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
西部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
東部	0.00	0.12	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.13	0.13	0.19	0.06	0.00	0.00	0.18	0.06	0.18
南部	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.12	0.06

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.06	0.29	0.29	0.12	0.12	0.24	0.71	0.12	0.47	0.29	0.06	0.24	0.24	0.18	0.18	0.76	0.53	0.88
北部	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.18	0.18	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.41	0.12	0.18
西部	0.00	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.29
東部	0.00	0.18	0.12	0.00	0.00	0.18	0.35	0.06	0.29	0.12	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.24	0.18	0.35
南部	0.00	0.12	0.06	0.12	0.00	0.06	0.18	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.18	0.12	0.06	0.12	0.12	0.06

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.88	0.65	0.65	0.47	0.76	0.82	0.71	0.47	0.59	0.47	0.29	0.18	0.59	0.53	0.65	0.12	0.32
北部	0.65	0.35	0.35	0.24	0.12	0.12	0.18	0.29	0.12	0.18	0.12	0.00	0.12	0.12	0.00	0.06	0.09
西部	0.00	0.00	0.06	0.12	0.12	0.24	0.06	0.06	0.18	0.12	0.06	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.04
東部	0.24	0.18	0.06	0.00	0.24	0.29	0.29	0.00	0.24	0.18	0.12	0.18	0.41	0.35	0.47	0.06	0.13
南部	0.00	0.12	0.18	0.12	0.29	0.18	0.18	0.12	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.06

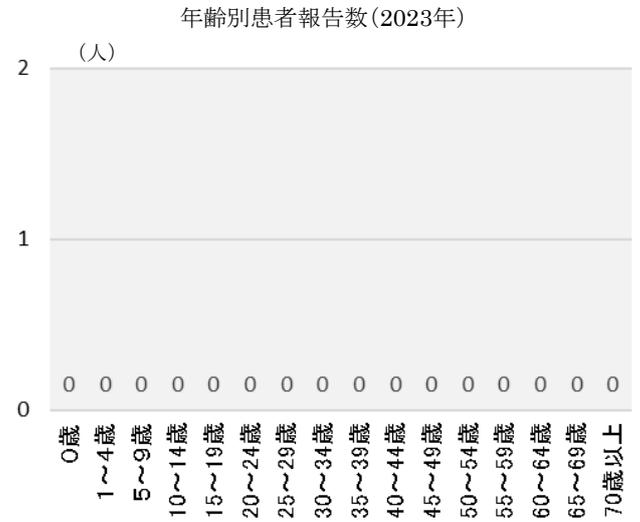
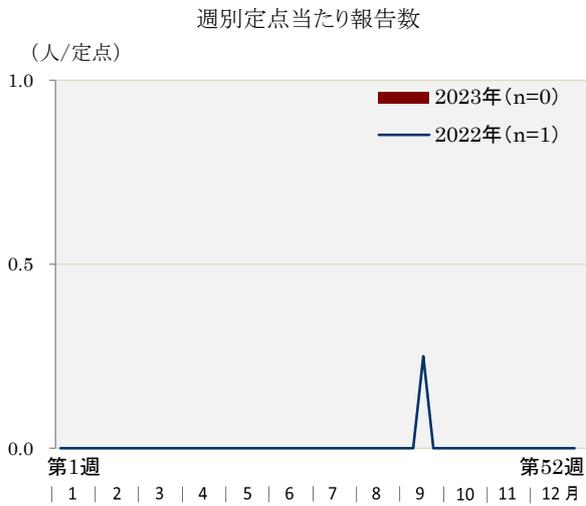
定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)



4) 基幹定点把握疾患（週報）

ア 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）

2023年は、細菌性髄膜炎の報告はなかった。



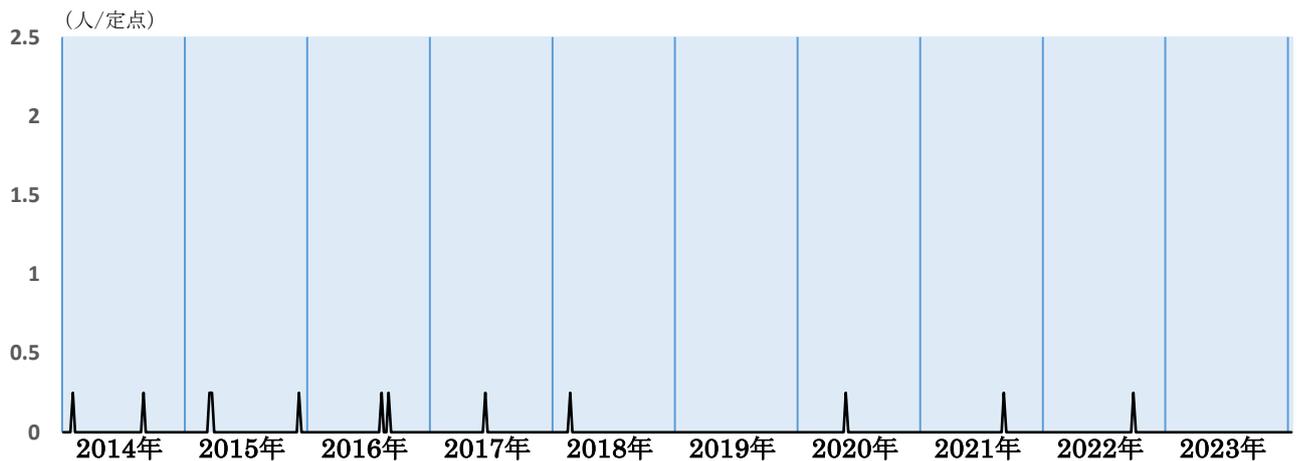
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

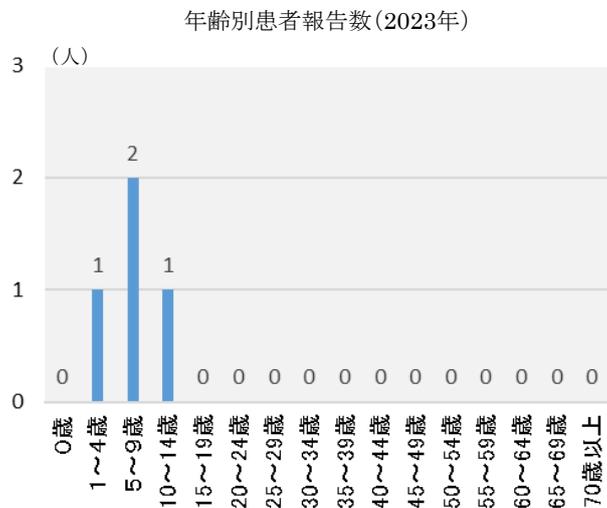
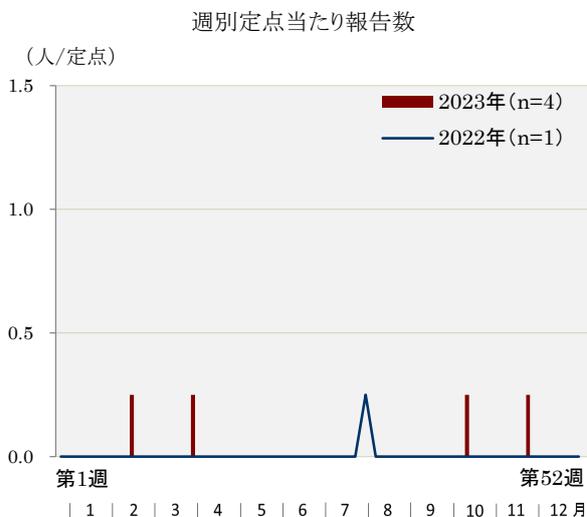
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



イ 無菌性髄膜炎

2023年の無菌性髄膜炎の報告数は4人、定点当たり報告数の年平均は0.02であった。
また、病原体はマイコプラズマ1例、水痘・帯状疱疹ウイルス1例、検出せず2例であった。



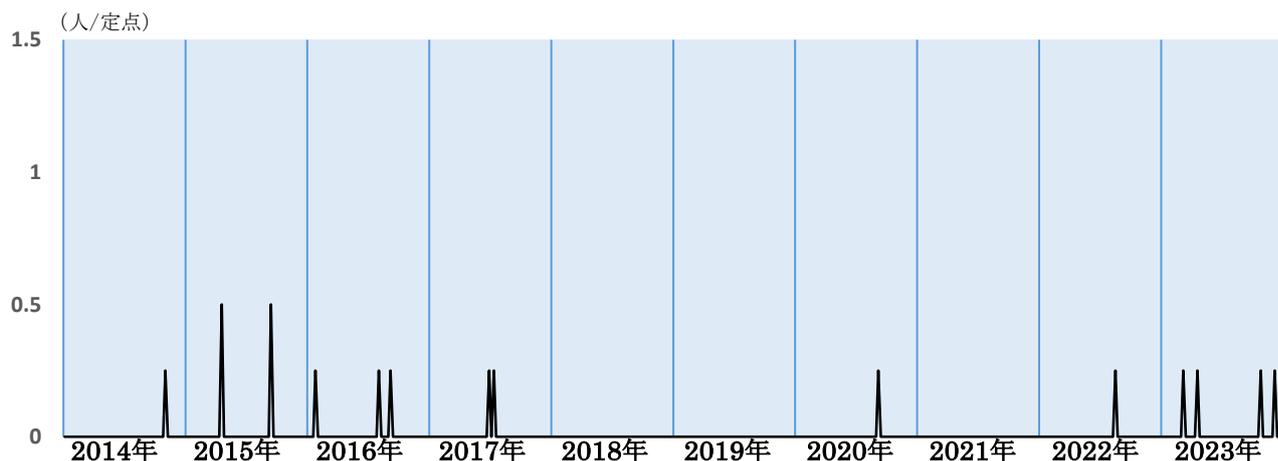
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

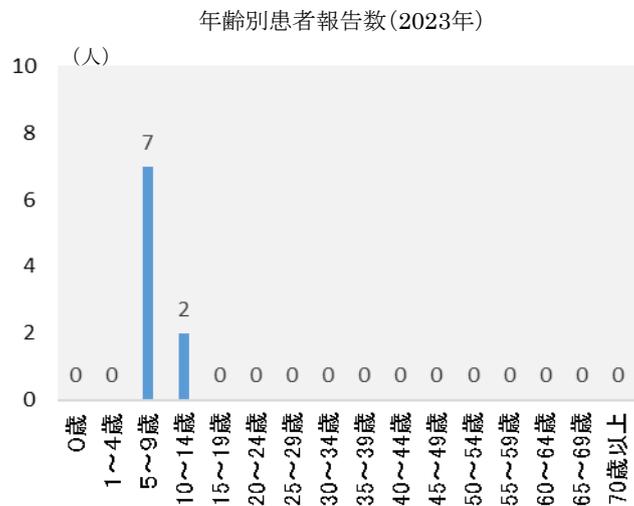
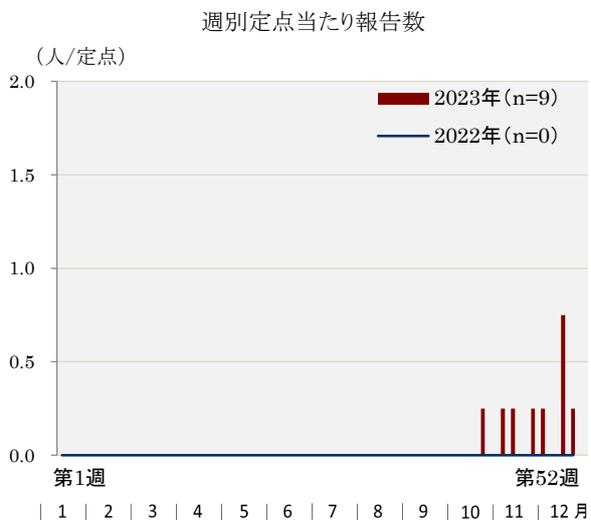
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)



ウ マイコプラズマ肺炎

2023年のマイコプラズマ肺炎は9人、定点当たり報告数の年平均は0.04であった。
年齢別患者報告数は、5～9歳の7人が最も多く、次いで10～14歳の2人であった。



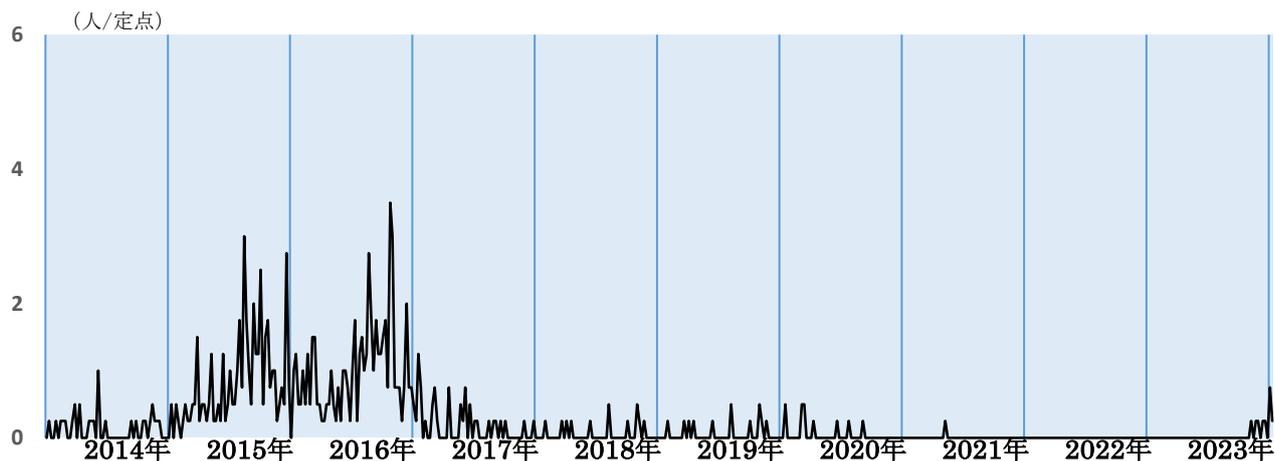
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

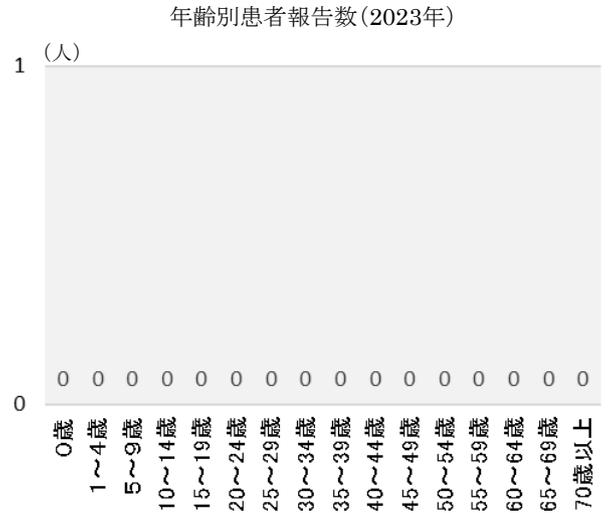
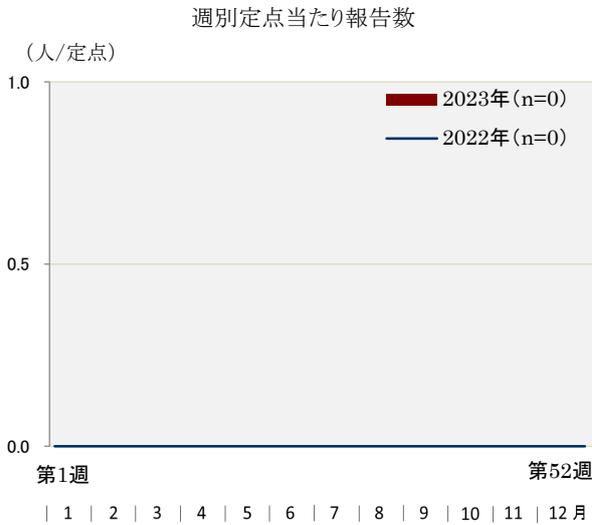
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.25	0.00	0.25	0.25	0.00	0.75	0.25	0.04

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2023年は、クラミジア肺炎(オウム病を除く)の報告はなかった。



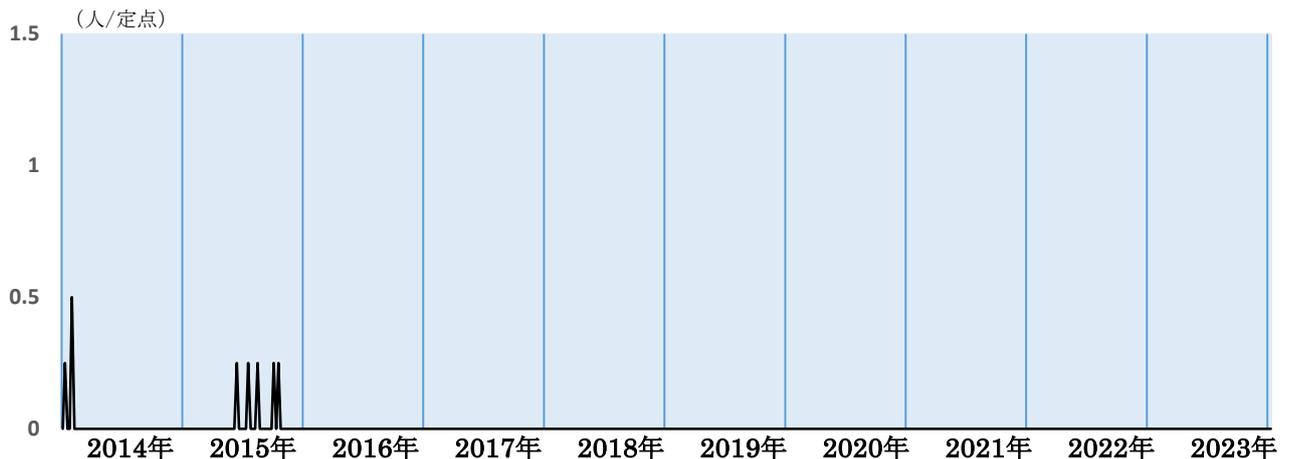
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

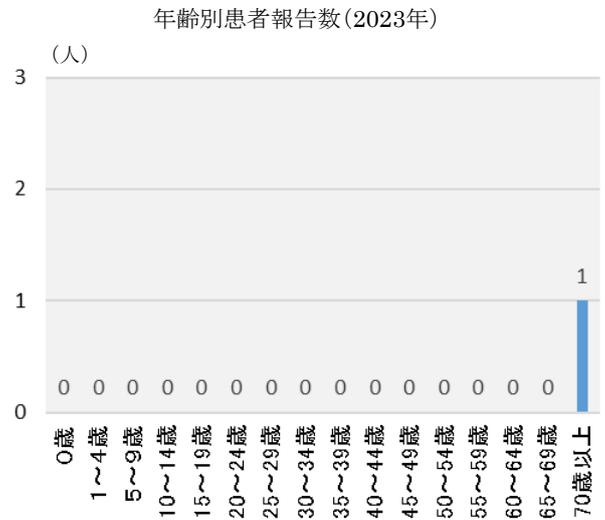
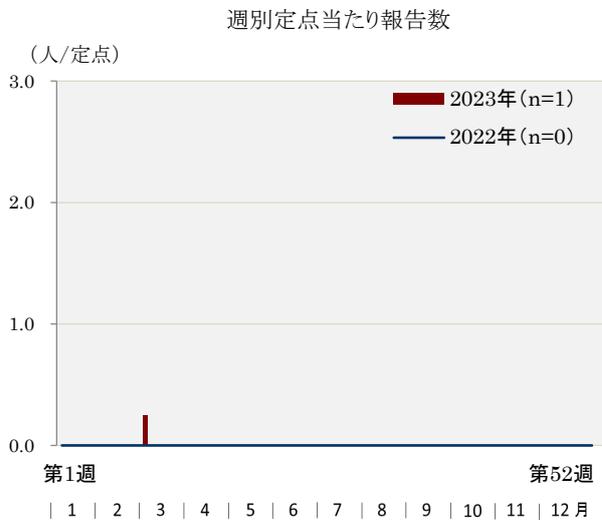
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)



オ 感染性胃腸炎(ロタウイルスが病原体であるものに限る)

2023年の感染性胃腸炎(ロタウイルスが病原体であるものに限る)の報告数は1人であった。
2020年10月のロタウイルスワクチンの定期接種導入以降は報告数が減少している。



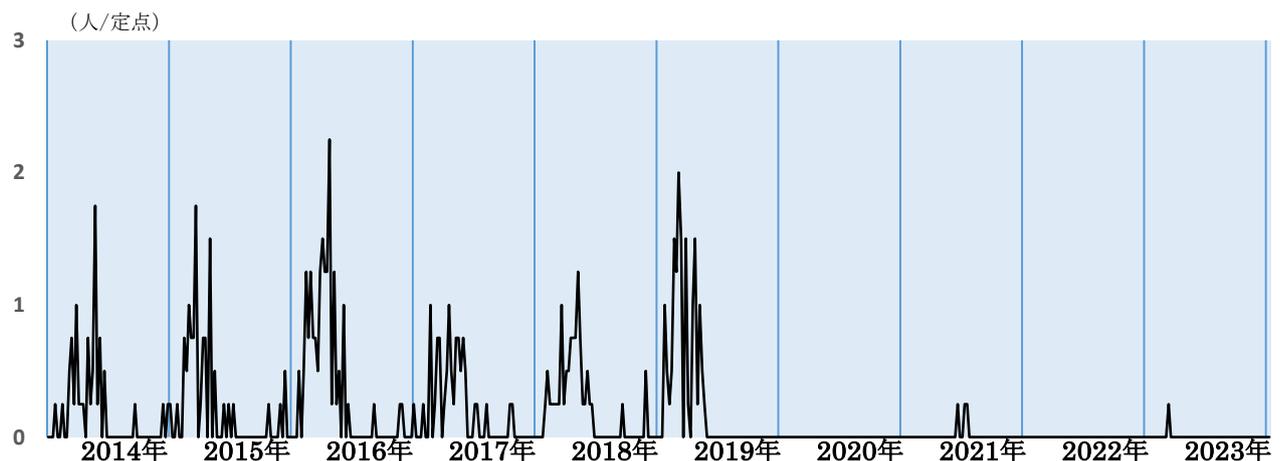
《週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週~2023年第52週)



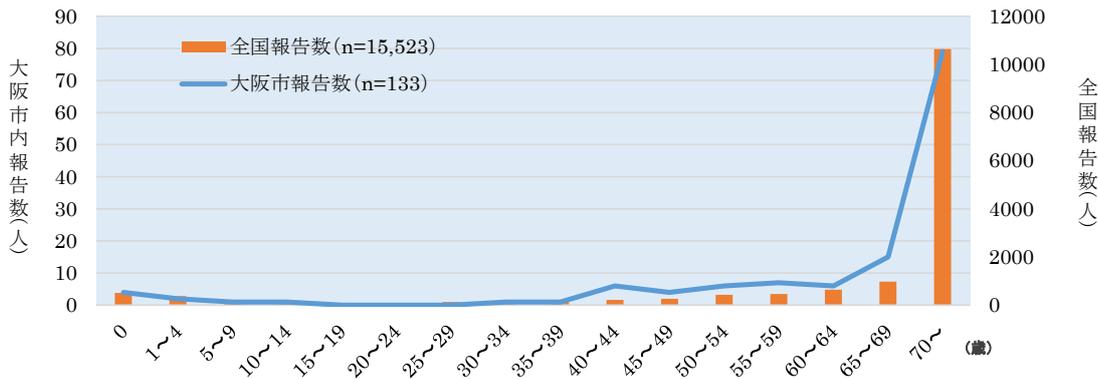
5) 基幹定点把握疾患(月報)

月別発生状況 2023年

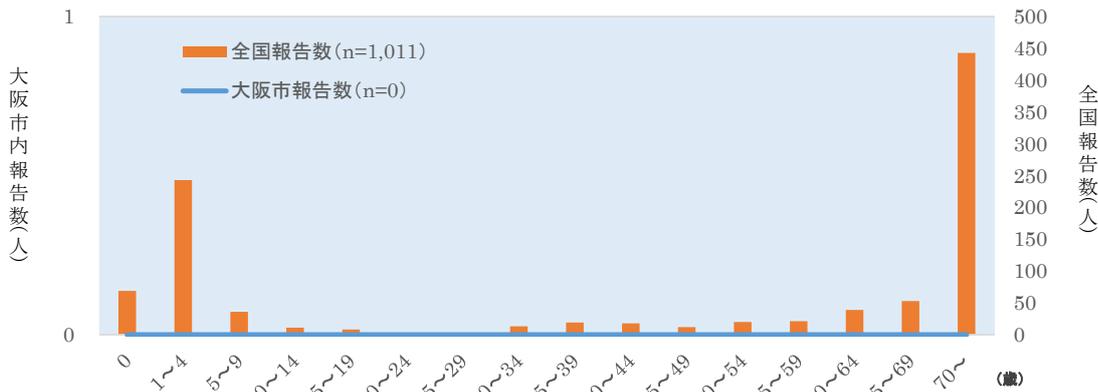
月	1		2		3		4		5		6	
疾患名	報告数	定点当たり報告数										
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21	5.25	13	3.25	11	2.75	5	1.25	14	3.50	7	1.75
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

月	7		8		9		10		11		12		計	
疾患名	報告数	定点当たり報告数												
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	3.25	14	3.50	10	2.50	11	2.75	3	0.75	11	2.75	133	2.77
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.00

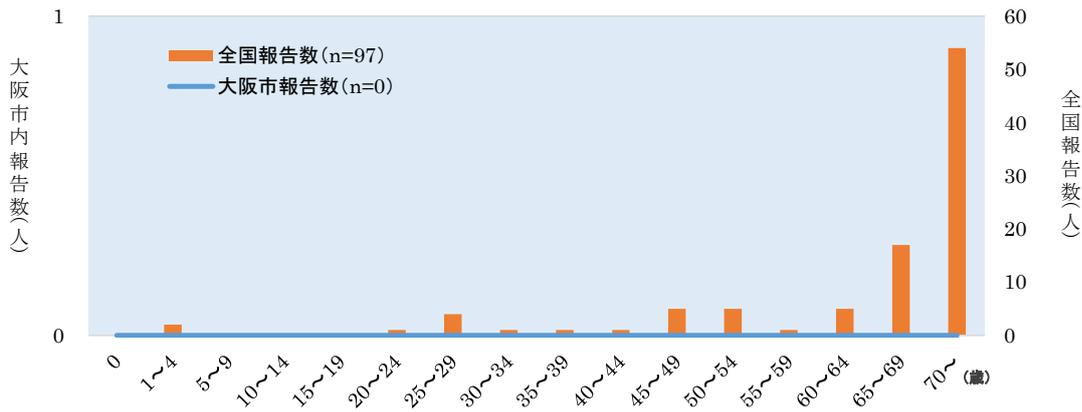
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 年齢別患者報告数(2023年)



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 年齢別患者報告数(2023年)

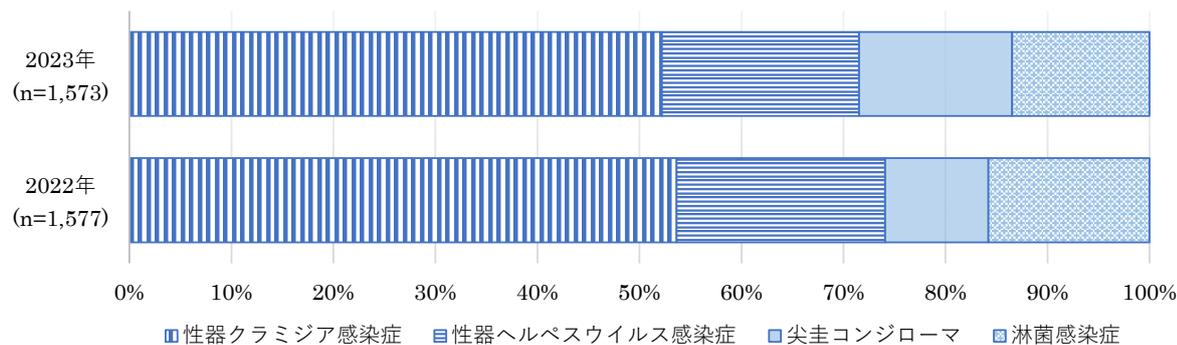


薬剤耐性緑膿菌感染症 年齢別患者報告数(2023年)

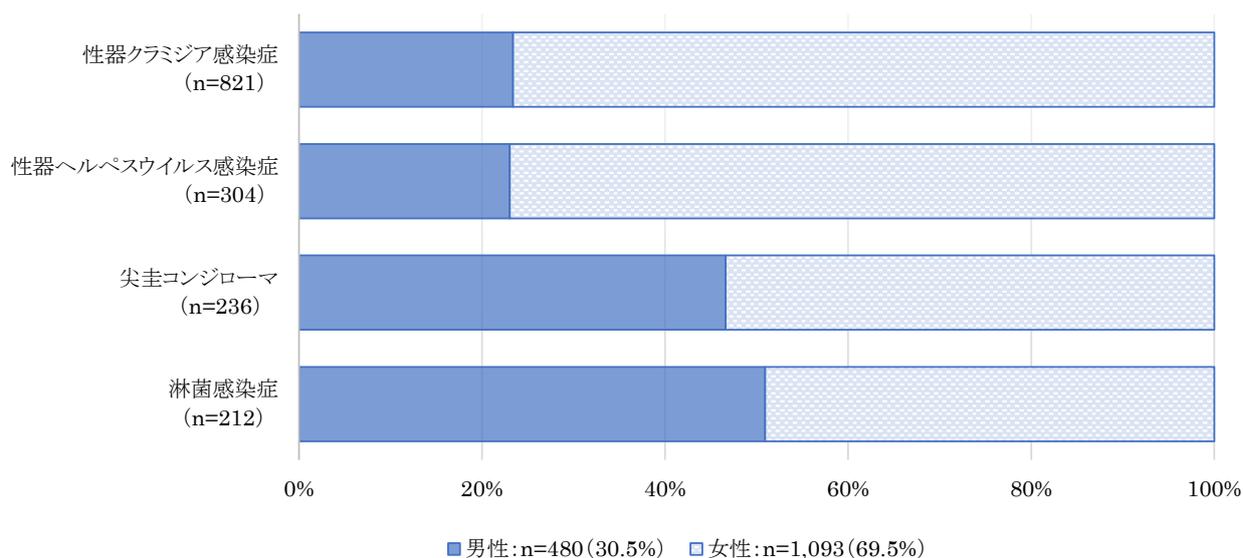


6) 性感染症定点把握疾患(月報)

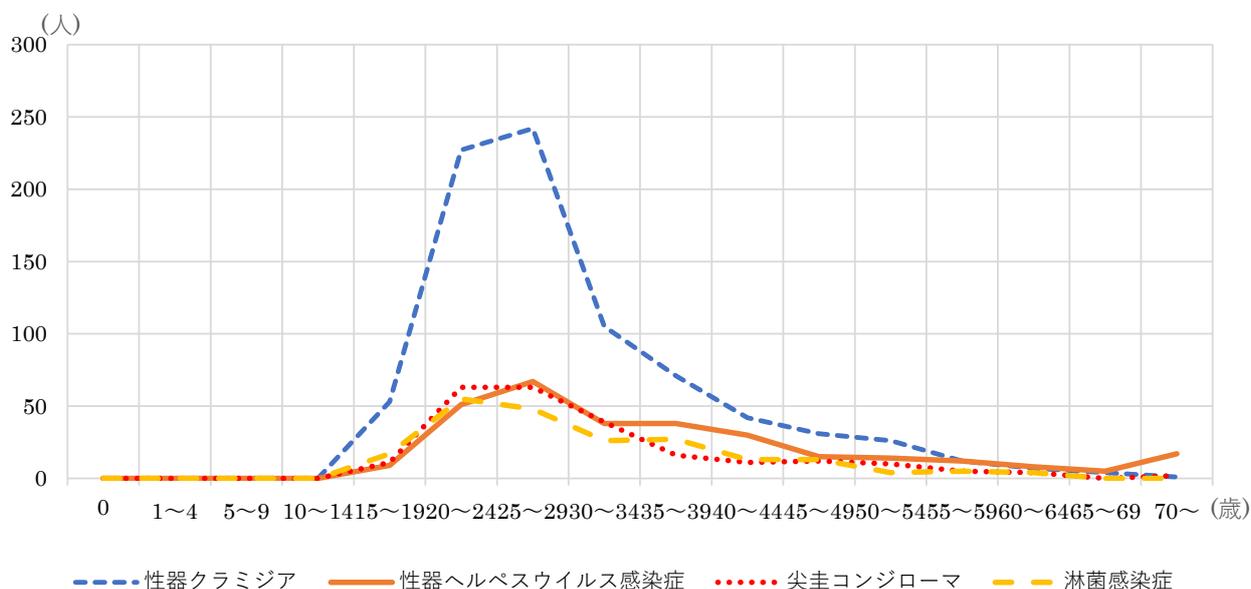
疾患別割合(男女計)



疾患別・男女別件数比較 2023年

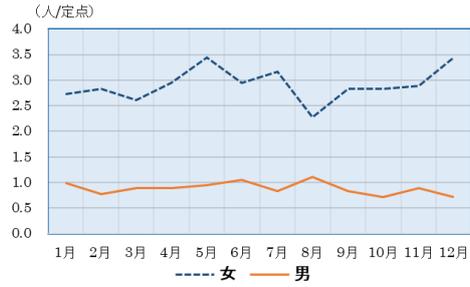


疾患別・年齢別患者報告数(男女計) 2023年



ア 性器クラミジア感染症

月別定点当たり報告数(2023年)



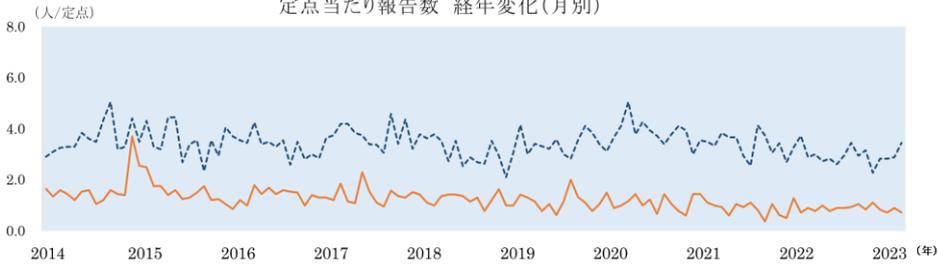
月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	2.72	2.83	2.61	2.94	3.44	2.94
男性	1.00	0.78	0.89	0.89	0.94	1.06

月	7	8	9	10	11	12
女性	3.17	2.28	2.83	2.83	2.89	3.44
男性	0.83	1.11	0.83	0.72	0.89	0.72

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
2.91	34.94	41.19
0.89	10.67	14.91

定点当たり報告数 経年変化(月別)

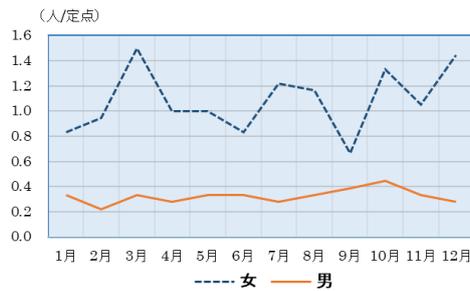


定点当たり報告数 経年変化(年別)



イ 性器ヘルペスウイルス感染症

月別定点当たり報告数(2023年)



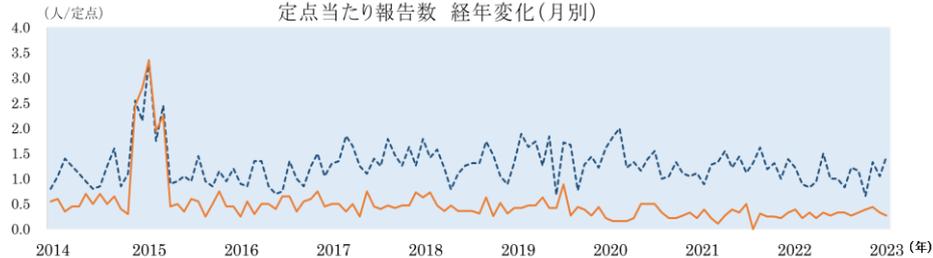
月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.83	0.94	1.50	1.00	1.00	0.83
男性	0.33	0.22	0.33	0.28	0.33	0.33

月	7	8	9	10	11	12
女性	1.22	1.17	0.67	1.33	1.06	1.44
男性	0.28	0.33	0.39	0.44	0.33	0.28

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
1.08	13.00	15.41
0.32	3.89	6.06

定点当たり報告数 経年変化(月別)

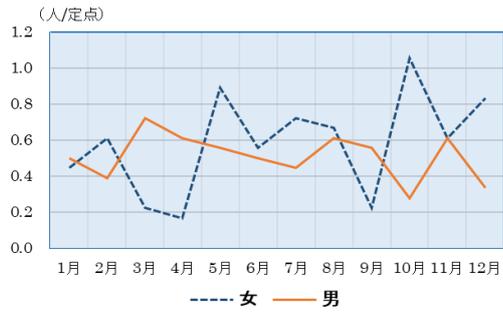


定点当たり報告数 経年変化(年別)



ウ 尖圭コンジローマ

月別定点当たり報告数(2023年)

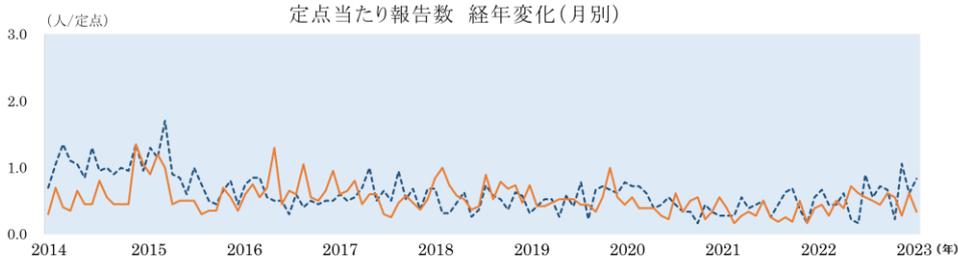


月別定点当たり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.44	0.61	0.22	0.17	0.89	0.56
男性	0.50	0.39	0.72	0.61	0.56	0.50

月	7	8	9	10	11	12
女性	0.72	0.67	0.22	1.06	0.61	0.83
男性	0.44	0.61	0.56	0.28	0.61	0.33

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
0.58	7.00	7.45
0.51	6.11	6.41

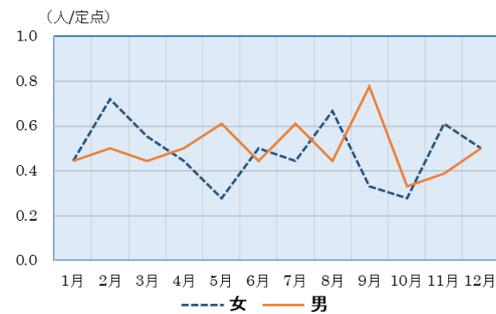


定点当たり報告数 経年変化(年別)



エ 淋菌感染症

月別定点当たり報告数(2023年)

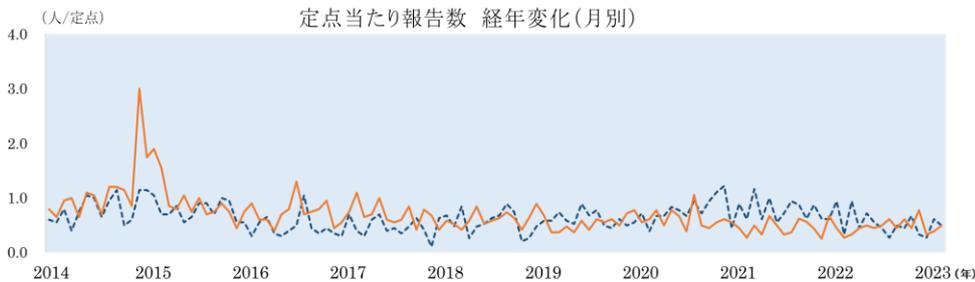


月別定点当たり報告数

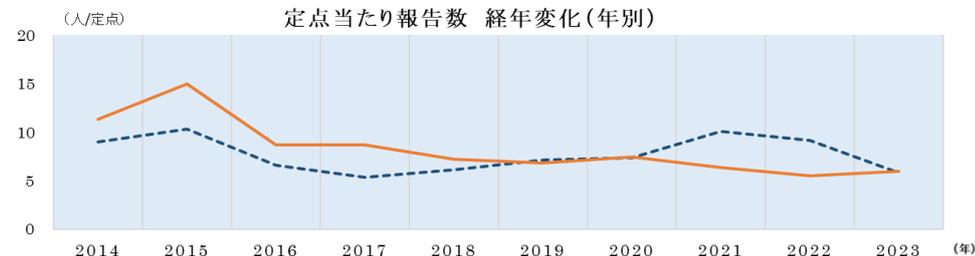
月	1	2	3	4	5	6
女性	0.44	0.72	0.56	0.44	0.28	0.50
男性	0.44	0.50	0.44	0.50	0.61	0.44

月	7	8	9	10	11	12
女性	0.44	0.67	0.33	0.28	0.61	0.50
男性	0.61	0.44	0.78	0.33	0.39	0.50

年平均	計	10年間の定点当たり報告数平均
0.48	5.78	7.70
0.50	7.44	8.30



定点当たり報告数 経年変化(年別)



2 一～五類全数把握感染症(新型コロナウイルス感染症を除く)

(1) 一類感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱は報告がなかった。

(2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)は報告がなかった。

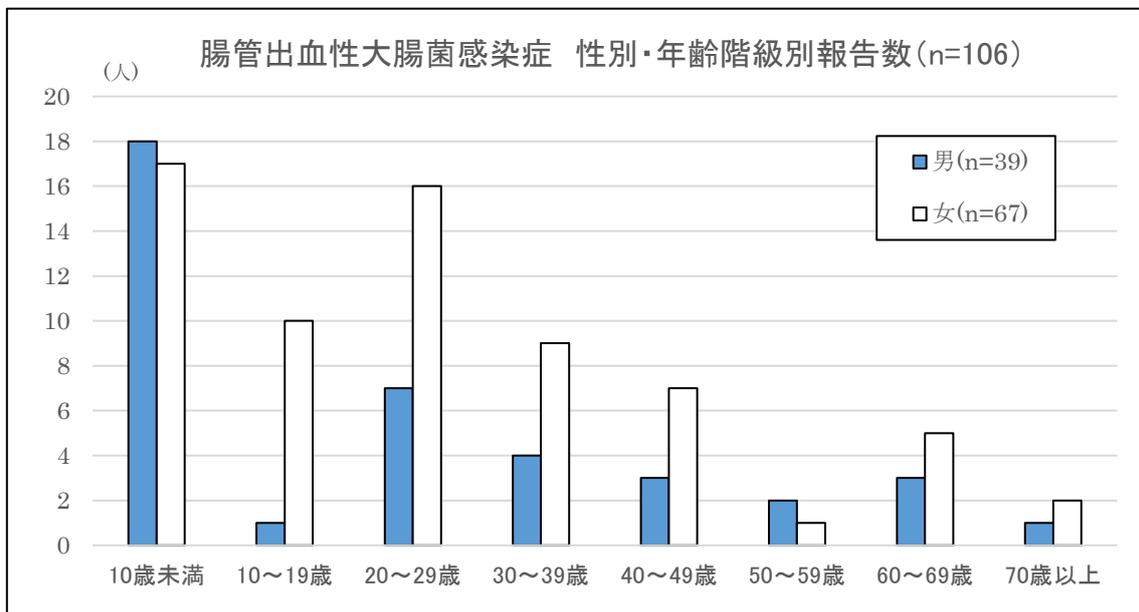
(3) 三類感染症

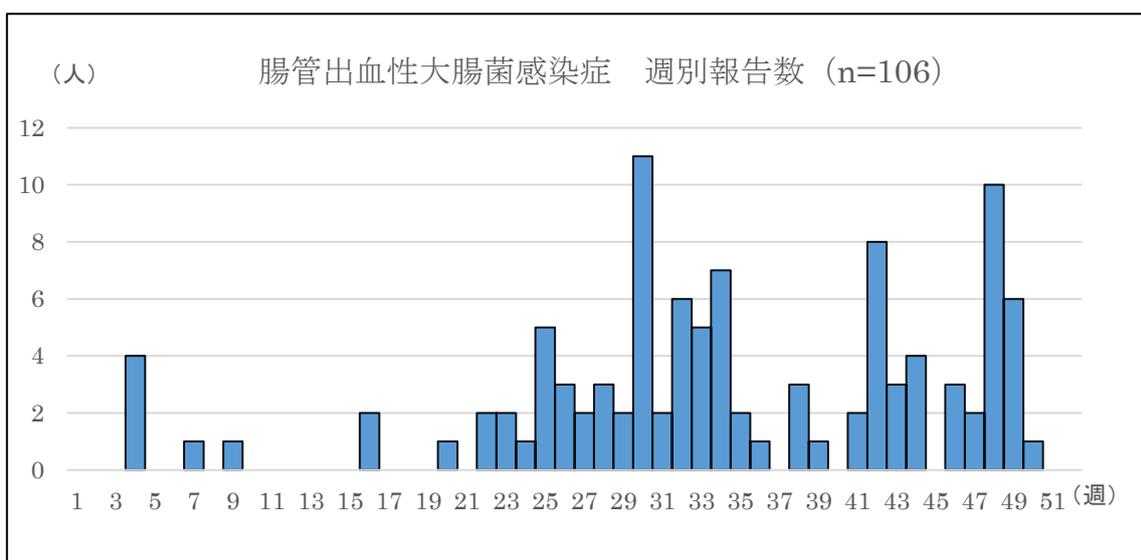
(ア) 腸管出血性大腸菌感染症

2023 年は 106 人の報告があった。症状別では患者 73 人、無症状病原体保有者 33 人であった。性別は男性 39 人、女性 67 人で、年齢階級別では 10 歳未満 35 人、10～19 歳 11 人、20～29 歳 23 人、30～39 歳 13 人、40～49 歳 10 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 8 人、70 歳以上 3 人であった。推定感染地は国内 91 人、国外(大韓民国)2 人、不明 13 人であった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)と診断されたものは 5 人で、年齢は全て 5 歳以下であった。

2023 年 11 月から翌年 3 月にかけて小学校で O157・VT1VT2 の集団発生があり、関連する届出は 21 人であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=106)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O26	VT1	3	O157	VT1	1
O103	VT1	3		VT2	37
O125	不明	1		VT1、VT2	52
O146	VT2	1		不明	4
O168	VT2	1			
不明	VT1、VT2	1			
	VT1	2			
血清型		件数	血清型		件数
O157 以外		12	O157		94

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=5)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
6/23	男	4歳	O157 VT 型不明	国内
7/31	女	5歳	O157 VT 型不明	国内
8/24	女	5歳	O157 VT2	国内
10/24	男	2歳	O157 VT2	国内
10/29	女	5歳	O157 VT2	国内

(イ) 腸チフス

2023年は3人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳1人、60～69歳1人であった。

推定感染地は国内1人、国外2人(バングラデシュ1人、インド1人)であった。

(ウ) その他の疾患

コレラ、細菌性赤痢、パラチフスは報告がなかった。

(4) 四類感染症

(ア) E型肝炎

2023年は9人の報告があった。性別は男性8人、女性1人で、年齢階級別では30～39歳1人、40～49歳2人、60～69歳3人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内8人、不明1人で、推定感染経路は経口感染が5人、不明が4人であった。

(イ) A型肝炎

2023年は2人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別は20～29歳1人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内1人、国外1人(タイ)で、推定感染経路は性的接触が1人、不明が1人であった。

(ウ) エムボックス

2023年は19人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別は30～39歳8人、40～49歳8人、50～59歳は3人であった。

推定感染地は全て国内であった。

(※)2023年5月26日にサル痘は、エムボックスに名称変更になった。

(エ) デング熱

2023年は13人の報告があった。性別は男性7人、女性6人で、年齢階級別では20～29歳3人、30～39歳8人、40～49歳1人、50～59歳1人であった。血清型の内訳は1型6人、2型5人、3型2人であった。

推定感染地は全て国外(ベトナム4人、タイ3人、インド2人、インドネシア1人、カンボジア1人、コスタリカ1人、フランス1人)であった。

(オ) 日本紅斑熱

2023年は2人の報告があった。性別は男性1人、女性1人で、年齢階級別では40～49歳1人、60～69歳1人であった。

推定感染地は全て国内であり、市外であった。

(カ) 日本脳炎

2023年は1人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別では70歳以上であった。

推定感染地は国内で、推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

2009年以来の報告であった。

(キ) マラリア

2023年は2人の報告があった。性別は男性1人、女性1人で、年齢階級別では30～39歳1人、40～

49歳1人であった。病型は全て熱帯熱マラリアであった。

推定感染地は全て国外(ウガンダ1人、ナイジェリア1人)であった。

(ク) ライム病

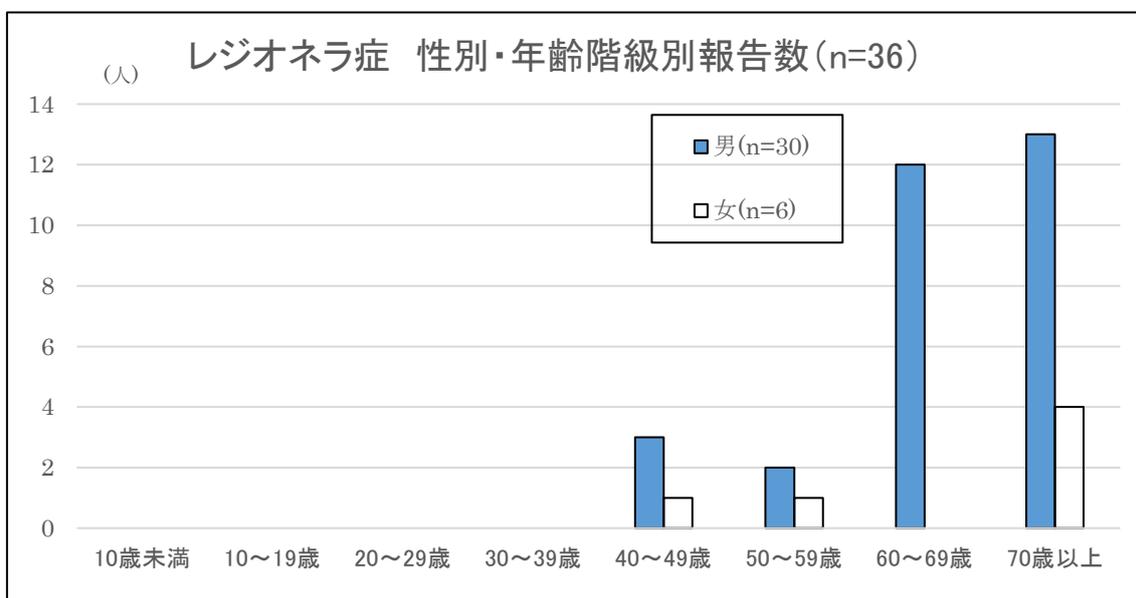
2023年は1人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別では60～69歳であった。

推定感染地は国内で、推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

(ケ) レジオネラ症

2023年は36人の報告があった。病型は肺炎型32人、ポンティアック熱型4人であった。性別は男性30人、女性6人、年齢階級別は40～49歳4人、50～59歳3人、60～69歳12人、70歳以上17人であった。

推定感染地は国内30人、不明6人であった。推定感染経路は水系感染12人、塵埃感染1人、その他4人、不明19人であった。公衆浴場施設(温泉を含む)の利用歴がある者が9人であった。



(コ) レプトスピラ症

2023年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別では10～19歳1人、50～59歳1人、60～69歳1人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染経路は経口感染2人、水系感染1人であった。

2016年以来の報告であった。

(サ) その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む。)、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)、ニパ

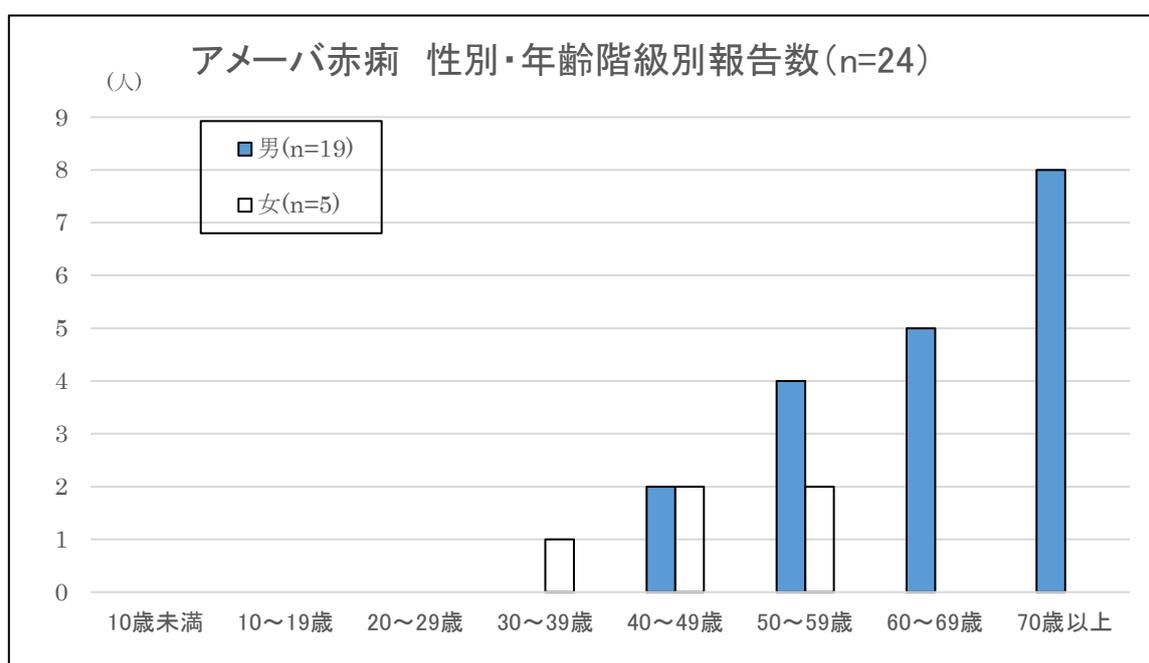
ウイルス感染症、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ポツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

(5) 五類感染症(全数把握対象)

(ア) アメーバ赤痢

2023 年は 24 人の報告があった。病型は腸管アメーバ症が 23 人、腸管外アメーバ症が 1 人であった。性別は男性 19 人、女性 5 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 5 人、70 歳以上 8 人であった。

推定感染地は国内 15 人、国外 3 人(中華人民共和国1人、香港 1 人、ベトナム 1 人)、不明 6 人であった。推定感染経路は、性的接触 5 人、経口感染 4 人、不明 15 人であった。



(イ) ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)

2023 年は 12 人の報告があった。病型は B 型肝炎が 6 人、C 型肝炎が 4 人、その他として EBV が 1 人、CMV が 1 人であった。性別は全て男性で、年齢階級別では 20～29 歳 5 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 4 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は全て国内であった。

推定感染経路は異性間性的接触が 4 人、同性間性的接触が 4 人、性的接触(不明)が 3 人、不明 1 人であった。

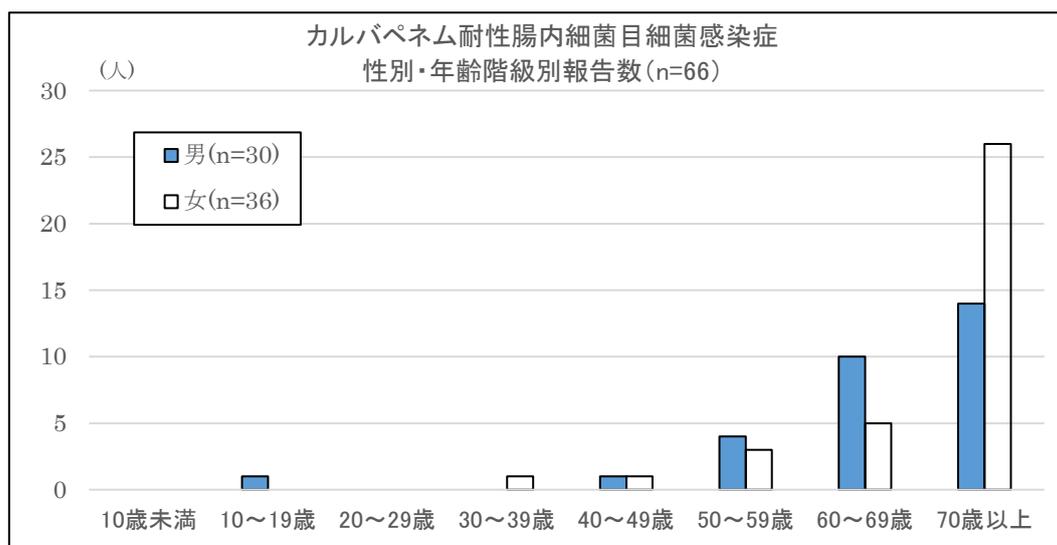
(ウ) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

2023 年は 66 人の報告があった。性別は男性 30 人、女性 36 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 7 人、60～69 歳 15 人、70 歳以上 40 人であった。

推定感染地は国内 62 人、国外 1 人(中華人民共和国)、不明 3 人であった。

カルバペネマーゼ遺伝子型が検出された菌株の割合は 13.6%であった。

(※)2023 年5月 26 日にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌は、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌に名称変更になった。



カルバペネム耐性腸内細菌目細菌検出状況 分離菌種 (n=66)

菌種	株数	カルバペネマーゼ遺伝子型	
		IMP 型	その他*
Klebsiella aerogenes	13		
Enterobacter cloacae complex	12		
Klebsiella pneumoniae	11	1	
Enterobacter cloacae	10	2	
Escherichia coli	10	2	1 (OXA)
E.coli	4	3	
Enterobacter bugandensis	2		
Enterobacter aerogenes	1		
Klebsiella oxytoca	1		
Providencia stuartii	1		
Serratia marcescens	1		
計	66	8	1 (OXA)

*()内は IMP 型以外に検出されたカルバペネマーゼの種類

(エ) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2023 年は 2 人の報告があった。性別は全て男性で、年齢階級別はいずれも 10~19 歳であった。

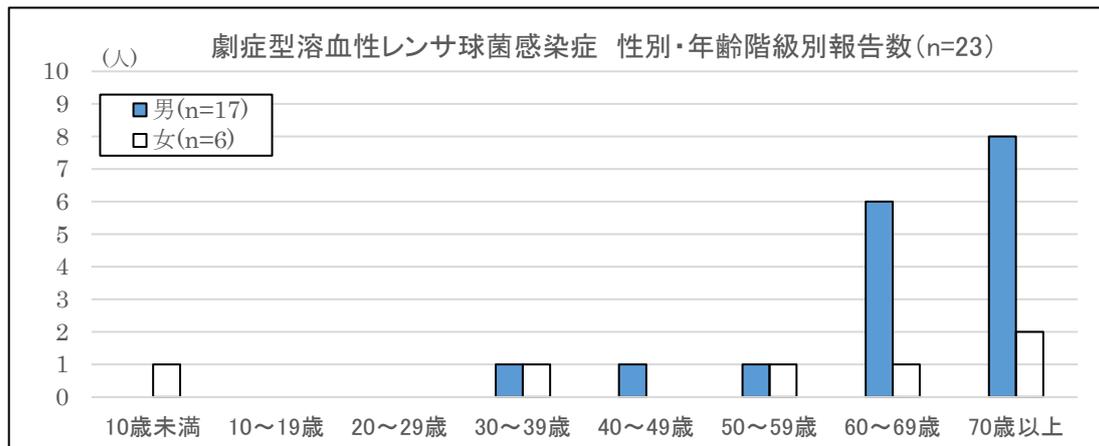
原因と推定された病原体はインフルエンザウイルス 1 人、不明 1 人で、推定感染地は全て国内であった。

(オ) クロイツフェルト・ヤコブ病

2023 年は 3 人の報告があった。病型は古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(ほぼ確実)1 人、家族性 CJD (ほぼ確実)1 人、その他(疑い)1 人であった。性別は男性 1 人、女性 2 人で、年齢階級別は全て 70 歳以上であった。

(カ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2023 年は 23 人の報告があった。性別は男性 17 人、女性 6 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 7 人、70 歳以上 10 人であった。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は創傷感染 10 人、その他 4 人、不明 9 人であった。血清群は、A 群 9 人、B 群 5 人、G 群 7 人、C 群及び G 群 2 人であった。



(キ) 後天性免疫不全症候群

2023 年は 63 人の報告があった。性別は全て男性で、病型は AIDS 患者 11 人、HIV 感染者 52 人(指標疾患以外の有症者 1 人、無症候性キャリア 51 人)であった。

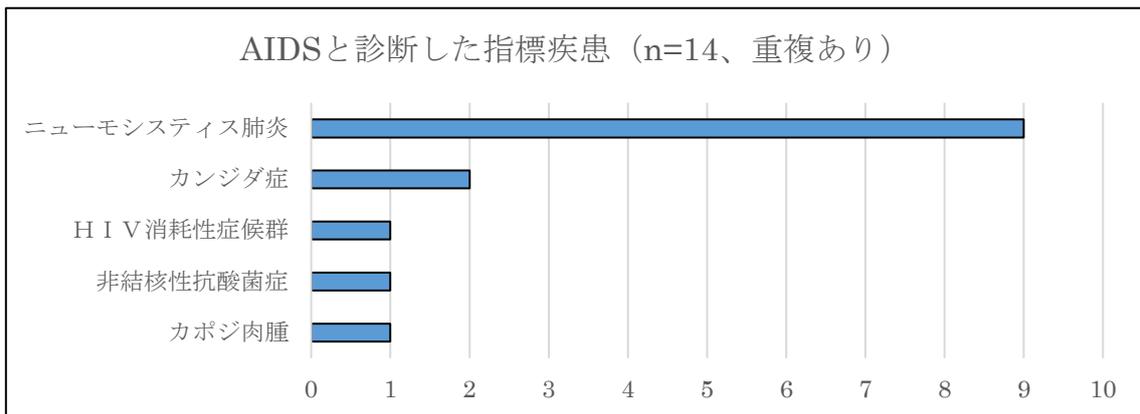
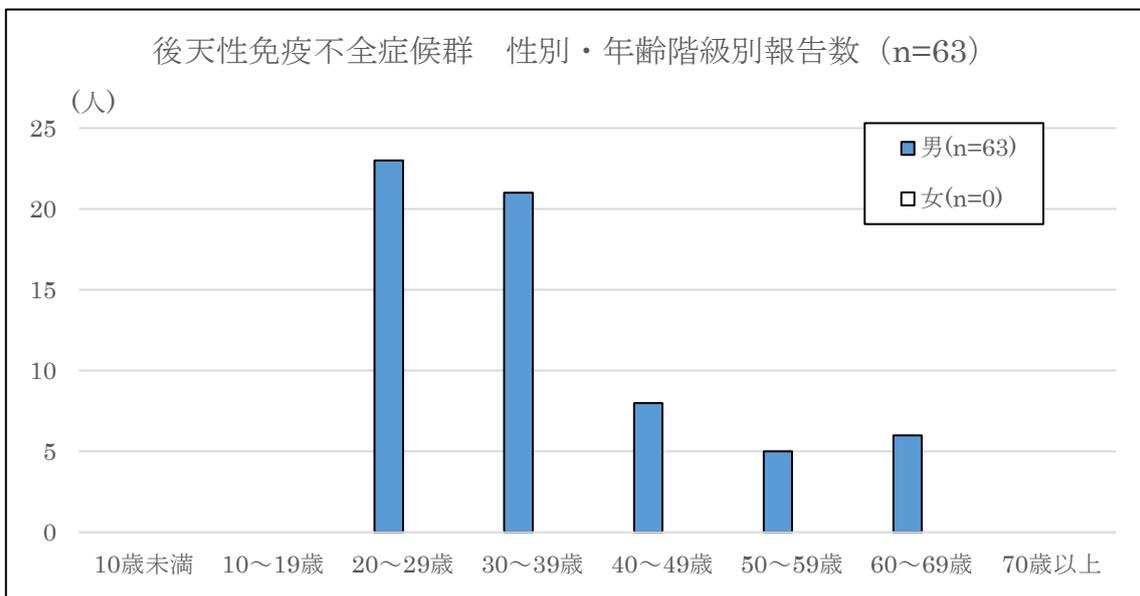
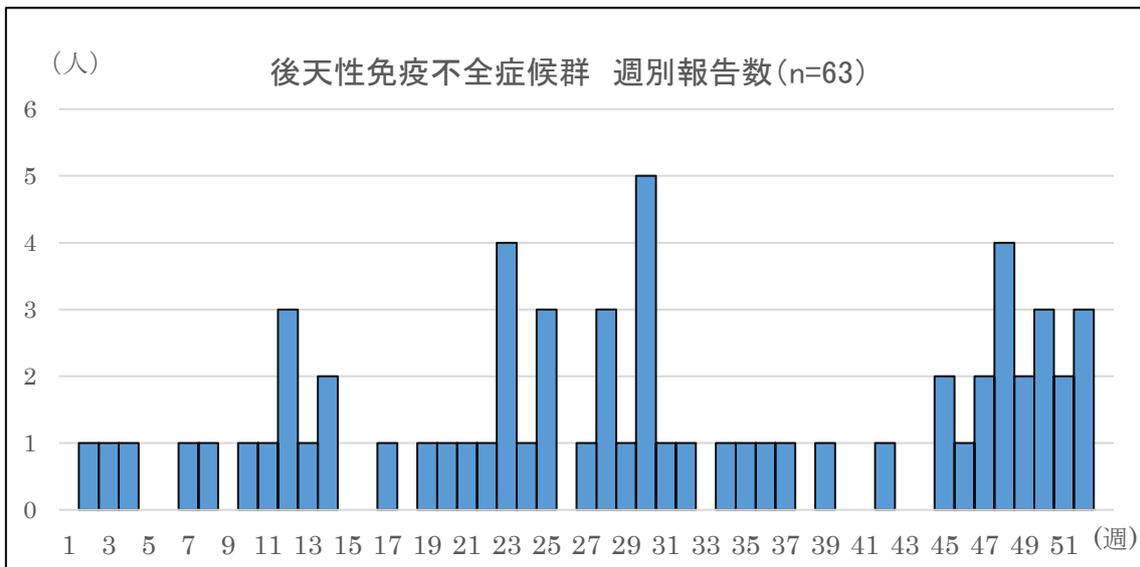
AIDS 患者 11 人の年齢階級別は 30～39 歳 2 人、40～49 歳 3 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 5 人であった。

AIDS と診断した指標疾患は、ニューモシスティス肺炎(9 人)が最多であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 51 人の年齢階級別は、20～29 歳 22 人、30～39 歳 19 人、40～49 歳 5 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 1 人であった。

推定感染地は国内 48 人、国外 6 人(中華人民共和国 2 人、イタリア 1 人、フィリピン 1 人、タイ 1 人、インドネシア 1 人)、不明 9 人であった。

推定感染経路は性的接触 58 人、不明 5 人であった。性的接触は同性間 44 人、異性間 6 人、同性間及び異性間 3 人、性別不明 5 人であった。



(ク) ジアルジア症

2023年は3人の報告があった。性別は全て男性であった。年齢階級別では30～39歳2人、40～49歳1人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染経路は性的接触2人、不明1人であった。

(ケ) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2023 年は 23 人の報告があった。性別は男性 12 人、女性 11 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 3 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 3 人、70 歳以上 13 人であった。

推定感染地は国内 20 人、不明 3 人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 8 人、接触感染 1 人、その他 2 人、不明 12 人であった。

(コ) 侵襲性髄膜炎菌感染症

2023 年は 1 人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別では 10～19 歳であった。

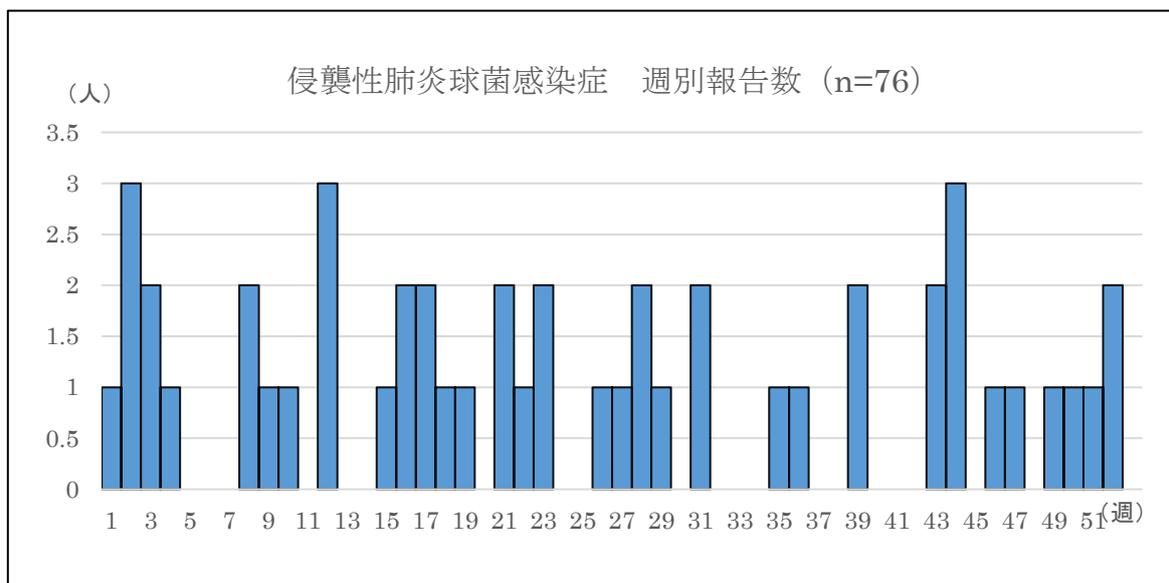
血清群は検査未実施で、ワクチン接種歴は不明であった。

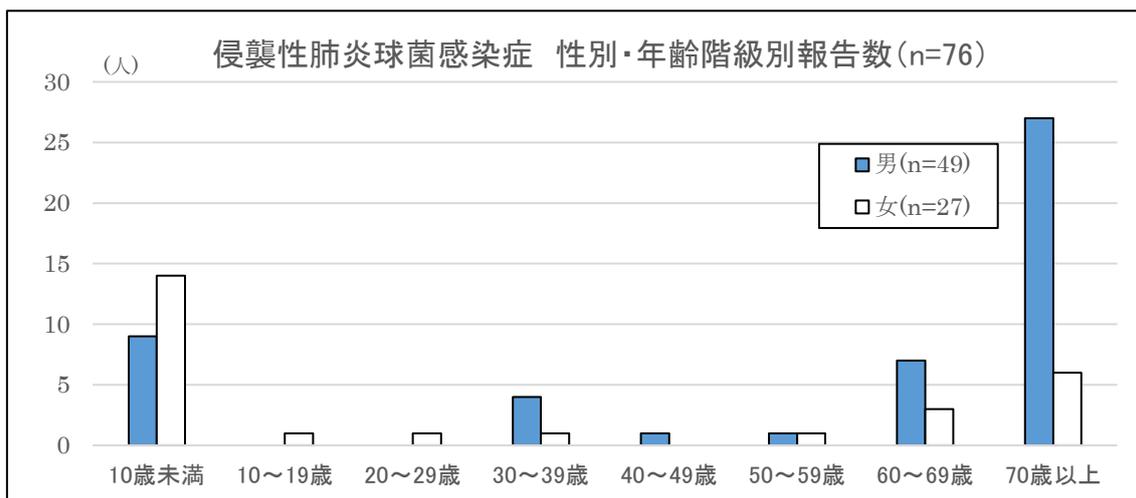
推定感染地は国内で、推定感染経路は不明であった。

(サ) 侵襲性肺炎球菌感染症

2023 年は 76 人の報告があった。性別は男性 49 人、女性 27 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 23 人、10～19 歳 1 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 5 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 10 人、70 歳以上 33 人であった。

推定感染地は国内 63 人、不明 13 人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 20 人、接触感染 1 人、その他 7 人、不明 48 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 15 人、3 回接種 7 人、2 回接種 1 人、接種なし 22 人、不明 31 人であった。





年齢階級別・ワクチン接種歴(n=76)

	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	接種なし	不明	合計
5歳未満	12	7				1	20
5～9歳	2					1	3
10～64歳	1		1		7	4	13
65歳以上					15	25	40
合計	15	7	1	0	22	31	76

(シ) 水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)

2023年は8人の報告があった。性別は男性6人、女性2人で、年齢階級別では10歳未満2人、10～19歳1人、20～29歳3人、30～39歳1人、40～49歳1人であった。

推定感染地は国内6人、不明2人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、接触感染1人、不明5人であった。ワクチン接種歴は接種あり2人、接種なし3人、不明3人であった。

(ス) 梅毒

2023年は1,579人の報告があった。病型別では早期顕症梅毒Ⅰ期566人、早期顕症梅毒Ⅱ期416人、晩期顕症梅毒10人、先天梅毒2人、無症候585人であった。性別は男性749人、女性830人であった。年齢階級別では10歳未満2人、10～19歳79人、20～29歳772人、30～39歳280人、40～49歳217人、50～59歳149人、60～69歳53人、70歳以上27人であった。女性830人中、20～29歳が544人で65.5%を占めた。

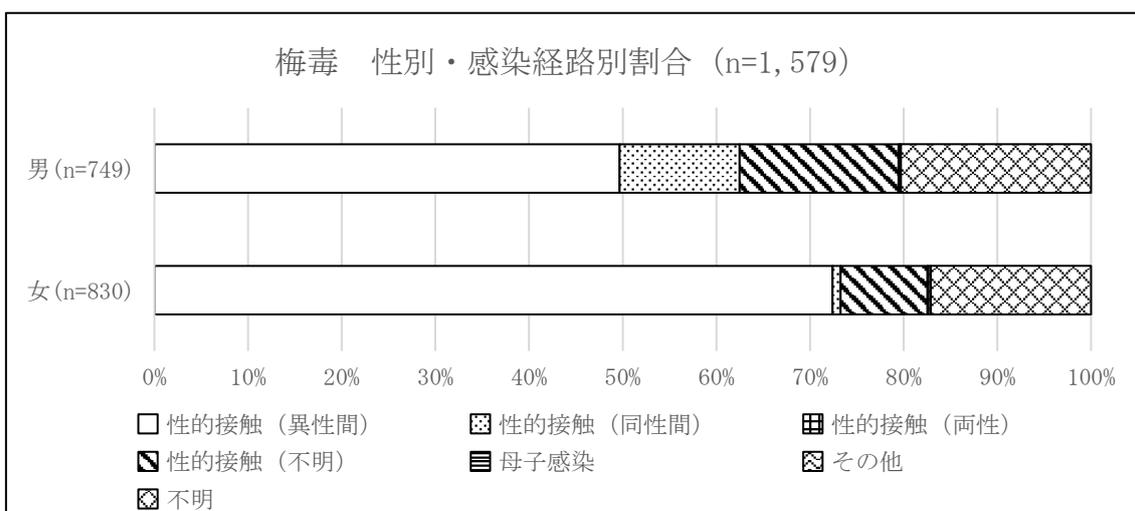
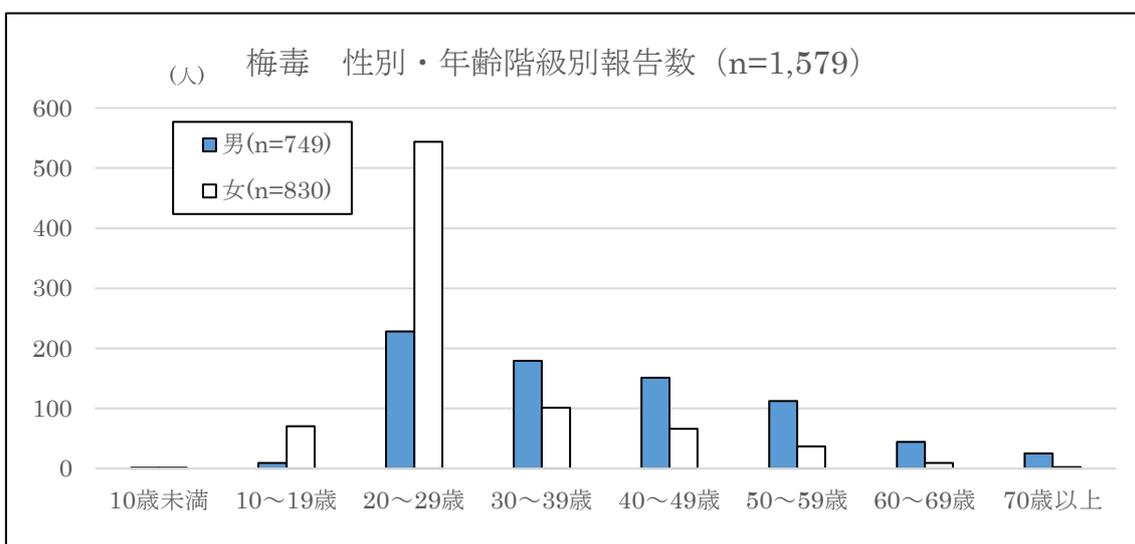
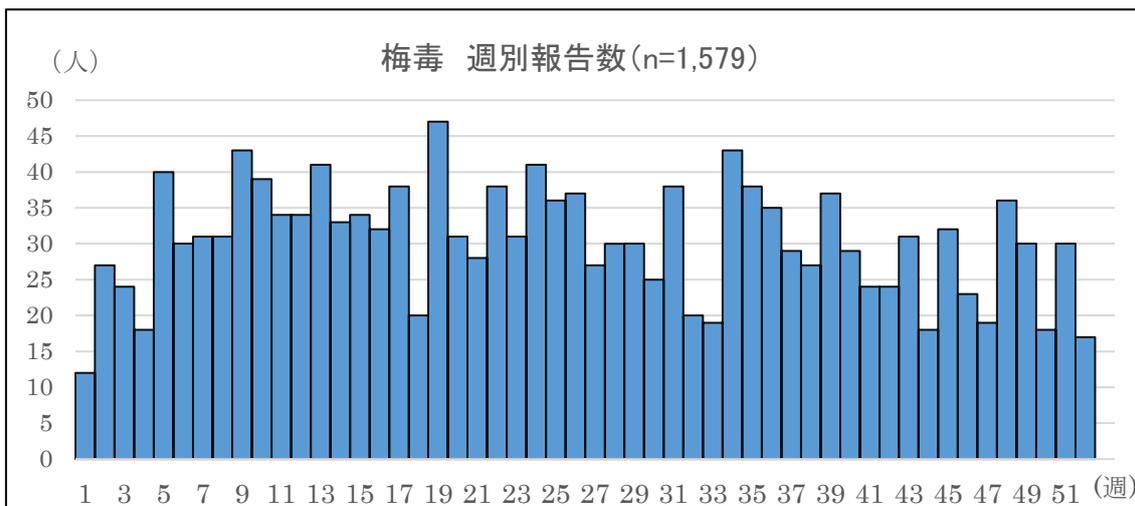
推定感染地は国内1,476人、国外7人(中華人民共和国3人、タイ2人、大韓民国1人、フィリピン1人)、不明96人であった。

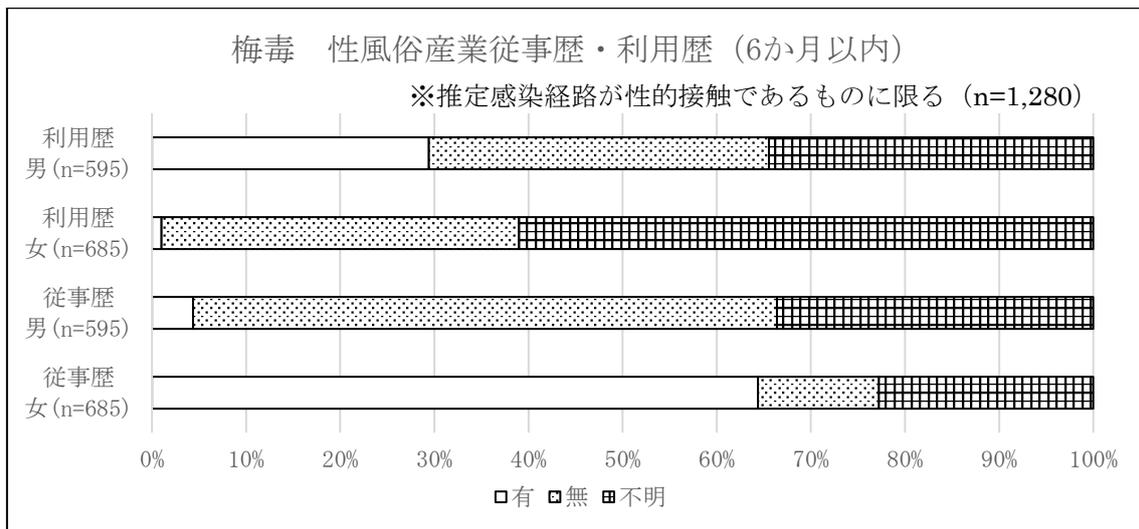
推定感染経路は性的接触1,280人(異性間973人、同性間103人、性別不明204人)、母子感染2人、その他3人、不明294人であった。

性風俗産業従事歴(直近6か月以内)は従事歴有が467人、従事歴無が457人、従事歴不明は356人であった。性風俗産業利用歴(直近6か月以内)は利用歴有が182人、利用歴無が475人、利用歴不明は

623 人であった。

妊娠は女性 749 人のうち妊娠有 32 人(4.3%)であった。HIV 感染症合併は合併有 42 人(男性 41 人、女性 1 人)であった。





(セ) 播種性クリプトコックス症

2023 年は 3 人の報告があった。性別は男性 2 人、女性 1 人で、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、70 歳以上 2 人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染原因は免疫不全 2 人、その他 1 人であった。

(ソ) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

2023 年は 6 人の報告があった。性別は男性 2 人、女性 4 人で、年齢階級別では 60～69 歳 1 人、70 歳以上 5 人であった。

菌種はすべて *Enterococcus faecium* で、耐性遺伝子は *vanA* が 1 人、*vanB* が 5 人であった。

推定感染地は国内 5 人、不明 1 人で、推定感染経路はその他 1 人、不明 5 人であった。

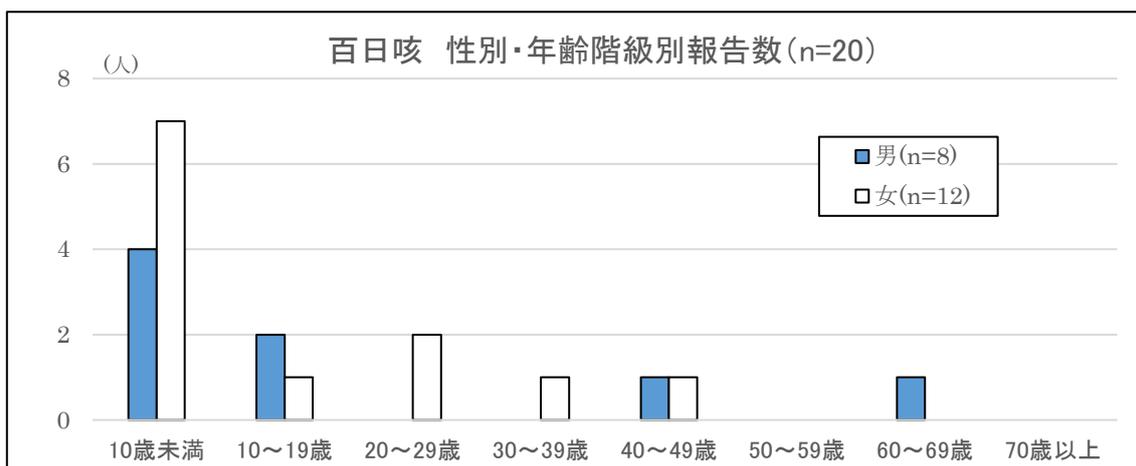
(タ) 百日咳

2023 年は 20 人の報告があった。性別は男性 8 人、女性 12 人で、年齢階級別では 10 歳未満 11 人、10～19 歳 3 人、20～29 歳 2 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、60～69 歳 1 人であった。0～14 歳までの小児患者報告数は 12 人で、全体の 60.0%を占めた。

百日咳含有ワクチン接種歴別では、4 回接種 10 人、2 回接種 1 人、接種なし 2 人、不明 7 名であった。

診断方法は、抗体検査 10 人、抗原検査 10 人であった。

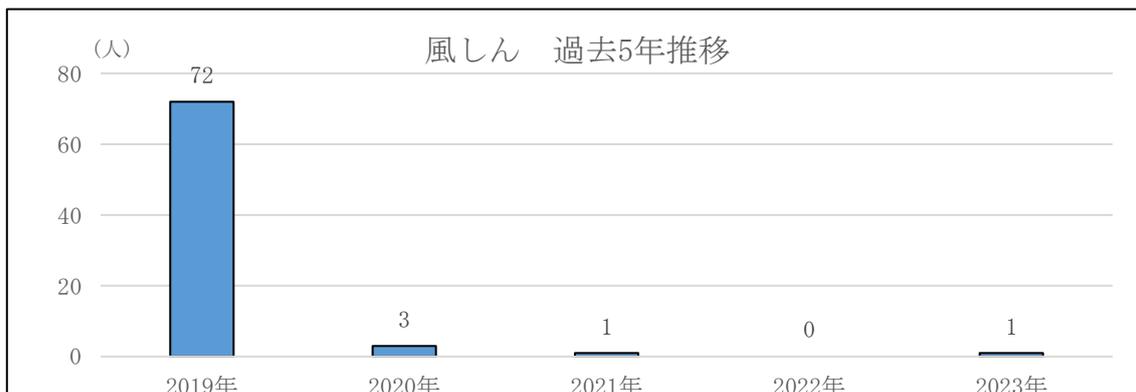
推定感染地は国内 14 人、不明 6 人であった。



(チ) 風しん

2023年は1人の報告があり、検査診断例であった。性別は男性で、年齢階級別は40～49歳、血清IgM抗体の検出であった。

風しん含有ワクチン接種歴は不明で、推定感染地は国内であった。

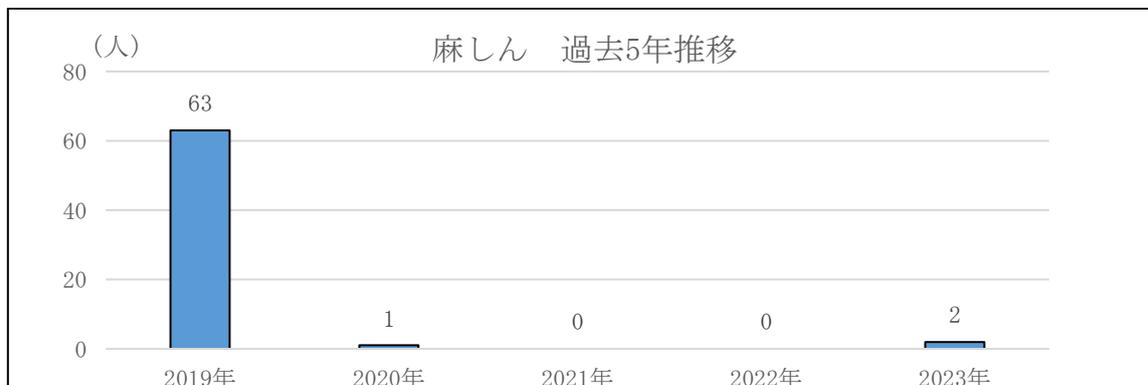


(ツ) 麻しん

2023年は2人の報告があり、麻しん(検査診断例)が1人、修飾麻しん(検査診断例)が1人であった。性別は全て女性で、年齢階級別は全て20～29歳であった。

麻しん含有ワクチンの接種歴は、2回接種1人、不明1人であった。

推定感染地は国内1人、不明1人であった。



(テ) その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、クリプトスポリジウム症、先天性風しん症候群、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症

週別全数把握感染症発生状況 2023年

類	疾患名	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	痘そう																		
	南米出血熱																		
	ペスト																		
二類	マールブルグ病																		
	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	ジフテリア																		
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る。)																		
三類	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるものに限る。)																		
	鳥インフルエンザ(H5N1)																		
	鳥インフルエンザ(H7N9)																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢																		
四類	腸管出血性大腸菌感染症				4			1		1							2		
	腸チフス							1											
	パラチフス																		
	E型肝炎			1								1							
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)												1						
五類	A型肝炎																		
	エキノコックス症																		
	エムボックス(※)												2	5		1			
	黄熱																		
	オウム病																		
六類	オムスク出血熱																		
	回帰熱																		
	キャサスル森林病																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
七類	コクシジオイデス症																		
	ジカウイルス感染症																		
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)																		
	腎症候性出血熱																		
	西部ウマ脳炎																		
八類	ダニ媒介脳炎																		
	炭疽																		
	チクングニア熱																		
	つつが虫病																		
	デング熱														1				
九類	東部ウマ脳炎																		
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱																		
	日本脳炎																		
十類	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	鼻疽																		
	ブルセラ症																		
	ペネズエラウマ脳炎																		
十一類	ヘンドラウイルス感染症																		
	発しんチフス																		
	ポツリヌス症																		
	マラリア																		
	野兔病																		
十二類	ライム病																		
	リッサウイルス感染症																		
	リフトバレー熱																		
	類鼻疽																		
	レジオネラ症			1	1			1	1	3	1				1		1	1	
十三類	レプトスピラ症																		
	ロッキーマウンテン紅斑熱																		
	アメーバ赤痢	1			1				1				2	1			1		1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)							1				1							1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(※)	1		1	2	1		1	1		1	2	2	1		1	3	2	3
十四類	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)										1				1				
	クリプトスポリジウム症																		
	クロイツフェルト・ヤコブ病																	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	3	1	2			1				2	1			1	1
十五類	後天性免疫不全症候群			1	1	1			1	1		1	1	3	1	2			1
	ジアルジア症												1						
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1											1			2	2		1
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1													
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	3	2	1				1	2	3	1		3	1		2	2	2
十六類	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)													1				1	
	先天性風しん症候群																		
	梅毒	12	27	24	18	40	30	31	31	43	39	34	34	41	33	34	32	38	20
	播種性クリプトコックス症																1	1	1
	破傷風																		
十七類	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1		1										1					1
	百日咳			1		1				1					1		1	2	
	風しん																		
	麻疹																		
薬剤耐性アシネトバクター感染症																			

※2023年5月26日にサル痘はエムボックスに名称変更になった。
 ※2023年5月26日にカルバペネム耐性腸内細菌目細菌はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌に名称変更になった。

週別全数把握感染症発生状況 2023年

類	疾患名	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	
一類	エボラ出血熱																			
	クリミア・コンゴ出血熱																			
	痘そう																			
	南米出血熱																			
	ペスト																			
	マールブルグ病																			
二類	ラッサ熱																			
	急性灰白髄炎																			
	ジフテリア																			
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る。)																			
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるものに限る。)																			
	鳥インフルエンザ(H5N1)																			
三類	鳥インフルエンザ(H7N9)																			
	コレラ																			
	細菌性赤痢																			
	腸管出血性大腸菌感染症		1		2	2	1	5	3	2	3	2	11	2	6	5	7	2	1	
	腸チフス					1								1						
	パラチフス																			
四類	E型肝炎			1			1								2					
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)																			
	A型肝炎																			
	エキノコックス症																			
	エムボックス(※)	2	2	1	1	3														
	黄熱																			
	オウム病																			
	オムスク出血熱																			
	回帰熱																			
	キャサナル森林病																			
	Q熱																			
	狂犬病																			
	コクシジオイデス症																			
	ジカウイルス感染症																			
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)																			
	腎症候性出血熱																			
	西部ウマ脳炎																			
	ダニ媒介脳炎																			
	炭疽																			
	チクングニア熱																			
	つつが虫病																			
	デング熱														1			1		1
	東部ウマ脳炎																			
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)																			
	ニパウイルス感染症																			
	日本紅斑熱														1					
	日本脳炎																			
	ハンタウイルス肺症候群																			
	Bウイルス病																			
	鼻疽																			
	ブルセラ症																			
	ペネズエラウマ脳炎																			
ヘンドラウイルス感染症																				
柴しんチフス																				
ポツリヌス症																				
マラリア																				
野兔病																				
ライム病																				
リッサウイルス感染症																				
リフトバレー熱																				
類鼻疽																				
レジオネラ症		1				3	4	1		1	1	1		1		1				
レプトスピラ症																				
ロッキー山紅斑熱																				
五類	アメーバ赤痢			1	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1	1	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)									1	2					1	1			
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(※)		1	1		1	1			1	2		2		1	1		2	3	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																			
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)																			
	クリプトスポリジウム症																			
	クロイツフェルト・ヤコブ病																			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1						1				2			1			
	後天性免疫不全症候群	1	1	1	1	4	1	3			1	3	1	5	1	1		1	1	1
	ジアルジア症																			
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1	2	1	1	1				1			1	1				
	侵襲性髄膜炎菌感染症																			
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		2	2	2	2	1	1	2	1	3	1		2			1	1	2
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)						1							1						1
	先天性風しん症候群																			
	梅毒	47	31	28	38	31	41	36	37	27	30	30	30	25	38	20	19	43	38	35
	播種性クリプトコックス症																			
	破傷風																			
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1																
	百日咳							1	1	1				1			1			1
	風しん																			
麻疹				2																
薬剤耐性アシネトバクター感染症																				

※2023年5月26日にサル痘はエムボックスに名称変更になった。
 ※2023年5月26日にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌に名称変更になった。

週別全数把握感染症発生状況 2023年

類	疾患名	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週	累積数	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	痘そう																		
	南米出血熱																		
	ペスト																		
二類	マールブルグ病																		
	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	ジフテリア																		
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る。)																		
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるものに限る。)																		
	鳥インフルエンザ(H5N1)																		
	鳥インフルエンザ(H7N9)																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢																		
三類	腸管出血性大腸菌感染症		3	1		2	8	3	4		3	2	10	6	1			106	
	腸チフス																	3	
	パラチフス																		
	E型肝炎					1						1				1		9	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)																		
	A型肝炎		1					1										2	
	エキノコックス症																		
	エムボックス(※)								2										19
	黄熱																		
	オウム病																		
四類	オムスク出血熱																		
	回帰熱																		
	キャサナル森林病																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	コクシジオイデス症																		
	ジカウイルス感染症																		
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)																		
	腎症候性出血熱																		
	西部ウマ脳炎																		
	ダニ媒介脳炎																		
	炭疽																		
	チクングニア熱																		
	つつが虫病																		
	デング熱	1		3						1		1		2			1		13
	東部ウマ脳炎																		
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱		1																2
	日本脳炎											1							1
	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	鼻疽																		
	ブルセラ症																		
	ペネズエラウマ脳炎																		
	ヘンドラウイルス感染症																		
	発しんチフス																		
	ポツリヌス症																		
	マラリア					1						1							2
	野兔病																		
ライム病							1											1	
リッサウイルス感染症																			
リフトバレー熱																			
類鼻疽																			
レジオネラ症			1	2	1	1	1			1	2		1			1		36	
レプトスピラ症			1	2														3	
ロッキー山紅斑熱																			
五類	アメーバ赤痢	1									1			1	1	1		24	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)								1			1				1	1	12	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(※)	2	2	2	4	4		4	2	1	1	1			2	2	1	66	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)																		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)																		2
	クリプトスポリジウム症																		
	クロイツフェルト・ヤコブ病										1					1			3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									1				2	1	1			23
	後天性免疫不全症候群	1		1				1			2	1	2	4	2	3	2	3	63
	ジアルジア症												1				1		3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		2	1							1	1	1					23
	侵襲性髄膜炎菌感染症																		1
	侵襲性肺炎球菌感染症			2	1				3	4	2	1	1	1	2	3	1	6	76
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)			1						1	1								8
	先天性風しん症候群																		
	梅毒	29	27	37	29	24	24	31	18	32	23	19	36	30	18	30	17		1579
	播種性クリプトコックス症																		3
	破傷風																		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																	1	6
百日咳							1			1	1			2	2			20	
風しん			1															1	
麻疹																		2	
薬剤耐性アシネトバクター感染症																			

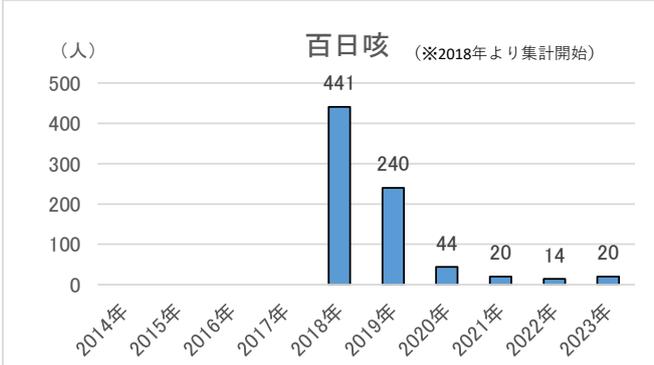
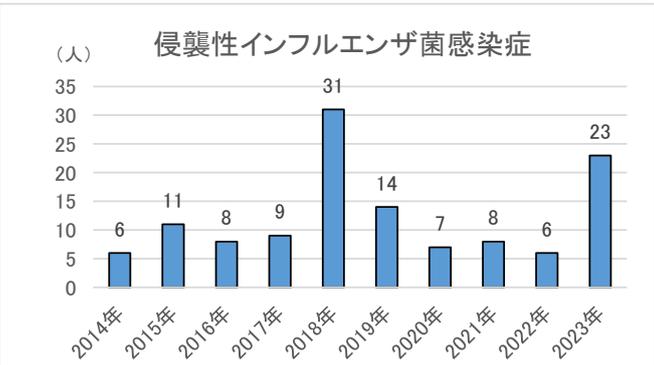
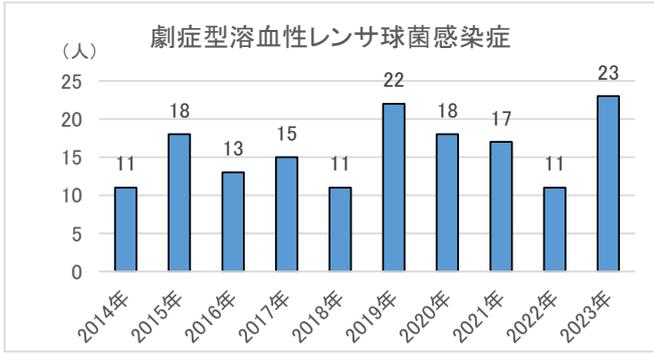
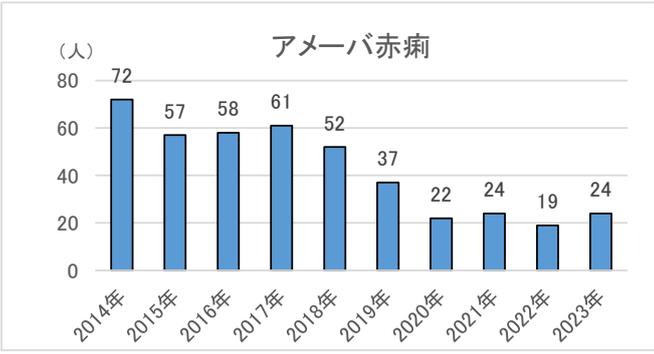
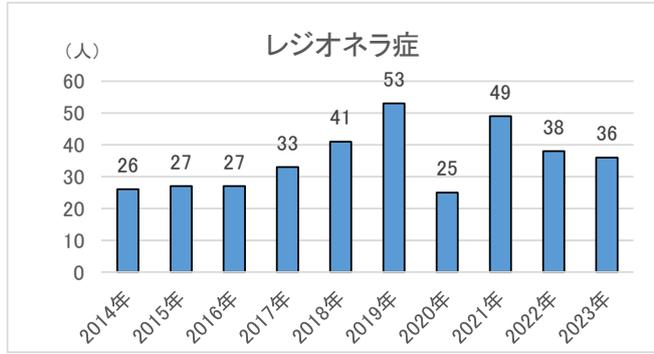
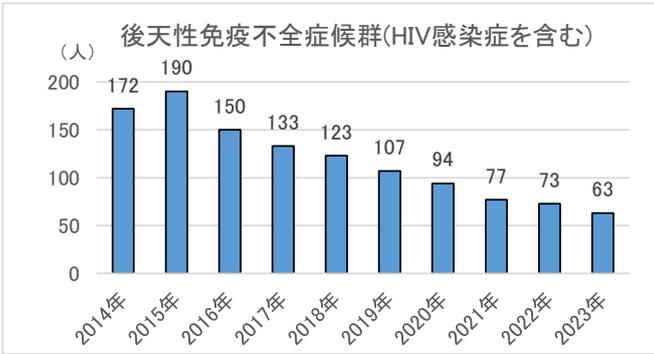
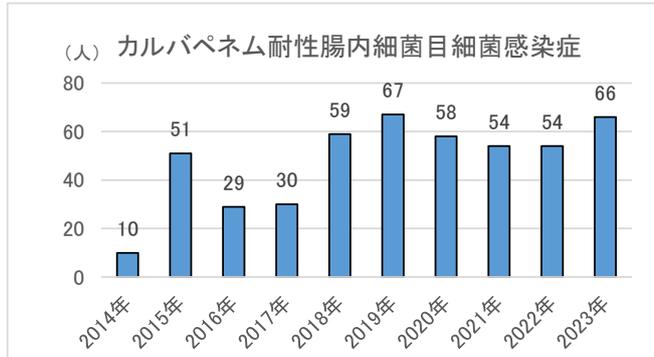
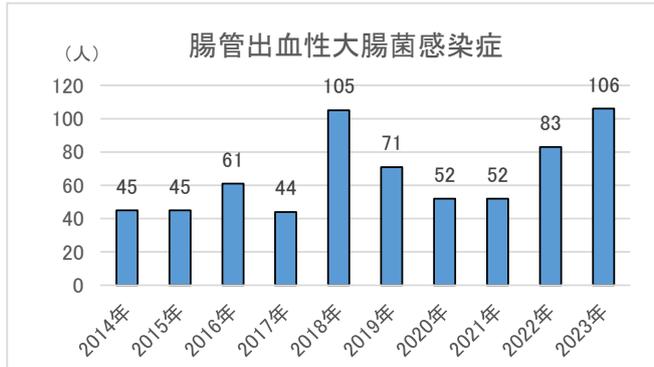
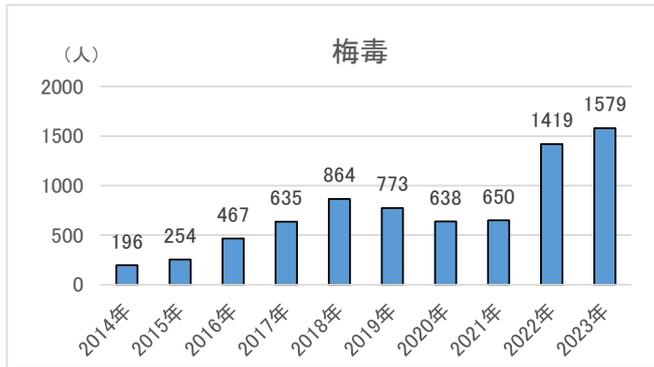
※2023年5月26日にサル痘はエムボックスに名称変更になった。
 ※2023年5月26日にカルバペネム耐性腸内細菌目細菌は
 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌に名称変更になった。

過去10年全数把握感染症発生状況

	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	
一類	エボラ出血熱										
	クリミア・コンゴ出血熱										
	痘そう										
	南米出血熱										
	ペスト										
	マールブルグ病										
二類	ラッサ熱										
	急性灰白髄炎										
	ジフテリア										
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る。)										
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるものに限る。)										
	鳥インフルエンザ(H5N1)										
三類	鳥インフルエンザ(H7N9)										
	コレラ							1			
	細菌性赤痢				1	3	3	4	3	1	4
	腸管出血性大腸菌感染症	106	83	52	52	71	105	44	61	45	45
	腸チフス	3						2		2	3
	パラチフス							1	1		1
四類	E型肝炎	9	4	3	2	1	3	6	2	1	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)										
	A型肝炎	2	2	1	4	8	40	9	13	7	12
	エキノコックス症		1								
	エムボックス(※)	19									
	黄熱										
	オウム病		1								
	オムスク出血熱										
	回帰熱										
	キャサヌル森林病										
	G熱										
	狂犬病										
	コクシジオイデス症										
	ジカウイルス感染症										
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTSウイルスであるものに限る。)										
	腎症候性出血熱										
	西部ウマ脳炎										
	ダニ媒介脳炎										
	炭疽										
	チクングニア熱					1		1	1	1	
	つつが虫病					1		1	1		
	デング熱	13	2		3	19	11	10	10	13	5
	東部ウマ脳炎										
	鳥インフルエンザ										
	ニパウイルス感染症										
	日本紅斑熱	2	1	1	3	2	3				
	日本脳炎	1									
ハンタウイルス肺症候群											
Bウイルス病											
鼻疽											
ブルセラ症				1							
ベネズエラウマ脳炎											
ヘンドラウイルス感染症											
発しんチフス											
ポツリヌス症				1							
マラリア	2	3	4	2	1	5	1	1	1	1	
野兔病											
ライム病	1									1	
リッサウイルス感染症											
リフトバレー熱											
類鼻疽											
レジオネラ症	36	38	49	25	53	41	33	27	27	28	
レプトスピラ症	3							1	1	2	
ロッキー山紅斑熱											
五類	アメーバ赤痢	24	19	24	22	37	52	61	58	57	72
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	12	9	6	7	11	5	7	10	9	18
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(※)	66	54	54	58	67	59	30	29	51	10
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		1	1							
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	2		1	4	4	5	6	7	8	9
	クリプトスポリジウム症				1	2		2	1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	5	2	3	4	6	1	3	4	6
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23	11	17	18	22	11	15	13	18	11
	後天性免疫不全症候群	63	73	77	94	107	123	133	150	190	172
	ジアルジア症	3			3	2	2	1	5	7	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	23	6	8	7	14	31	9	8	11	6
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	1			3	2	1	1	1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	76	34	44	38	98	97	102	91	68	45
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	8	6	6	4	10	14	11	17	17	2
	先天性風しん症候群										
	梅毒	1579	1419	650	638	773	864	635	467	254	198
	播種性クリプトコックス症	3	3	3	1	4	5	2	6	4	4
	破傷風					1		5	3	2	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	6	9	10	4	8	4	5		2	2
	百日咳	20	14	20	44	240	441				
	風しん	1		1	3	72	53	6	8	6	9
	麻疹	2			1	63	5	1	15	1	17
薬剤耐性アシネトバクター感染症						1		1			

※2023年5月26日にサル痘はエムボックスに名称変更になった。
 ※2023年5月26日にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌はカルバペネム耐性腸内細菌目細菌に名称変更になった。

過去10年全数把握感染症発生状況(経年変化)※2023年届出数上位10疾患を抜粋



3 新型コロナウイルス感染症

ア 新型インフルエンザ等感染症

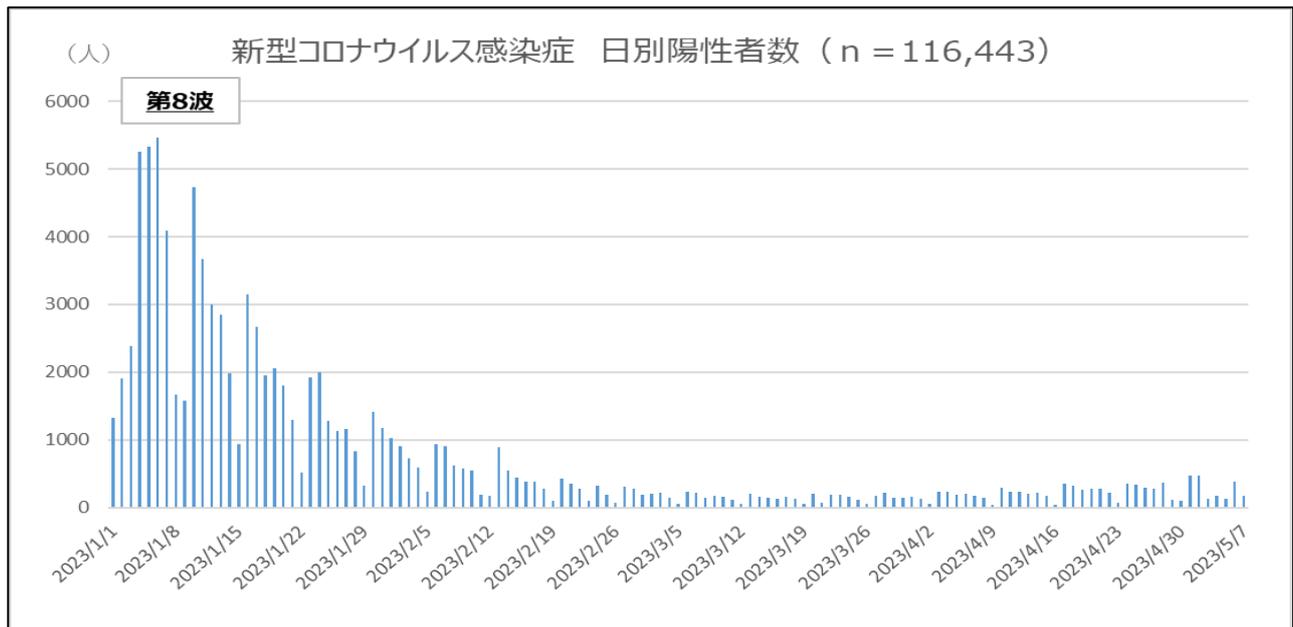
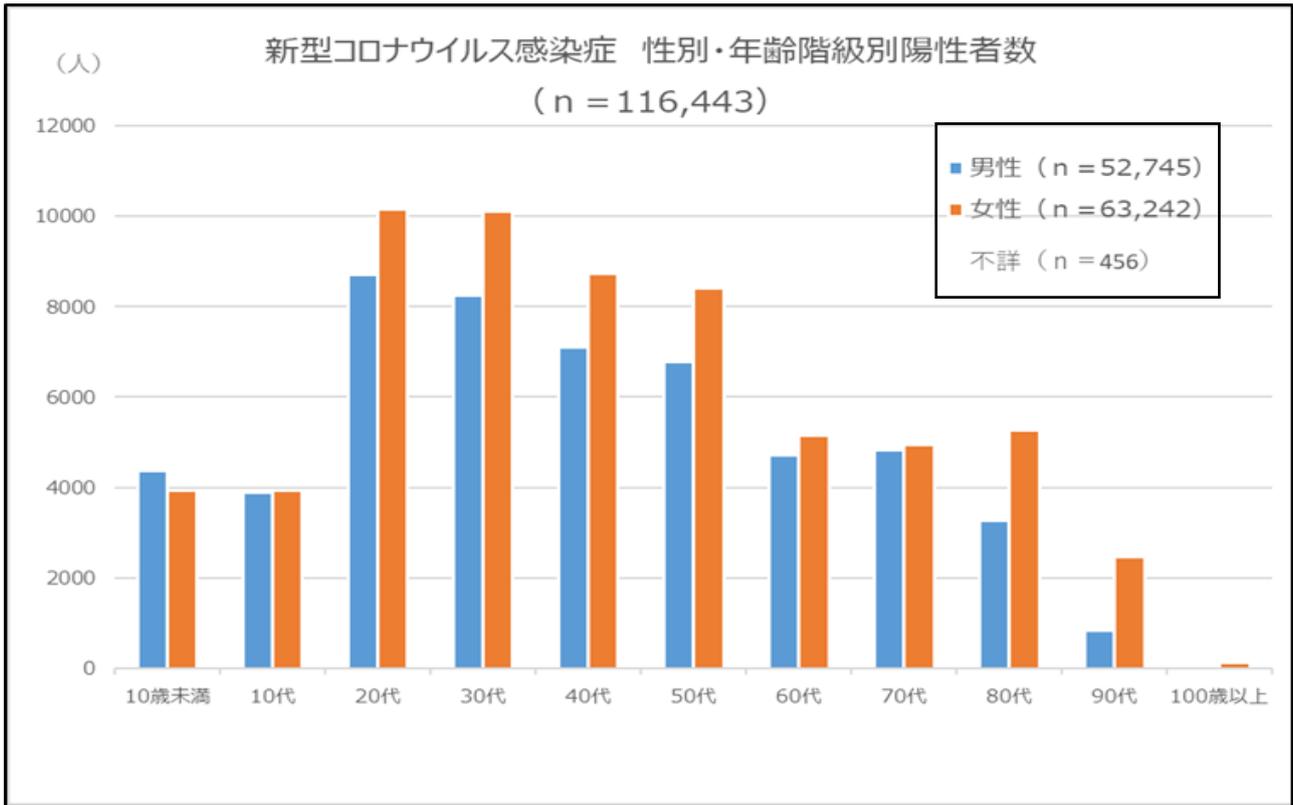
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2023年5月8日に感染症法上の位置付けが5類感染症となり、指定医療機関による定点での把握に変更された。これにより、行政が患者に対し外出自粛を要請することはなくなり、就業制限や入院勧告の措置がなくなった。なお、患者の急激な医療費の負担増を回避するため、自己負担等に係る一定の公費支援は令和6年3月末日まで継続された。

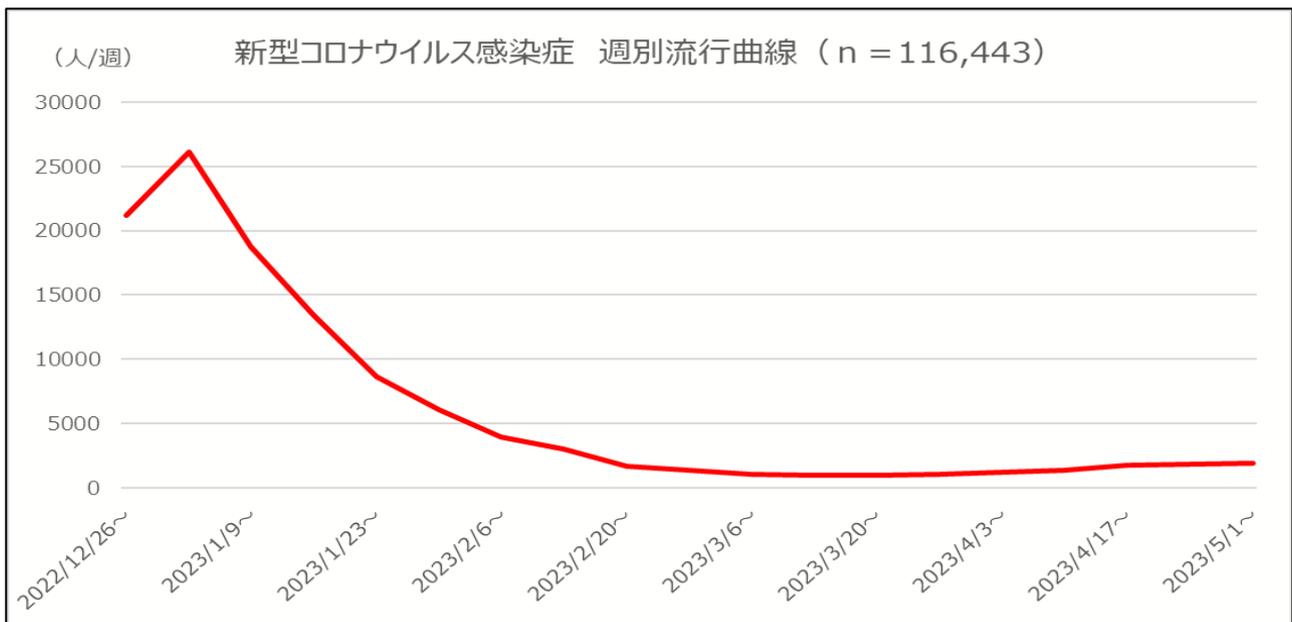
(以下、2023年1月1日から5月8日位置付け変更までのデータである)

2023年の陽性者数は116,443人で、一日最大報告数は1月7日(第1週)で5,468人であった。性別では、[※]男性52,745人、女性63,242人、不詳456人で女性が男性を上回り、年齢別では10歳未満8,329人、10代7,855人、20代18,930人、30代18,421人、40代15,866人、50代15,214人、60代9,907人、70代9,811人、80代8,589人、90代3,360人、100歳以上148人、不詳13人であり、20代が最多(16.3%)であった。

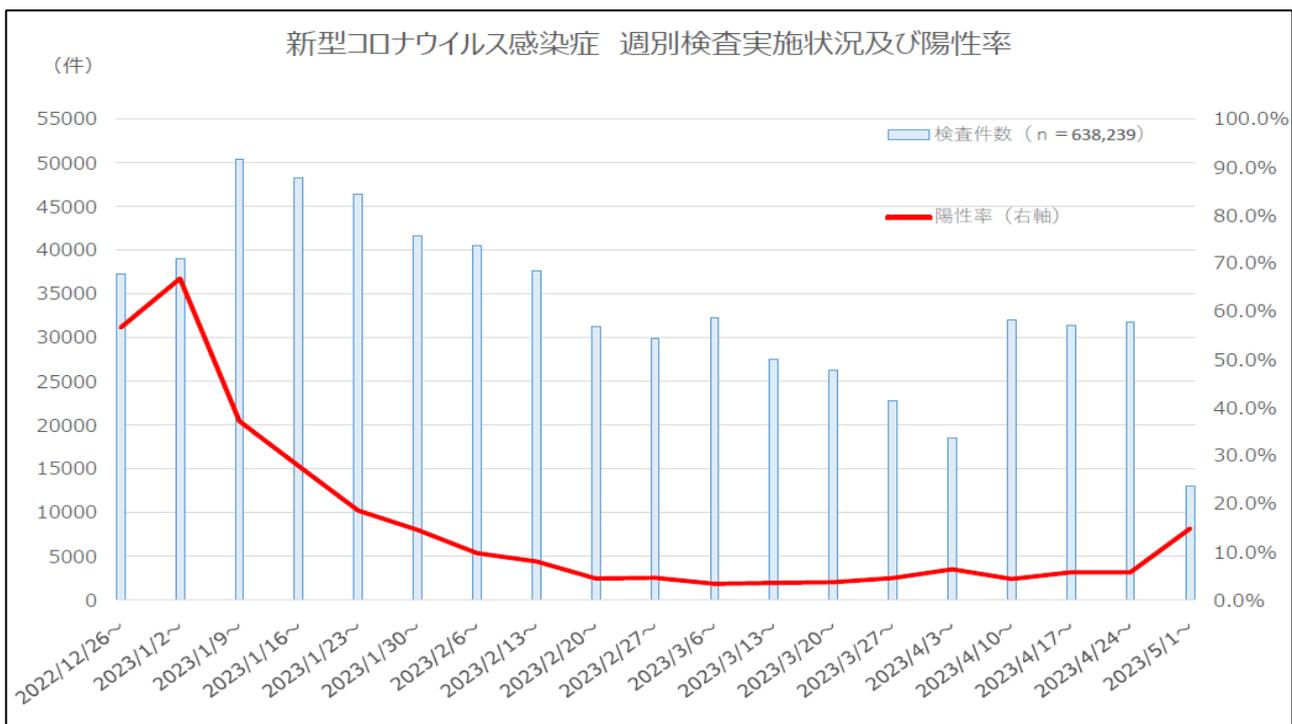
なお、大阪府では、2022年9月27日から2023年5月8日を「第8波」としている。

※ 2023年の陽性者数116,443人に対する性別データがないことから、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)及び大阪府療養者情報システム(O-CIS)に登録されている陽性者数の男女比を基に算出。



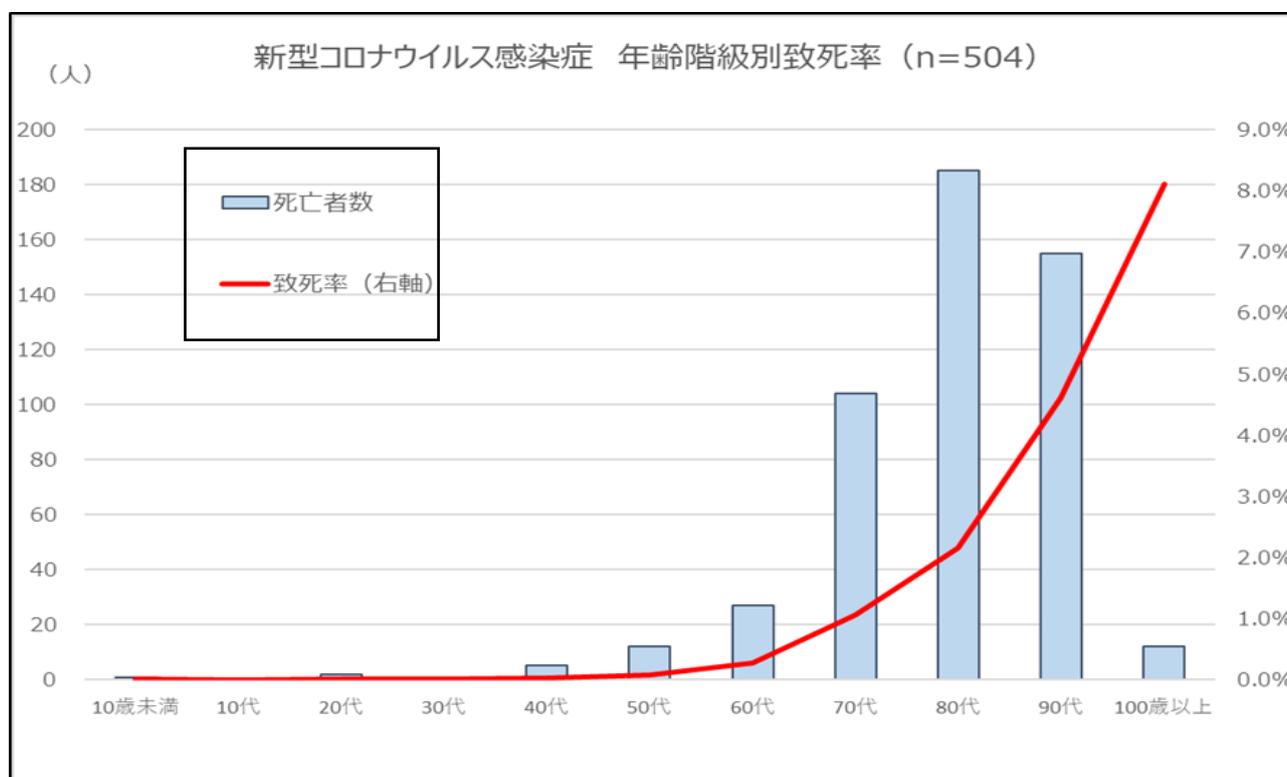
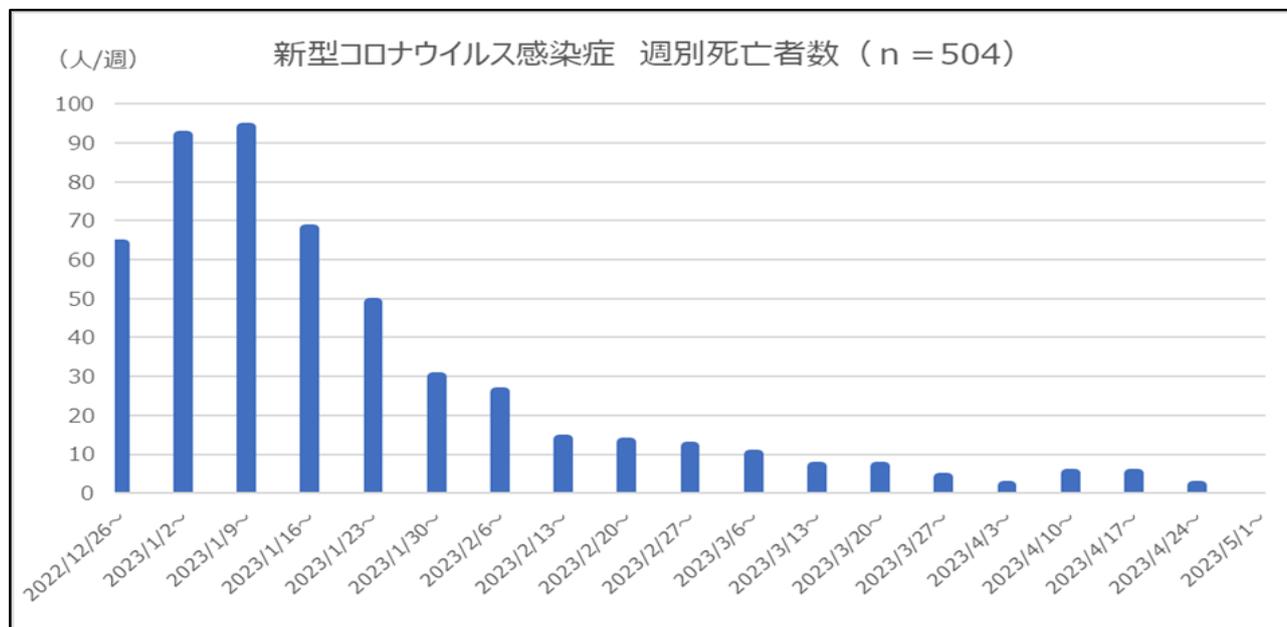


年間の検査実施件数は 638,239 件で、一日の最大検査数は1月 11 日 (第2週) で 11,547 件であった。陽性率は年間平均で 18.2%、一週間当たりの陽性率は1月2日から1月8日 (第1週) が最大で 66.9%であった。



年間の死亡者数は 504 人で、一日の最大報告数は1月5日(第1週)と1月 13 日(第2週)が同数で 19 人であった。

年齢別では 10 歳未満 1 人、10 代 0 人、20 代 2 人、30 代 1 人、40 代 5 人、50 代 12 人、60 代 27 人、70 代 104 人、80 代 185 人、90 代 155 人、100 歳以上 12 人であり、死亡者の割合(致死率)は、60 代以下は 1.0%未満、70 代 1.1%、80 代 2.2%、90 代 4.6%、100 歳以上 8.1%となった。



イ インフルエンザ/COVID-19定点把握疾患

COVID-19

※2023年5月8日 定点把握感染症へ移行

2023年の新型コロナウイルス感染症の報告数は、16,798人、定点当たりの報告数の年平均は、5.95であった。
5月8日の定点把握感染症への移行後において、2023年については、第30週がピークで14.33となった。



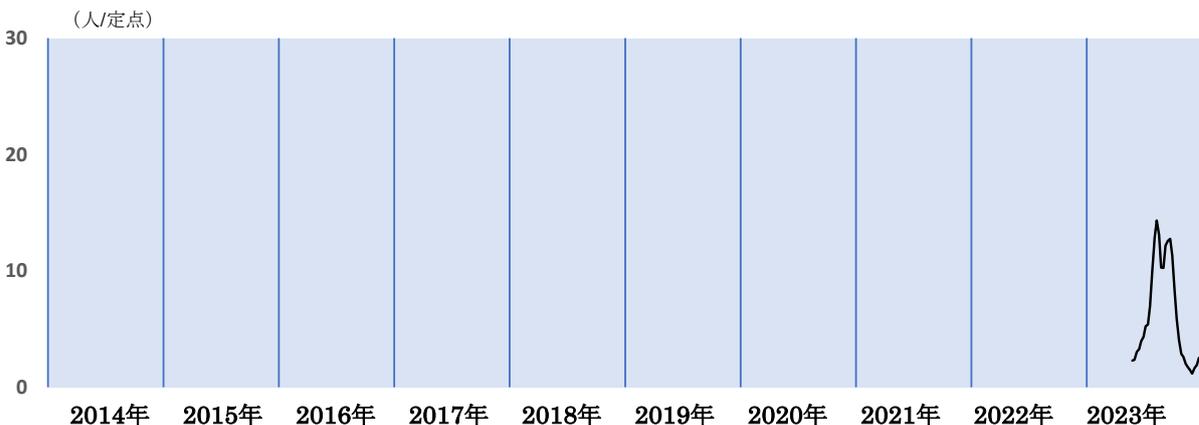
《ブロック別・週別定点当たり報告数》

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
市																		
北部																		
西部																		
東部																		
南部																		

週	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
市	2.29	2.35	3.04	3.28	3.95	4.33	5.23	5.37	6.95	10.06	12.88	14.33	13.10	10.28	10.25	12.17	12.57	12.75
北部	2.25	2.15	3.10	3.15	4.55	5.10	5.70	5.35	7.70	9.45	14.45	15.85	14.00	12.50	13.10	12.10	13.50	13.05
西部	1.80	2.53	2.60	3.47	3.93	4.67	5.80	5.40	6.40	11.27	12.53	13.27	10.00	12.27	9.67	10.13	10.93	10.47
東部	3.33	2.00	3.14	3.81	4.62	4.10	4.95	5.62	6.62	9.38	10.90	11.48	12.52	8.52	8.10	12.05	11.05	11.76
南部	1.77	2.69	3.15	2.85	2.96	3.73	4.78	5.19	6.96	10.37	13.44	16.00	14.59	8.89	10.15	13.44	13.96	14.56

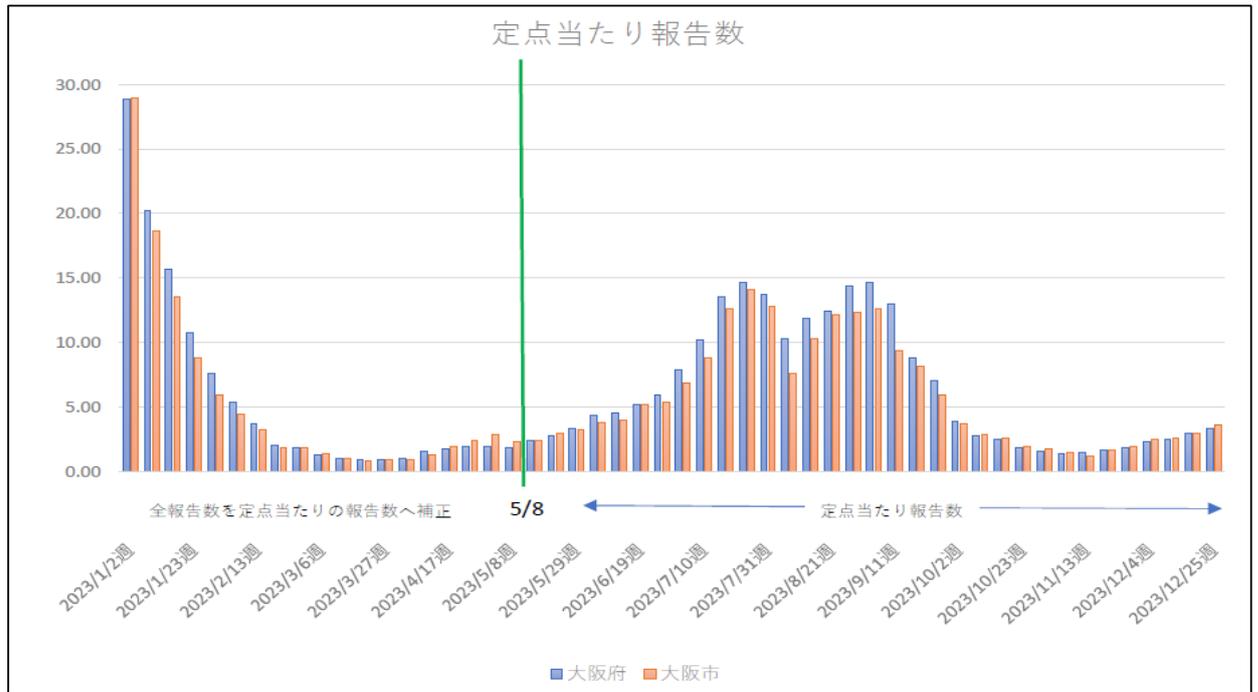
週	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	平均
市	11.34	8.33	5.94	4.07	2.87	2.61	2.00	1.75	1.46	1.17	1.64	1.90	2.51	2.61	2.96	4.06	5.95
北部	10.85	7.25	6.25	3.85	3.10	3.26	1.84	2.53	1.95	1.16	1.55	2.20	2.85	2.55	2.50	3.90	6.31
西部	10.20	9.20	4.80	3.93	2.33	2.53	1.47	1.40	1.33	0.87	2.40	1.73	2.07	2.53	3.20	6.53	5.70
東部	9.52	8.00	5.33	4.00	2.50	2.05	1.82	1.18	1.18	1.68	1.45	1.91	3.00	3.00	2.91	4.09	5.52
南部	13.74	8.89	6.81	4.37	3.30	2.67	2.56	1.85	1.41	0.93	1.44	1.78	2.11	2.37	3.22	2.78	6.17

定点当たり報告数 経年変化(2014年第1週～2023年第52週)



【参考】2023年定点報告数

※5月7日以前の数值は、届出データに基づく定点医療機関からの患者数(参考値)

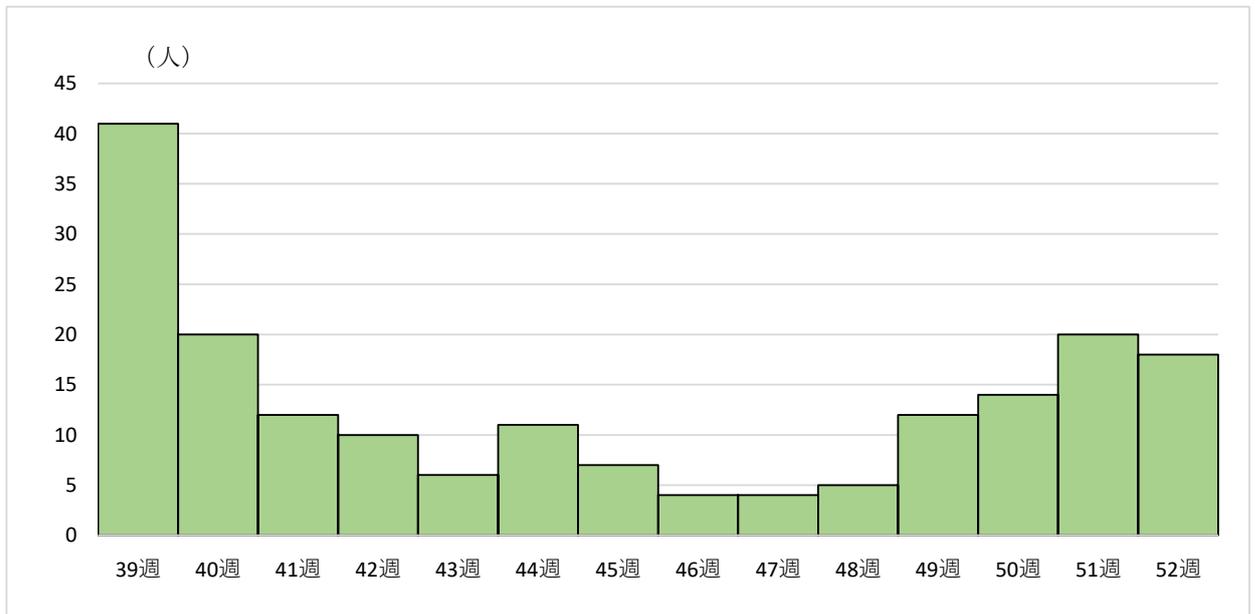


※2023年9月25日新たに追加

COVID-19入院サーベイランス

COVID-19患者の入院者数の発生動向を把握することを目的に、2023年第39週より開始された。
2023年においては、第39週がピークとなり41人であった。

週別入院患者数（2023年）



2023年 COVID-19入院基幹定点サーベイランス患者累積数（年齢階級別・性別・入院時の対応別）

		1歳未満	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	合計	総計
入院患者数	男性	5	4	1	0	1	2	2	1	10	15	36	31	108	184
	女性	4	2	1	2	0	3	2	1	5	8	14	34	76	
ICU入室	男性	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	4	1	11	17
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	6	
人工呼吸器の利用	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	7
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4	
いずれにも該当せず	男性	5	4	1	0	1	1	2	1	8	12	32	30	97	166
	女性	4	2	1	2	0	3	2	1	5	7	13	29	69	

※「ICU入室」及び「人工呼吸器の利用」については、同一人物でそれぞれに計上されていることがあるため、「入院患者数」の総計と「ICU入室」、「人工呼吸器の利用」、「いずれにも該当せず」の合計は一致しない。

大阪市感染症発生動向調査事業実施要綱

第1条 目的

感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の提供・公開により、これらの疾病に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として、本事業を実施する。

第2条 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、次のとおりとする。

1 全数把握の対象

〔一類感染症〕

- (1)エボラ出血熱 (2)クリミア・コンゴ出血熱 (3)痘そう
- (4)南米出血熱 (5)ペスト (6)マールブルグ病 (7)ラッサ熱

〔二類感染症〕

- (8)急性灰白髄炎 (9)結核 (10)ジフテリア
- (11)重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)
- (13)鳥インフルエンザ(H5N1) (14)鳥インフルエンザ(H7N9)

〔三類感染症〕

- (15)コレラ (16)細菌性赤痢 (17)腸管出血性大腸菌感染症
- (18)腸チフス (19)パラチフス

〔四類感染症〕

- (20)E型肝炎 (21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)(22)A型肝炎
- (23)エキノкокクス症 (24)エムポックス (25)黄熱 (26)オウム病 (27)オムスク出血熱
- (28) 回帰熱 (29) キャサヌル森林病 (30)Q熱 (31) 狂犬病
- (32) コクシジオイデス症 (33)ジカウイルス感染症
- (34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)(35)腎症候性出血熱 (36)西部ウマ脳炎 (37)ダニ媒介脳炎
- (38)炭疽 (39)チクングニア熱 (40)つつが虫病 (41)デング熱 (42)東部ウマ脳炎
- (43)鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)(44)ニパウイルス感染症
- (45)日本紅斑熱 (46)日本脳炎 (47)ハンタウイルス肺症候群 (48)Bウイルス病
- (49)鼻疽 (50)ブルセラ症 (51)ベネズエラウマ脳炎 (52)ヘンドラウイルス感染症
- (53)発しんチフス (54)ポツリヌス症 (55)マラリア (56)野兎病 (57)ライム病
- (58)リッサウイルス感染症 (59)リフトバレー熱 (60)類鼻疽 (61)レジオネラ症
- (62)レプトスピラ症 (63)ロッキー山紅斑熱

〔五類感染症〕

- (64)アmeerバ赤痢 (65)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)
- (66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

- (67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)
- (68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)
- (69)クリプトスポリジウム症 (70)クロイツフェルト・ヤコブ病
- (71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (72)後天性免疫不全症候群
- (73)ジアルジア症 (74)侵襲性インフルエンザ菌感染症
- (75)侵襲性髄膜炎菌感染症 (76)侵襲性肺炎球菌感染症
- (77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)
- (78)先天性風しん症候群 (79)梅毒 (80)播種性クリプトコックス症
- (81)破傷風 (82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
- (83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (84)百日咳 (85)風しん
- (86)麻しん (87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

[新型インフルエンザ等感染症]

- (113)新型インフルエンザ (114)再興型インフルエンザ
- (115)新型コロナウイルス感染症 (116)再興型新型コロナウイルス感染症

[指定感染症]

該当なし

2 定点把握の対象

[五類感染症]

- (88)RSウイルス感染症 (89)咽頭結膜熱
- (90)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
- (91) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (92) 感染性胃腸炎
- (93) 急性出血性結膜炎 (94) クラミジア肺炎(オウム病を除く。)
- (95) 細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
- (96) 新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)
- (97) 水痘 (98) 性器クラミジア感染症 (99) 性器ヘルペスウイルス感染症
- (100) 尖圭コンジローマ (101) 手足口病 (102) 伝染性紅斑 (103) 突発性発しん
- (104) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (105) ヘルパンギーナ
- (106) マイコプラズマ肺炎 (107) 無菌性髄膜炎
- (108) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (109) 薬剤耐性緑膿菌感染症
- (110) 流行性角結膜炎 (111) 流行性耳下腺炎 (112)淋菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症(定点)

(117)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3 法第14条第8項の規定に基づく把握の対象

(118)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものであって、当該感染症にかかった場合の病状の程度が重篤であるものが発生し、又は発生するおそれがあると判断し、都道府県知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第14条第8項に基づき届出を求めたもの。

第3条 実施主体

実施主体は大阪市とする。

第4条 実施体制

情報処理の総合的かつ円滑な推進を図るため、次の体制により実施する。

1 大阪市感染症情報センター

中央感染症情報センター(厚生労働省)との連絡調整を図るとともに、所管地域における患者情報及び病原体情報(検査情報を含む。以下同じ。)を収集し、全国情報と併せて、これらを速やかに保健福祉センター及び医師会等関係機関に提供・公開するため、大阪市感染症情報センターの機能を保健所感染症対策課に置く。

2 検査機関

本事業の検査機関は、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所(以下「大阪健康安全基盤研究所」という。)とする。

3 指定届出機関及び指定提出機関(定点)

全数把握の感染症以外の対象感染症については、患者及び当該感染症により死亡した者(法第14条第1項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。)の情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点を、また、患者の検体又は当該感染症の病原体(以下「検体等」という。)を収集するため病原体定点を、医師会等関係機関の協力のもとにそれぞれ大阪市内の医療機関の中から選定する。なお、法施行規則第7条の3に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

(1)患者定点

対象感染症の患者発生状況を地域的に把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案のうえ、厚生労働省の示す基準に準拠し、小児科定点、インフルエンザ/COVID-19定点、眼科定点、性感染症定点、基幹定点を設置するものとする。

(2)病原体定点

病原体の分離等検査情報を収集するため次の点に留意して医療機関の中から選定する。

ア 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

イ 小児科定点、インフルエンザ/COVID-19定点、及び眼科定点の各々について、概ね10%を病原体定点とする。なお、インフルエンザ/COVID-19定点の選定に当たっては、小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上をそれぞれ3定点

と2定点を下回らないように、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として選定する。

ウ 基幹定点は全て病原体定点とする。

(3)法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

疑似症の発生状況を把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案のうえ、厚生労働省の示す基準に準拠し、疑似症定点を設置するものとする。

なお、疑似症定点と疑似症定点以外の医療機関との連携体制をあらかじめ構築するよう取組み、疑似症の迅速かつ適切な把握に努める。

4 感染症発生動向調査委員会

事業の的確な運用を図るため、執行機関の附属機関に関する条例第1条及び大阪市感染症発生動向調査委員会規則の定めるところにより、小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、微生物学、疫学、獣医学、昆虫学等の専門家、保健所、地方衛生研究所の代表、地域の医師会の代表等で構成する「大阪市感染症発生動向調査委員会」を開催する。

第5条 実施方法

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86))新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

[調査単位及び実施方法]

(1)該当する患者等を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準に基づき直ちに届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、保健福祉センターに提出するものとする。届出を受けた保健福祉センターは、直ちに受け付けた届出の写しを保健所感染症対策課に報告する。また必要に応じて保健福祉センターは、患者等を診断した医師に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼する。

(2)保健所感染症対策課は、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて大阪健康安全基盤研究所と協議し、感染症の蔓延を防止するため特に必要と認める場合は、病原体検査を大阪健康安全基盤研究所に依頼する。

2 全数把握対象の五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)を除く。)

[調査単位及び実施方法]

(1)該当する患者等を届出基準等通知に基づき診断した医師は、別に定める基準に基づき診断後7日以内に届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、保健福祉センターに提出するものとする。該当する感染症の様式により届出を受けた保健福祉センターは、医師が診断してから7日以内に受け付けた届出の写しを保健所感染症対策課に報告する。また必要に応じて保健福祉センターは患者等を診断した医者に対して、病原体検査のた

めの検体又は病原体情報の提供について依頼する。

(2)保健所感染症対策課は、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて大阪健康安全基盤研究所と協議し、感染症の蔓延を防止するため特に必要と認める場合は、病原体検査を大阪健康安全基盤研究所に依頼する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1)調査単位等

ア 患者情報については、小児科定点、インフルエンザ/COVID-19定点、眼科定点及び基幹定点(週報対象感染症)においては、1週間(毎週月曜日から翌週日曜日)を調査単位とし、性感染症定点及び基幹定点(月報対象感染症)においては1ヶ月を単位とする。

イ 病原体情報については、大阪健康安全基盤研究所より、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

(2)患者定点

ア 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における別に定める報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

イ 患者定点として選定された医療機関は別に定める基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等の届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、保健所感染症対策課に提出するものとする。

(3)病原体定点

ア 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のための検体を採取し、別記様式の検査票を添えて、大阪健康安全基盤研究所へ送付する。

イ 小児科病原体定点の医療機関においては、第2条の(88)、(89)、(91)、(92)、(97)、(101)から(103)まで、(105)及び(111)を対象感染症とする。

ウ インフルエンザ病原体定点の医療機関(指定提出機関)においては、第2条の(90)を対象感染症とする。

エ 眼科病原体定点の医療機関においては、第2条の(93)及び(110)を対象感染症とする。

オ 基幹病原体定点の医療機関においては、第2条の(92)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(95)及び(107)を対象感染症とする。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

[調査単位及び実施方法]

(1)疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における届出基準等通知に基づく届出基準により、直ちに疑似症発生状況を把握し、原則として感染症サーベイランスシステムに入力により実施することとする。

(2)保健所感染症対策課は、疑似症定点において感染症サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似

症情報を、直ちに、感染症サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても把握し、保健福祉センター、指定届出機関、指定提出機関、その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

5 大阪市感染症情報センター

- (1) 管内の患者定点及び保健福祉センターから得られた患者情報を収集し、一類、二類、三類、四類感染症、五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症については直ちに、全数把握対象の五類感染症(第2条の(75)、(85)及び(86)を除く。)については保健福祉センターが届出を受けてから7日以内に、定点把握対象の五類感染症については調査単位が週単位の場合は調査対象週の翌週の火曜日まで、月単位の場合は調査対象月の翌月3日までに感染症サーベイランスシステムに入力し、登録情報の確認を行う。
- (2) 大阪市感染症情報センターは一類から五類までの感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び疑似症について、患者情報の収集及び分析を行う。
- (3) 発生動向調査で得られた、患者情報等の集計及び分析結果を速やかに、保健福祉センター、医師会、定点医療機関等の関係機関へ提供・公開する。

6 大阪健康安全基盤研究所

- (1) 大阪健康安全基盤研究所は、前記3-(3)により搬送された別記様式の検査票及び検体等を、別途定める病原体検査要領に基づき検査し、これを病原体情報として大阪市感染症情報センター及び中央感染症情報センターへ報告する。
- (2) 検査のうち大阪健康安全基盤研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて他の都道府県等又は国立感染症研究所へ検査依頼する。

第6条 積極的疫学調査

- 1 一類、二類、三類、四類、五類全数把握感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症が発生した場合、並びに五類定点把握感染症及び疑似症等に係る感染症発生動向調査において通常と異なる傾向が認められた場合は、個別の事例に応じ適切に判断し実施する。
- 2 調査を行う場合、関係者の理解と協力を得つつ、関係機関と密接な連携を図り、地域における詳細な流行状況や、感染症等の迅速な把握に努め、調査結果を厚生労働省及び関係自治体に報告する。

第7条 情報の保護

本事業を実施するため収集した情報のコンピュータ処理は、次の事項に留意するものとする。

- 1 コンピュータの総括的な管理とデータ保護の適正化を図るため管理責任者を置く。
- 2 コンピュータの管理責任者は、保健所感染症対策課保健主幹とする。
- 3 管理責任者は、本事業に関わりのある職員をコンピュータの操作者に充て、運用の面では専用パスワードの設定、操作員識別コードの使用により操作者を限定し情報の改ざん、流用等の防止をはかる。

4 コンピュータ処理されたデータの保管については、万全を期する。

第8条 情報の活用

収集分析された情報は、次のとおり活用する。

- 1 感染症発生動向調査事業への活用。
- 2 保健福祉センター、医療関係機関、その他必要関係機関への提供・公開。
- 3 市民への提供・公開。

第9条 その他

- 1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規に従い行うものとする。
- 2 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康局長が定めることとする。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成12年12月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成13年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成15年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成16年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成18年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成18年6月12日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成19年4月1日から実施する。

附 則（施行期日）

この要綱は、平成20年1月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成20年5月12日から実施する。

附 則

この要綱は、平成23年2月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成23年9月5日から実施する

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成25年3月4日から実施する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成25年5月6日から実施する。

附 則

この要綱は、平成26年7月26日から実施する。

附 則

この要綱は、平成26年9月19日から実施する。

附 則

この要綱は、平成27年1月21日から実施する

附 則

この要綱は、平成27年5月21日から実施する。

附 則

この要綱は、平成28年2月15日から実施する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成30年1月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成30年5月1日から実施する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和2年2月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和2年8月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和3年2月13日から実施する。

附 則

この要綱は、令和4年4月1日から実施する。

附 則

この要綱は、令和4年10月31日から実施する。

附 則

この要綱は、令和5年5月8日から実施する。

附 則

この要綱は、令和5年5月26日から実施する。

別記様式 検査票

大阪市感染症発生動向調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、執行機関の附属機関に関する条例（昭和28年大阪市条例第35号）第2条の規定により、大阪市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、委員15名以内で組織する。

2 委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、議事その他の会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(専門委員)

第5条 専門の事項を調査審議させるため必要があるときは、委員会に専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査審議が終了したときは、解嘱されるものとする。

(部会)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員会に部会を置くことができる。

2 部会は、委員長が指名する委員及び専門委員で組織する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから委員長が指名する。

4 部会長は、当該部会の会務を総理し、部会における調査審議の状況及び結果を委員会に報告する。

5 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(関係者の出席)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康局において処理する。

(施行の細目)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年1月1日から施行する。

大阪市感染症発生動向調査委員会運営要領

(趣旨)

第1条 この要領は、大阪市感染症発生動向調査委員会規則（平成25年大阪市規則第157号）第10条の規定に基づき、大阪市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定める。

(会議の公開)

第2条 委員会の会議は、公開するものとする。ただし、委員会が公開することが適当でないと認める事項の調査審議をするときは、この限りでない。

- 2 会議の公開は、会議の傍聴を認めることにより行う。
- 3 前項の規定による会議の傍聴に関し必要な事項は、別に定める。

(公開による会議の開催の周知)

第3条 委員会は、公開で行う会議の開催の周知を図るため、会議の開催日の1週間前までに、次の事項を記載した会議開催のお知らせを大阪市ホームページに掲載するとともに、市役所又は市関係公署の掲示場への掲示その他の方法により広く市民に周知する。ただし、会議を緊急に開催する必要があるときは、この限りでない。

- (1) 開催日時
- (2) 場所〔ウェブ会議（インターネットを通じて、委員の間で相互に映像及び音声の送受信、資料の共有等を行う方法をいう。以下同じ。）の方法により開催するときは、その旨〕
- (3) 議題
- (4) 傍聴者の定員
- (5) 傍聴手続
- (6) 問い合わせ先
- (7) その他必要な事項

(ウェブ会議の方法による会議の開催等)

第4条 委員会の委員は、委員長承認を得て、ウェブ会議の方法で委員会の会議に参加することができる。この場合において、当該委員は、ウェブ会議の方法による会議への参加をもって委員会の会議に出席したものとみなすものとする。

- 2 前項に定めるもののほか、第2条第1項ただし書の規定により委員会の会議を公開しない場合において、委員長が必要と認めるときは、当該会議をウェブ会議の方法により開催するものとする。

(会議録等)

第5条 委員会の会議録に記載する事項は、次のとおりとする。

- (1) 開催日時
- (2) 開催場所（前条第2項の規定によりウェブ会議の方法により開催したときは、その旨）
- (3) 出席者の職及び氏名
- (4) 前条第1項の規定によりウェブ会議の方法により会議に参加した委員があるときは、その旨
- (5) 議題
- (6) 議事の内容

(7) その他委員会が必要と認める事項

2 会議録等及び会議資料は、大阪市ホームページに掲載し、かつ、所定の場所において市民等の閲覧に供するものとする。

附 則

この要領は、令和3年5月18日から施行する。

大阪市感染症発生動向調査委員会委員

委員名	所 属
天羽 清子	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
改田 厚	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所
國吉 裕子	大阪市保健所
康 史朗	大阪市保健所
濱崎 考史	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院
福住 宗久	国立感染症研究所
古林 敬一	たによんスタートクリニック
水谷 哲	医療法人警和会 大阪警察病院
宮川 松剛	一般社団法人 大阪府医師会
森下 清文	医療法人 森下眼科
八木 啓子	勇村医院

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 北部	あさいこどもクリニック	534-0016	都島区友渕町2-1-5 ともぶちクリニック ^{ビル} 2階
	こおりやま小児科	534-0015	都島区善源寺町2-2-22 善源寺メディカルモール2階
	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	樋口医院	531-0062	北区長柄中1-6-6
	森川こどもクリニック	533-0032	東淀川区淡路2-16-6-101
	淀川キリスト教病院	533-0024	東淀川区柴島1-7-50
	前田こどもクリニック	533-0006	東淀川区上新庄2-15-18 旭丘ビル ^{ビル} 4階
	かよう内科・小児科	535-0021	旭区清水4-3-29
	大阪旭こども病院	535-0022	旭区新森4-13-17
	市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	医療法人はるなクリニック	532-0006	淀川区西三国1-3-13-302
	鈴木小児クリニック	532-0003	淀川区宮原4-4-2 新大阪グランドハイツ1F
	のだこどもクリニック	531-0074	北区本庄東1-1-10 ライズ88ビル1階
	北野病院	530-8480	北区扇町2-4-20
大阪市 西部	JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
	中央急病診療所	550-0013	西区新町4-10-13
	さかざきこどもクリニック	550-0027	西区九条1-27-6 住金興産九条ビル303
	多根総合病院	550-0025	西区九条南1-12-21
	日本生命病院	550-0006	西区江之子島2-1-54
	にいつクリニック	552-0023	港区港晴1-1-23
	大正病院	551-0002	大正区三軒家東5-5-16
	ひの小児科	554-0001	此花区高見2-13-3
	千船病院	555-0034	西淀川区福町3-2-39
	大塚医院	552-0012	港区市岡2-6-21

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市 東部	大阪赤十字病院	543-8555	天王寺区筆ヶ崎町5-30
	ひげのこどもクリニック	543-0042	天王寺区烏ヶ辻1-1-1 MIビル4階
	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	寺田町こども診療所	543-0045	天王寺区寺田町2-4-7 寺田町第2ビル2F
	川田医院	556-0006	浪速区日本橋東3-7-7 川田ビル1F
	寺口小児科クリニック	537-0014	東成区大今里西1-26-5 ロハスプラザ今里2階
	深江こどもクリニック	537-0013	東成区大今里南5丁目1-10 2階
	松本医院	544-0034	生野区桃谷2-19-20
	共和病院	544-0021	生野区勝山南4-16-10
	大阪府済生会野江病院	536-0001	城東区古市1-3-25
	福田クリニック	536-0008	城東区関目1-3-11
	にしじまファミリークリニック	536-0005	城東区中央2-13-19
	わかばこどもクリニック	536-0008	城東区関目5-16-19-101
	かめおかクリニック	538-0051	鶴見区諸口3-4-38
	田中小児科医院 たなかキッズクリニック	542-0012	中央区谷町6-14-23
大阪市 南部	大阪公立大医学部附属病院	545-8585	阿倍野区旭町1-5-7
	富吉医院	545-0042	阿倍野区丸山通1-3-46
	勇村医院	545-0021	阿倍野区阪南町5-25-17
	武田小児科医院	558-0041	住吉区南住吉2-14-19 平成ハイッ壺番館1階
	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	畑小児科	558-0003	住吉区長居3-9-3
	武知小児科・内科	546-0014	東住吉区鷹合2-17-4
	おうぎもと小児科	546-0003	東住吉区今川3-12-12 クリニックモール今川3F
	川合内科・小児科医院	546-0012	東住吉区中野4-5-18
	西成民主診療所	557-0034	西成区松2-1-7
	はまだ小児科	557-0042	西成区岸里東2-5-16
	藤山小児科医院	559-0024	住之江区新北島3-8-21 アネックス六兵衛三番街101
	大阪市立住之江診療所	559-0012	住之江区東加賀屋1-2-22
	矢木クリニック	559-0003	住之江区安立1-4-3
	長浦小児科	547-0046	平野区平野宮町1-6 メカ`ロコ`プ`ヒラ/1号棟1F
	長吉総合病院	547-0016	平野区長吉長原1-2-34
	にしかわこどもクリニック	547-0033	平野区平野西3-9-11
	井藤医院	547-0024	平野区瓜破2-1-65 ミタカホーム8番1F

感染症発生動向調査指定届出機関（内科定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	中尾医院	533-0022	東淀川区菅原5-7-11
	柴医院	535-0002	旭区大宮3-8-16
	市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	寺岡内科医院	532-0002	淀川区東三国6-19-8
	いんべ診療所	534-0001	都島区毛馬町1-8-4
大阪市西部	宮下医院	554-0013	此花区梅香3-22-14
	四ツ橋診療所	550-0013	西区新町1-22-9
	大塚医院	552-0012	港区市岡2-6-21
	本山診療所	551-0031	大正区泉尾1-2-19
	北野クリニック	555-0031	西淀川区出来島1-4-18
大阪市東部	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	徳田クリニック	556-0022	浪速区桜川2-11-28
	長田医院	537-0002	東成区深江南1-10-8 ピア・メゾン深江1F
	正木クリニック	544-0034	生野区桃谷2-18-9
	おのい深江橋診療所	536-0022	城東区永田4-11-14
	杉岡内科医院	538-0042	鶴見区今津中5-6-26
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	河南医院	558-0032	住吉区遠里小野1-12-9
	わたべクリニック	558-0056	住吉区万代東1-4-12
	田島医院	546-0042	東住吉区西今川1-6-16
	宮武医院	559-0024	住之江区新北島1-9-23
	長吉総合病院	547-0016	平野区长吉長原1-2-34
	いぬいクリニック	547-0021	平野区喜連東3-5-60
	鶴ヶ丘東診療所	545-0014	阿倍野区西田辺町2-9-8
	隅本医院	557-0053	西成区千本北2-32-35

感染症発生動向調査指定届出機関（眼科定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	春田眼科医院	533-0004	東淀川区小松1-10-38
	坂本眼科医院	535-0021	旭区清水3-2-9
	市立十三市民病院	532-0034	淀川区野中北2-12-27
	森下眼科	530-0041	北区天神橋5-6-13
大阪市西部	森山眼科医院	553-0005	福島区野田3-16-5
	はぶ眼科	555-0013	西淀川区千舟2-15-28
大阪市東部	第二大阪警察病院	543-8922	天王寺区鳥ヶ辻2-6-40
	脇本眼科	543-0014	天王寺区玉造元町2-4 トップス玉造3階
	沢井眼科	556-0006	浪速区日本橋東3-7-7 川田ビル2F
	黒田眼科	538-0042	鶴見区今津中5-1-33
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
	大手前病院	540-0008	中央区大手前1-5-34
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	杉浦眼科	546-0043	東住吉区駒川3-1-7
	マツシマ眼科クリニック	559-0013	住之江区御崎4-10-4 ｻﾝﾗｲｽﾞ 住之江公園1階
	吉田眼科医院	547-0034	平野区背戸口1-21-21 メゾン平野1階

感染症発生動向調査指定届出機関（性感染症定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	しおじレディースクリニック	533-0024	都島区東野田2-3-19 MFK京橋駅前ビル3F
	河島医院	533-0004	東淀川区小松2-5-2 米田ハイツ 2F
	こおりたクリニック	532-0002	淀川区東三国5-15-27
	大阪中央病院泌尿器科	530-0001	北区梅田3-3-30
	そねざき古林診療所	530-0057	北区曾根崎2-5-24 石見ビル3F
	さたクリニック	531-0062	北区長柄中1-5-16
大阪市西部	勝瀬クリニック	550-0027	西区九条1-12-3
	岸医院	552-0012	港区市岡1-1-20
大阪市東部	早川クリニック	542-0086	中央区西心斎橋1-4-5 御堂筋ビル5F
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
	こうむら女性クリニック	540-0033	中央区石町1-1-1 天満橋千代田ビル2号館2F
	内田皮膚科クリニック	542-0012	中央区谷町7-1-44 タンチエ谷町ビル 2F
大阪市南部	レディースクリニックさわだ	545-0052	阿倍野区阿倍野筋1-5-1-100
	なかがわレディースクリニック	558-0044	住吉区長峽町5-5
	原田皮フ科クリニック	546-0023	東住吉区矢田2-9-14 アセンドプラザビル3階
	北野 皮フ・泌尿器科	557-0042	西成区岸里東2丁目3番22号メディカル天神の森コットンビル5階
	小川産婦人科	547-0044	平野区平野本町2-6-32

感染症発生動向調査指定届出機関（基幹定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
大阪市西部	JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
大阪市東部	大阪赤十字病院	534-8555	天王寺区筆ヶ崎町5-30
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56

感染症発生動向調査指定届出機関（疑似症定点）

令和5年12月31日現在

ブロック名	医療機関名	郵便番号	所在地
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	534-0021	都島区都島本通2-13-22
	淀川キリスト教病院	533-0024	東淀川区柴島1-7-50
	北野病院	530-8480	北区扇町2-4-20
	大阪府済生会中津病院	530-0012	北区芝田2-10-39
大阪市西部	JCHO大阪病院	553-0003	福島区福島4-2-78
	日本生命病院	550-0006	西区江之子島2-1-54
大阪市東部	大阪警察病院	543-0035	天王寺区北山町10-31
	大阪医療センター	540-0006	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	大阪急性期・総合医療センター	558-8558	住吉区万代東3-1-56
	大阪公立大学医学部附属病院	545-8585	阿倍野区旭町1-5-7